

富谷市社会福祉協議会 第二期地域福祉活動推進計画

基本理念

心ふれあう

暮らしやすい

福祉のまちづくり

目 次

I 計画策定に寄せて

社会福祉法人 富谷市社会福祉協議会 会長 草野昭徳	1
地域福祉活動推進計画策定委員会 委員長 内ヶ崎清子	2
東北文化学園大学 医療福祉学部長 豊田正利	3
富谷市長 若生裕俊	4

II 計画策定にあたって

1 計画策定の概要について	5
2 計画の位置づけ	5
3 計画策定の目的	6
4 計画の期間	6
5 第二次計画策定方針	6
6 計画策定体制	7
富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画	8

III 富谷市第二期地域福祉活動推進計画（10年）

富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画体系図	9
基本理念・基本目標・基本計画（10年計画）一覧	10
実施計画 基本目標1～4	11

IV 富谷市第二期地域福祉活動推進計画（3年）

地域福祉推進体系図	15
基本目標1「住民参加による福祉のまちづくり」～たすけあい福祉活動の推進～	16
基本目標2「共に支え合う福祉のまちづくり」～地域連携・協働・ネットワークの促進～	20
基本目標3「安心して暮らせる福祉のまちづくり」～自立生活支援のための地域福祉～	24
基本目標4「安定した地域福祉のまちづくり」～社協の運営・組織の基礎体制整備～	27

V 資料編

社協計画活動報告（策定委員会用）	31
第1回地域福祉フォーラムチラシ・風景・開催要項	42
第1回地域福祉フォーラム	49
地域福祉って？～社会福祉協議会から見る地域の現状と今後の課題～	53
第1分科会 住民参加による福祉のまちづくり	58
第2分科会 共に支え合う福祉のまちづくり	61
第3分科会 安心して暮らせる福祉のまちづくり～福祉サービス～	63
第4分科会 安定した地域福祉のまちづくり（礎）	69
分科会 まとめ	72
アンケート調査・集計表	79
会議報告書・風景	87
実施計画事業評価体系図	108
諮問文	109
答申文	110
策定委員会設置要綱	111
策定委員会委員名簿	113
策定委員会日程	114
用語解説	115

I 計画策定によせて

地域福祉活動推進計画第二次計画策定にあたって

社会福祉法人 富谷市社会福祉協議会

会 長 草 野 昭 徳



急速な少子高齢化の進展や核家族化等に伴い、誰もが孤立することなく安心して暮らせる仕組みづくりがますます重要となっています。また、支援を必要とするにも関わらず、近隣住民との人間関係の希薄等により適切に福祉サービスを受けることができない人々への支援にどう取り組むか、そして地域での支え合いをさらに充実していくため、年齢や障がいの有無に関係なく集い、交流できる地域の居場所の充実もこれからの地域福祉に求められています。

本協議会では、平成20年4月に「地域福祉活動推進計画」を策定し、関係機関と一層の連携を図りながら多くの事業を推進してまいりました。

このたびの第2次計画を策定するにあたりましては、地域の皆様からのご意見も本計画に反映することを目的に地域福祉フォーラムや福祉座談会を開催させていただきました。第2次計画では、第1次計画での基本理念並びに基本目標を引き継ぎ推進するとともに、新たな取組も掲げております。「地域での居場所づくり」や「福祉にかかわる人材育成」等をより一層前に進めてまいります。

また、計画策定に関わっていただいた方々の想いを実現していくためにも、より多くの方々に本計画を周知し、皆様と共に地域福祉活動を盛り上げていきたいと考えておりますので、さらなるご協力ご支援をお願い申し上げます。

結びになりますが、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会の委員をはじめ、地域福祉フォーラムや福祉座談会にご協力いただきました多くの市民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

地域福祉活動推進計画第二次計画策定にあたって

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会

委員長 内ヶ崎 清子



これまで、富谷市社会福祉協議会では、「地域福祉活動推進計画」（平成20年度～平成29年度）に基づき、「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」を基本理念とした活動を進めてきました。

当協議会においては、平成29年度に富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画について策定委員会を組織し、事業展開を行い、「地域福祉フォーラム」や「福祉座談会」を経て、住民の福祉課題の把握に努め、社会福祉協議会の進むべき方向性となる今後10年間の指針を策定いたしました。

これまでの取り組みの成果と課題をふまえ、地域福祉活動計画は「住民による住民のための計画である」という本来の趣旨に立ち返り、委員それぞれの立場から、「地域での課題は何か」「どんなことに取り組んでいくべきか」など活発な議論が交わされました。そして、これまでの計画の基本理念や目指す方向性は継承しつつも、地域のために社協ができることについて、ひとつの方向性として打ち出されたのが今回の計画であります。

今後も地域の一人一人が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティを形成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らせる社会の実現を目指してまいりますので、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

むすびに、精力的に協議いただいた委員の皆様、そして資料作成など、お世話をいただきました事務局の皆様から感謝申し上げます。

第2期地域福祉活動推進計画策定に寄せて

東北文化学園大学

医療福祉学部長 豊田正利



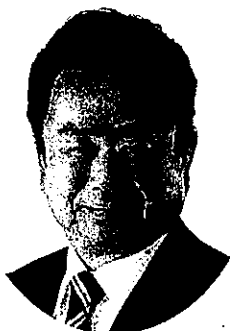
2010（平成22）年度に富谷町地域福祉活動推進計画策定委員会の委員として委嘱を受けてから、振り返ればこれまでの3期8年間、計画策定に関わる機会をいただいていたことになりま

す。

今回の取り組みの特徴は、従来の郵送型のアンケート調査だけではなく、「第1回富谷市社会福祉協議会地域福祉フォーラム」という初の試みをとおして、たくさんの参加者の皆様から直接ご意見をお聞きして計画の内容に反映させることができたことだと思います。

富谷市社会福祉協議会草野昭徳会長様の地域福祉に懸ける崇高な理念、内ヶ崎清子委員長様をはじめとする盤石の計画策定委員会体制、事務局職員の皆様による熱心な取り組み、そして多くの市民の参画によって、とても素晴らしい第2期地域福祉活動推進計画が完成しました。様々な願いや期待が込められたこの計画が、「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」に向けた確かな羅針盤となるよう心より祈念しつつ、感謝の言葉に代えさせていただきます。

第二期地域福祉活動推進計画策定によせて



富谷市長 若 生 裕 俊

富谷市社会福祉協議会の日頃の活動に敬意と感謝を申し上げます。

この度、社会福祉協議会の活動指針となります「第二期地域福祉活動推進計画」が策定されましたことは、介護保険法や障害者総合支援法などの公的制度で対応しきれないきめ細やかな福祉事業が更に充実するものと大いに期待いたします。

殊に、ボランティアセンターの再構築や市民の主体性・自発性を育む地域コミュニティづくりの展開、福祉活動支援ネットワークの構築等、具体的な計画は、市民の皆さんの社会福祉協議会活動への理解が進み、基本理念である「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」につながるものと思います。

富谷市といたしましても、教育や福祉の充実、産業振興、市民協働などを柱に「住みたくなるまち日本一」の実現に向け、市民の皆さんと確かな歩みを進めておりますので、更なる推進にご支援をお願い申し上げます。

むすびに、富谷市社会福祉協議会ならびに地域福祉活動推進計画策定委員をはじめ、策定にご協力いただきました皆様に心から敬意を表しますと共に、富谷市の地域福祉推進になお一層のご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。

Ⅱ 計画策定にあたって

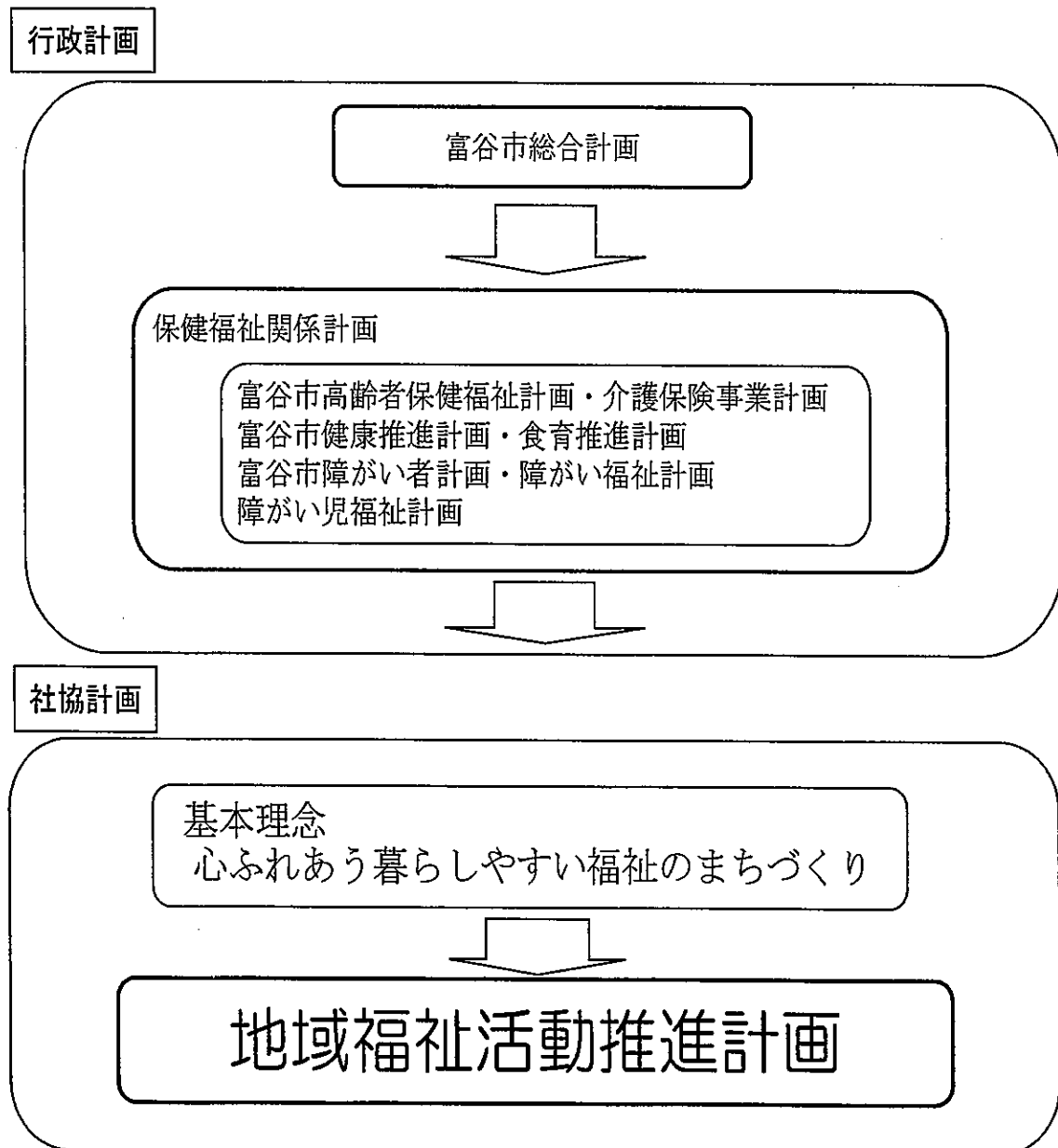
1 計画策定の概要について

少子高齢化、住民意識の多様化等による生活様態の変化に伴い、福祉環境も大きく変化してきています。私たちが生活している地域では、住民同士の連帯感の低下や家族間のつながりの希薄化、地域コミュニティの弱体化などに伴い、複雑で多様な課題を抱える人々が増加し、縦割り・個別対応のみでは困難な事例が多く、包括的な支援体制が必要となっています。

このような中で、社会福祉法人富谷市社会福祉協議会は、基盤の強化を図りながら、地域住民の自発的な福祉活動を促進するため、人間尊重を基本として、将来の社会を担う子供達の健全育成を図るとともに、高齢者や障害者等が住み慣れた家庭や地域の中にあつて、温かい心のふれあいを保ちながら、生きがいのある暮らしができるような、一生涯にわたる地域福祉の実現を目指して、富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画（以下「地域福祉活動推進計画」とする。）を策定します。

2 計画の位置づけ

計画策定にあたっては、以下の行政が策定している計画と連携・協働のもと、社会福祉協議会の目指すべき目標と方向性を明らかにしたものとする。



3 計画策定の目的

- (1) 長期的展望に立って富谷市社会福祉協議会としての基本理念を示す。
- (2) 当面する課題について段階的な計画の策定と実践活動を進める。
- (3) 住民の福祉ニーズが多様化している中、現状を把握し、基盤を整備する。

4 計画の期間

(1) 検討期間及び計画期間

検討期間 平成29年7月 ～ 平成30年3月（9ヶ月）
 計画期間 平成30年度 ～ 平成39年度（10年）

(2) 計画の構成

地域福祉活動推進計画の基本理念と基本目標を基にした基本計画と短期の事業実施についての実施計画とからなります。基本理念・基本目標・基本計画は10年間を目標年次とし、実施計画は3年を区切りの期間として設定し、3年ごとに行政計画との整合性や見直しを行い、最終年度は、10年間の見直しを行い、新たな地域福祉活動推進計画（第3次）の検討・策定作業に入るものとする。

前期：平成30年度～平成32年度（3年）
 中期：平成33年度～平成35年度（3年）
 後期：平成36年度～平成39年度（4年）

30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度

5 第二次計画策定方針

- (1) 策定は、平成29年7月4日から平成30年3月を目標に完了してください。
- (2) 地域の概要と特性を明らかにし、現在、富谷市社会福祉協議会で実施している事業サービスの見直し作業を行い、現状分析と課題を明確化し、今後、社協事業を推進していくためにどのような考え方で取り組むかを明らかにすること。
- (3) 策定は、第二期計画の策定を行うものとし、長期目標である基本理念・基本目標に加え、平成30年度～平成32年度までの後期実施計画（3年）の策定をする事。
 実施計画期間 前期：平成30年度～平成32年度（3年）
- (4) 計画には、広く地域住民の意見を取り入れたものが望ましいため、策定時にはその点も視野に入れながら行うこと。
- (5) 計画を具現化する場合、財政的裏付けをよく考慮しながら策定作業を進めること。

6 計画策定体制

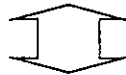
本計画の策定にあたっては、地域住民、各種団体の代表者、行政関係者などで構成する「地域福祉活動推進計画策定委員会」を設置し、地域福祉の推進に向けた意見を頂きました。さらに、地域住民の幅広い意見を計画に反映させる意味合いから、「地域福祉フォーラム」や「住民座談会」、「アンケート調査」等を行い、地域の福祉ニーズの把握に努めました。

富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画

30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
基本理念・基本目標・基本計画（10年） （平成30年度～平成39年度）									
前期実施計画（30年度～32年度）			見直し策定 中期実施計画（33年度～35年度）			見直し策定 後期実施計画（36年度～39年度）			
見直し策定									

☆基本理念

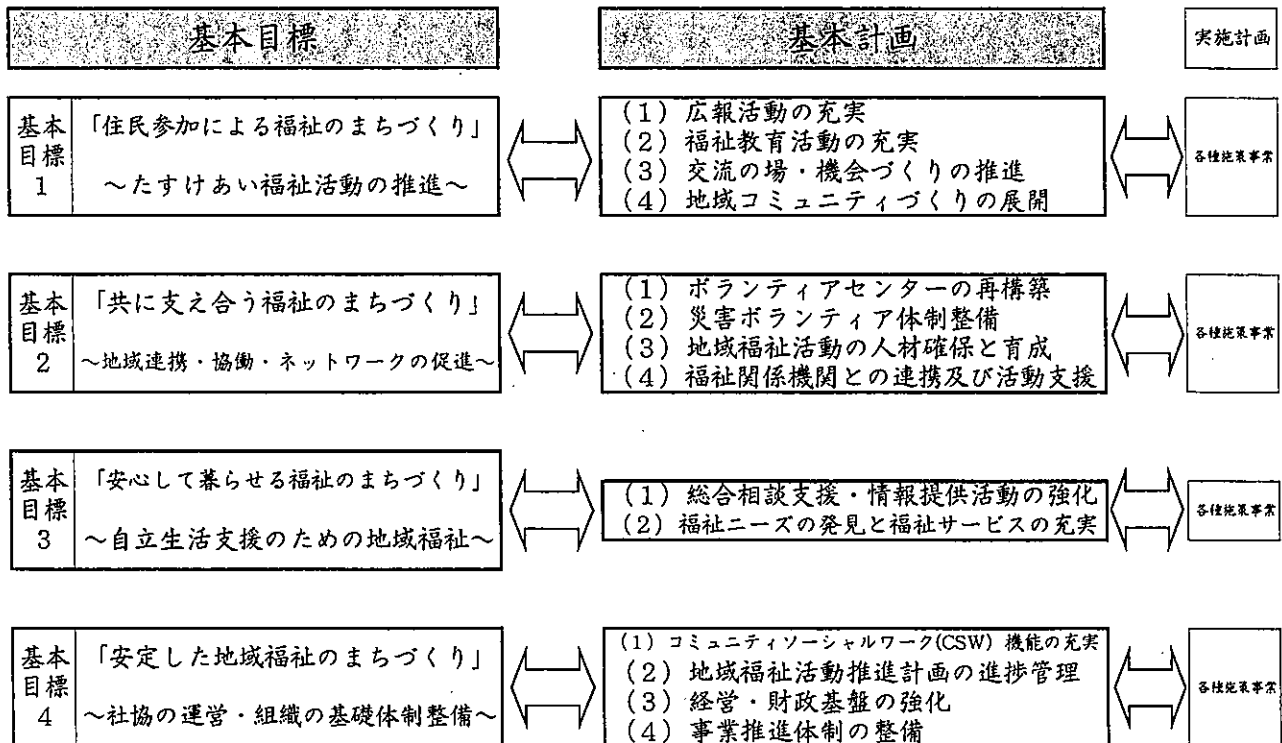
地域福祉活動推進計画は、平成30年度を第二期初年度とし、10年後の平成39年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。



「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」

☆基本目標・基本計画

基本目標・基本計画は、基本理念に定められた将来像を実現する為に、必要な諸施策を体系的に明らかにしたものです。



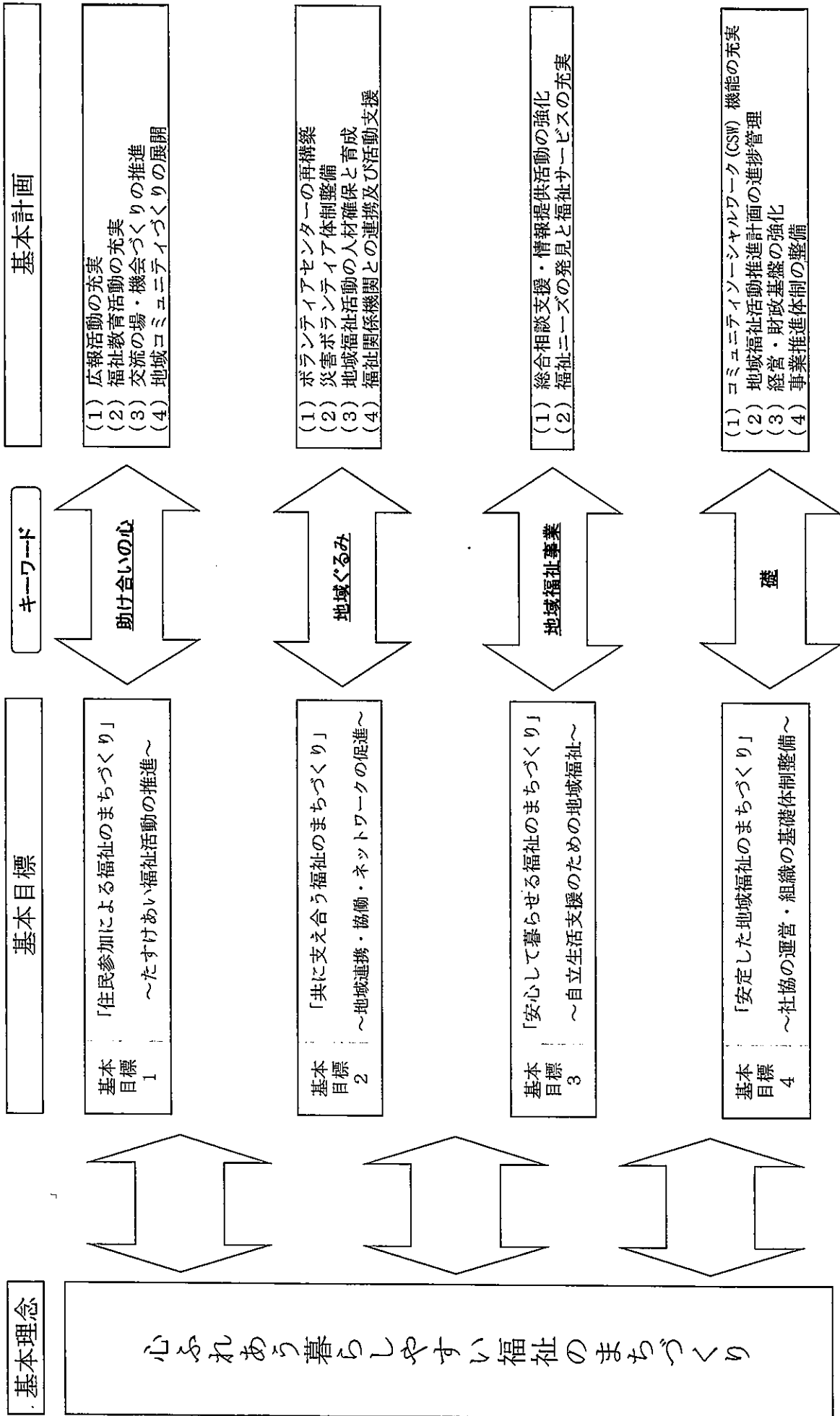
☆実施計画

実施計画は、基本目標・基本計画の施策を受けて、短期的に実施すべき施策事業等を定めたもので、前期・中期・後期と定期的な見直しを図りながら展開していくものです。

Ⅲ 富谷市社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

基本理念・目標・計画（10年）
（平成30年度～平成39年度）

富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画体系図



富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画
 基本理念・基本目標・基本計画（10年計画）一覧

基本理念	「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」
------	-----------------------

番号	種別	項目
1	基本目標	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
	基本計画	① 広報活動の充実 ② 福祉教育活動の充実 ③ 交流の場・機会づくりの推進 ④ 地域コミュニティづくりの展開
2	基本目標	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
	基本計画	① ボランティアセンターの再構築 ② 災害ボランティア体制整備 ③ 地域福祉活動の人材確保と育成 ④ 福祉関係機関との連携及び活動支援
3	基本目標	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
	基本計画	① 総合相談支援・情報提供活動の強化 ② 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
4	基本目標	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備
	基本計画	① コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の充実 ② 地域福祉活動推進計画の進捗管理 ③ 経営・財政基盤の強化 ④ 事業推進体制の整備

富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

第2期前期実施計画

基本目標 1	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
--------	----------------------------------

第2期前期実施計画（平成30年度～平成32年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 広報活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① 多様な広報活動の展開 ② 社協福祉座談会の実施
2	基本計画	(2) 福祉教育活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① 少子高齢社会の理解と福祉の心の醸成 ② 地域で福祉学習が出来る場づくり
3	基本計画	(3) 交流の場・機会づくりの推進
	実施計画 (具体的展開)	① 高齢者交流事業の支援 ② 障害者交流事業の支援 ③ 子育て支援事業の支援 ④ 世代を超えた交流事業の展開
4	基本計画	(4) 地域コミュニティづくりの展開
	実施計画 (具体的展開)	① 地域での居場所づくりの支援 ② ゆとりすとクラブ・サロン等の支援 ③ 企業等との地域福祉事業の協働・連携

富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

第2期前期実施計画

基本目標 2	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
--------	--------------------------------------

第2期前期実施計画（平成30年度～平成32年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) ボランティアセンターの再構築
	実施計画 (具体的展開)	① ボランティア枠組みの構築 ② ボランティアの普及啓発 ③ ボランティアの育成 ④ ボランティア総合相談体制の整備
2	基本計画	(2) 災害ボランティア体制整備
	実施計画 (具体的展開)	① 自助・互助・共助・公助による防災意識の向上 ② 災害時助け合いネットワークの充実
3	基本計画	(3) 地域福祉活動の人材確保と育成
	実施計画 (具体的展開)	① 地域福祉活動への幅広い担い手づくり ② 地域福祉活動への協働・連携・支援 ③ 多様な組織・団体等とのネットワークの構築
4	基本計画	(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援
	実施計画 (具体的展開)	① 福祉関係団体の活動支援 ② 行政との連携・協力 ③ 共同募金事業との連携・協力

富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

第2期前期実施計画

基本目標 3	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
--------	-------------------------------------

第2期前期実施計画（平成30年度～平成32年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化
	実施計画 (具体的展開)	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談体制の充実強化 ② 権利擁護センターの機能拡充 ③ 各種資金貸付事業の実施
2	基本計画	(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
	実施計画 (具体的展開)	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者支援事業の実施 ② 障害者支援事業の実施 ③ ファミリー・サポート支援事業の実施 ④ 交通弱者の為の外出支援の調査検討 ⑤ 富谷市指定管理制度の継続事業運営

富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

第2期前期実施計画

基本目標 4	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～
--------	------------------------------------

第2期前期実施計画（平成30年度～平成32年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) コミュニティソーシャルワーク (CSW) 機能の充実
	実施計画 (具体的展開)	① コミュニティソーシャルワーカーの資質向上 ② スキルアップ研修会への参加
2	基本計画	(2) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
	実施計画 (具体的展開)	① 富谷市社協地域福祉フォーラムの開催
3	基本計画	(3) 経営・財政基盤の強化
	実施計画 (具体的展開)	① 社会福祉協議会会員会費制度への理解協力 ② 社会福祉協議会自主事業の調査検討
4	基本計画	(4) 事業推進体制の整備
	実施計画 (具体的展開)	① 総合的な企画運営の推進 ② 理事会・評議員会・監査会等の機能強化

IV 富谷市社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

実施計画（3年）
（平成30年度～平成32年度）

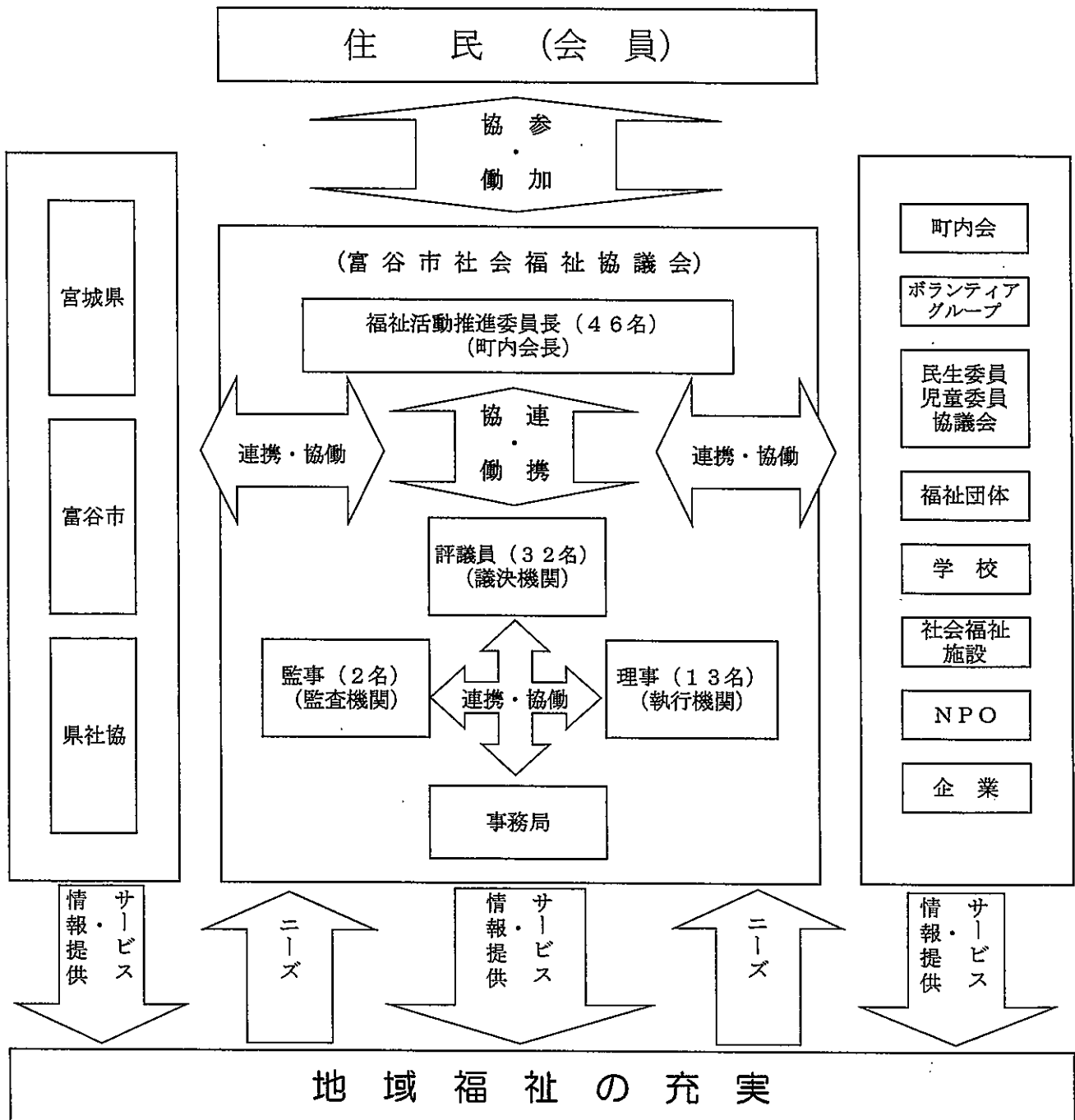
富谷市社会福祉協議会第二期地域福祉活動推進計画

30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
実施計画（3年） ←（前期）→			実施計画（3年） ←（中期）→			実施計画（4年） ←（後期）→			

☆実施計画

実施計画は、基本目標・基本計画の施策を受けて、向こう3年の実施すべき施策事業等を定めたものであり、前期・中期・後期と定期的な見直しを図りながら展開していくものです。

地域福祉推進体系図

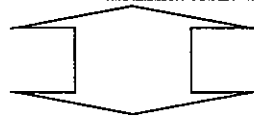


基本目標 1 (平成30年度～平成39年度)

「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～

基本計画 (平成30年度～平成39年度)

- (1) 広報活動の充実
 - ・社協事業を知ってもらうために、事業や社会資源、福祉活動のノウハウなど、住民が求める情報を、社協だよりやホームページまたはSNS等で発信し、住民の多様な情報共有の一助となるよう努めます。
- (2) 福祉教育活動の充実
 - ・児童、生徒が地域福祉に関心を持ち、異世代の理解や障害者への理解など市民総ボランティアの心の育成を図ります。
 - ・学校を社会資源（地域福祉の理解者・支援者）として捉え、学校と地域（PTA等）が連携して福祉教育やその担い手づくりができるような環境づくりを支援します。
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
 - ・地域コミュニティの輪が広がるように、ふれあいの場・機会（きっかけづくり）を提供し、住民同士の交流・情報交換が図れるよう支援します。
- (4) 地域コミュニティづくりの展開
 - ・本市は、人口構成や居住年数等の地区特性が多様な市であります。このため、住民の日常生活エリアごとの小地域活動の支援や、地域の社会資源を活用しての事業検討を行います。



第1期後期実施計画内容及び評価・課題 (H26～H29)

第2期前期実施計画内容及び事業 (H30～H32)

(1) 広報活動の充実

① 多様な広報活動の展開 (広報誌・HP・SNS等)

目標
 ・地域の様々な情報を集めて整理し、より多くの住民に必要な福祉情報が届くよう配慮し、地域生活に密着した広報誌を作ります。

・住民の方々に新しい情報を届けられるよう心がけ、社協事業や活動紹介等を行います。

事業名
 ○社協だより ○ホームページ・ブログ更新

評価・課題
 ・社協広報誌の内容の充実
 ・広報以外のPRの必要性

目標
 ・地域に様々な情報を集めて整理し、より多くの住民に必要な福祉情報が届くよう配慮し、地域生活に密着した広報誌を作ります。

・住民の方々に新しい情報や地域の福祉ニーズを踏まえた活動を届けられるよう心がけ、社協事業や活動紹介等を行います。

・多様な情報を活用した情報体制を検討します。

事業名
 ○社協だより ○ホームページ・ブログ更新
 ○新たな情報体制の検討

② 社協福祉座談会の実施

目標
 ・住民の方々が社協に対して、どのような印象や意見を持っているかを把握するために、定期的に福祉座談会を開催します。

事業名
 ○福祉座談会

評価・課題
 ・社協の活動内容の理解不足

目標
 ・住民の方々が社協に対して、どのような印象や意見を持っているかを把握するとともに、住民が抱える様々な課題や地域の情報を把握し、今後の社協事業の展開につなげるため、福祉座談会を年に2地域を目途として開催します。

事業名
 ○社協福祉座談会

(2) 福祉教育活動の充実

① 少子高齢社会の理解と福祉の心の醸成

目標
 ・少子高齢化を迎え、小・中・高等学校と協議・連携し、「福祉の心」を大きく育むことができるよう、社協としての福祉教育メニューの充実を図ります。

・地域や施設団体等と連携し、実践や体験を通した福祉教育の展開に取り組みます。

事業名

- 福祉教育推進会議
- 福祉体験実習
- 夏休み福祉体験教室
- 福祉教育事業補助金

評価・課題

- ・地域活動への児童、生徒の参画
- ・学校側の福祉教育事業の一層の理解及び推進

目標

・少子高齢社会を迎え、小・中・高等学校と協議・連携し、「福祉の心」を大きく育むことができるよう、社協としての福祉教育メニューの充実を図ります。

・地域の社会福祉問題への関心と理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指します。

事業名

- 福祉教育推進会議
- 福祉体験実習
- 夏休み福祉体験教室
- 福祉教育事業補助金
- 地域福祉出前講座

② 地域で福祉学習が出来る場づくり

目標
 ・若年層から地域活動に目を向けられるよう、身近にできるボランティア活動や体験の中で取り組みにつなげられるきっかけづくりとなるよう事業展開を図ります。

事業名

- こども富谷福祉塾
- 社協福祉サポーター情報交換会

評価・課題

- ・福祉教育の担い手不足
- ・福祉教育の相互理解

目標

・身近にできる「ボランティア体験」を通して、実際にボランティア活動に取り組むきっかけづくりとなるよう事業展開を図り、地域活動に目を向けられるようにします。

・福祉教育の関係者（学校・PTA等）を対象とした情報交換を開催し、児童生徒の福祉教育活動の一助となるように努めます。

事業名

- こども富谷福祉塾
- 社協福祉サポーター情報交換会
- 福祉教育関係者情報交換会

(3) 交流の場・機会づくりの推進

① 高齢者交流事業の支援

目標
 ・高齢者が地域でいきいきと生活できるよう支援すると共に、関係機関と連携しながら、社協独自の交流事業等（二人暮らし交流会）への周知声かけを行い、仲間づくりのきっかけとなるよう事業推進に努めます。

事業名

- さわやか交流会

評価・課題

- ・新たな高齢者交流事業の検討

目標

・地域や関係機関と連携しながら、事業の展開を図り、高齢者が（誰もが）地域でいきいきと生活できるようなコミュニティ構築の一翼を担います。

事業名

- （高齢者交流事業）新規事業

② 障害者交流事業の支援

目標
 ・障害者団体間での交流促進と仲間づくりを支援しながら、福祉関係団体との連携に努めます。

事業名

- ステップアップフェスタ（三団体交流会）

評価・課題

- ・市民への周知啓発
- ・三団体間の協働、連携

目標

・障害者団体間や家族間での交流促進と仲間づくりを支援（きっかけづくり）しながら、福祉関係団体との連携及びニーズの共有に努めます。

事業名

- ステップアップフェスタ（三団体交流会）

③ 子育て支援事業の実施

目標
 ・子育てサロン「とことこ」のサポーターの自主的な活動の支援を行うよう努めます。

・富谷町と連携しながら、ファミリーサポートセンター事業及び育児ヘルプサービス事業の充実に努めます。

事業名
 ○子育てサロン「とことこ」

評価・課題
 ・地域の子育て支援団体との連携協働
 ・企業とのタイアップ

目標
 ・地域の施設等を活用し、子育てサロンを実施します。併せて、サロン活動を支援していただくサポーターの育成を図ります。

・子育て世代のニーズ把握に努め、市と協働・連携し、企業とのタイアップも視野に新たな事業展開を検討します。

事業名
 ○子育てサロン「とことこ」
 ○（子育て支援事業）新規事業

④ 世代を超えた交流事業の展開

目標
 ・誰もが支え合う地域づくりを目指し、世代を超えた福祉事業の展開を行います。

・地域の社会資源（保育園・小学校・市役所等）が身近にある優位性を活かしながら、関係機関と連携した事業を行います。

事業名
 ○異世代交流事業

(4) 地域コミュニティづくりの展開

① 地域での居場所づくりの支援

目標
 ・地域コミュニティを構成する上で、重要なパートナーとなり得る、社会資源（企業・学校等）の把握に努めます。

・同じ福祉ニーズは共有するなどしながら、地域での支え合い活動の展開に努めます。

評価・課題
 ・近くで外出できる場所やおしゃべりできる仲間づくり
 ・人と人がつながりを感じる居場所づくり

目標
 ・高齢者の居場所づくりやサロン活動等、交流の場を通して、地域に暮らす高齢者の健康増進・介護予防に努めるとともに、生活支援ニーズの把握に努めます。

・全ての人々が集えるような、サロン活動等の地域コミュニティ活動を支援します。

・市内の社会資源を把握し、地域住民にとって有効な活用ができるように検討します。

・互助、共助活動に必要な「人・もの・お金・情報・資源」等の必要な支援を行います。

事業名
 ○街かどカフェ ○どんぐりの森活動



社協が地域に出向き、福祉座談会



世代を超えての交流（とことこ富谷福祉塾）

② ゆとりすとクラブ・サロン等の支援

目標

・地域で実施しているゆとりすとクラブ・サロン活動に社協としても支援しながら、メンバー・サポーターの方々と地域課題を共有する場づくりを推進します。

事業名

- 地域サポーター養成研修 基礎編・実践編
- ゆとりすとクラブ・サロンサポーター研修
- 社協支援対象ゆとりすとクラブ・サロン
- ゆとりすとクラブ・サロン団体助成金

評価・課題

- ・社協職員の専門性を活かした支援
- ・メンバー、サポーターとの地域課題の共有

目標

・地域で実施しているゆとりすとクラブ・サロン活動を支援しながら、メンバー・地域サポーターと地域特性を踏まえた活動を推進します。

・社協職員の専門性を活かし、地域福祉の事業展開の支援に努めます。

事業名

- 地域サポーター養成研修
- ゆとりすとクラブ・サロンサポーター交流会
- ゆとりすとクラブ・サロン後方支援 (相談・助言・助成等)

③ 企業等との地域福祉事業の協働・連携

目標

・地域福祉活動実践者の交流機会を確保し、情報交換や連携づくりを支援します。

・同じ福祉ニーズをもつ人たちが相互に連帯しあい、課題解決に向けた検討や行動を共に行えるような場・組織づくりを支援します。

評価・課題

- ・企業の地域貢献活動の把握
- ・特別会員企業との協働関係不足

目標

・企業・学校・福祉事業所等との連携に努め、地域コミュニティの構築を推進します。

・企業（特別会員・賛助会員）と連携協働しながら、災害・防災事業ボランティア事業等を行います。

事業名

- 各種研修会・講座（社協・企業連携）



安心して楽しいひとときを（とことこ）



地域ごとのメニューがもりだくさん
（ゆとりすとクラブ・サロン）



地域活動のヒントがここに
（ボランティアセンター情報交換会）



子どもは地域の宝です（成田中防災ささえ隊）

基本目標 2 (平成30年度～平成39年度)

「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～

基本計画 (平成30年度～平成39年度)

(1) ボランティアセンターの再構築

・地域の支え合う関係やつながりの再構築を基盤にしながら、多様な主体が協働して、地域課題・生活課題解決を目指したボランティアセンターの運営を目指します。

・市民の方が気軽にボランティア相談・登録できるような体制整備を含めたセンターの枠組みについて再検討します。

(2) 災害ボランティア体制整備

・災害に備えて、市と連携をしながら自己防災の普及に努めます。

・各町内会での防災訓練等に参加し、市民個人々の防災意識の向上と共に減災に関する取り組みを協働で行います。

(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

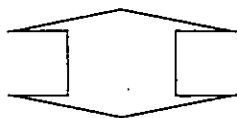
・地域協働で福祉活動を進めるために地域福祉を担う人材の養成・育成に取り組んでいきます。

・地域活動を行う上で必要な「人・もの・お金・情報・資源」の発掘を行っていきます。

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

・関係機関の機能と役割を考慮しながら連携を密にし、地域福祉サービスの充実に努めます。

・福祉関係団体の主体性に配慮しながら、その活動を支援しながら、ネットワーク促進に努めていきます。



第1期後期実施計画内容及び評価・課題 (H26～H29)

第2期前期実施計画内容及び事業 (H30～H32)

(1) ボランティアセンターの再構築

① ボランティア枠組みの構築

目標

・ボランティア活動に関する問い合わせや相談、活動の斡旋を行うボランティアセンターの機能強化に努めながら、新しいボランティア登録者の推進に努めます。

・登録者を安心してボランティア活動につなげられるようボランティアの基本的な知識や活動の保険のご案内など活動における環境整備を行います。

・行政や福祉施設等の関係機関との連携を強化し、地域でのイベント等に積極的に参画できるよう支援します。

事業名

- ボランティアセンター登録
- ボランティアセンター保険加入
- ボランティアセンター運営委員会

評価・課題

- ・活動者を循環していく仕組みづくり
- ・多少の謝礼・特典についての検討

目標

・地域において社協ボランティアセンターが果たしてきた役割を再確認するとともに、地域のまちづくりを担う様々な活動にも目を向けるために、地域のボランティアのみならず「まちづくり」に関係する地域住民や組織・団体等の協働を目指します。

・分野別、世代別や新しいボランティア登録者の推進等、ボランティアセンターの機能強化に努めながら、ボランティアニーズを踏まえた枠組みを再構築します。

・有償ボランティアやボランティアポイント等、ニーズに合わせた多様なボランティア体制のあり方について検討を進めます。

事業名

- ボランティアセンター登録
- ボランティアセンター運営委員会
- 新たなボランティア分野の開拓

② ボランティアの普及啓発

目標
 ・ボランティアしたい人、してほしい人双方のニーズを的確に把握し、人材をつなぐことができるような相談・環境づくりに努めます。

事業名
 ボランティア情報ブログ・ホームページ更新
 広報ボラセンたより ボランティア相談受付

評価・課題
 ・幅広い情報伝達方法の構築
 ・広報誌以外の情報発信の検討

目標
 ・地域の社会資源や企業の社会貢献、福祉教育等の把握と連携に努めます。

・地域の新しいニーズをキャッチして情報発信に取り組み、市民の方々がボランティア活動に関心を持つことができるよう努めます。

事業名
 企業地域活動の把握
 ボランティアブログ・ホームページ更新
 広報ボラセンたより
 ボランティア相談窓口
 ボランティアセンターSNS

③ ボランティアの育成

目標

事業名

評価・課題

目標
 ・地域課題、生活課題を住民とともに解決することを目指し、地域で活躍できる多様な人材の育成を図ります。

・生活支援サービスとの連携を図りながら、様々な世代のボランティア活動への参加の促進や人材の掘り起こしを行います。

事業名
 各種ボランティア養成講座
 生活支援員養成講座

④ ボランティア総合相談体制の整備

目標
 ・ボランティアしたい人、してほしい人双方のニーズを的確に把握し、人材をつなぐことができるような相談・環境づくりに努めます。

事業名
 ボランティア活動調整
 ボランティア関連相談

評価・課題
 ・活動ニーズがマッチングしない
 ・地域の実情把握

目標
 ・ボランティアの担い手・受け手双方のニーズを的確に把握し、ボランティア活動が円滑に行われるような相談・環境づくりに努めます。

事業名
 ボランティア活動調整
 ボランティア窓口相談

(2) 災害ボランティア体制整備

① 自助・互助・共助・公助による防災意識の向上

目標
 ・町内会での防災訓練等に参加し、防災・減災に対する取り組みを共有しながら、日頃から災害への意識を高める活動を行い、地域での助け合い・支えあい活動のより一層の支援に努めます。

事業名
 社協出前講座（防災訓練協力支援）

評価・課題
 ・各町内会への出前講座の周知徹底
 ・防災活動への意識啓発

目標
 ・町内会での防災訓練等に参加し、防災・減災に対する取り組みを共有しながら、日頃から災害への意識を高める活動を行い、地域での助け合い・支えあい活動のより一層の支援に努めます。

事業名
 社協出前講座
 防災訓練協力支援

② 災害時助け合いネットワークの充実

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富谷市や広域社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの体制整備に係る事業展開に努めるとともに、地域住民の方々に対しての災害ボランティアセンターの取り組みを知っていただくような啓発事業を行います。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台都市圏域等市町村社協災害ボランティアセンターの相互支援に関する協定 ○災害ボランティアセンタースタッフ養成講座 <p>評価・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣社協及び関係機関との連携強化 ・平常時からの支え合い・助け合い活動の推進

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富谷市や近隣社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの体制整備や平常時から地域住民の方々に対して支え合い・助け合い活動の取り組みの促進を行います。 ・富谷市と連携しながら、大規模災害時における医療救護体制について、消防署等との連携に努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台都市圏域等市町村社協災害ボランティアセンターの相互支援に関する協定 ○災害ボランティアセンタースタッフ養成講座
--

(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

① 地域福祉活動への幅広い担い手づくり

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉課題の解決の為、活動の状況や求められている担い手などに応えられるような専門的・活動分野ごとのボランティアの養成に努めます。 ・ボランティア活動が円滑に進められるよう、専門機関等による研修などにより、ボランティアの能力向上と活動支援に努めます。 ・小・中・高校生が福祉活動やボランティア活動に関心を持ってもらえるような事業展開を行い、社協事業等への協力が図れるよう努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てサポーター登録 ○子育てサポーター養成講座 ○スキルアップ研修会（調理・傾聴・総合） <p>評価・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での担い手が固定化している ・若年層の地域活動者不足
--

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉課題の解決のために、様々なニーズに対応することができるボランティアの養成に努めます。 ・ボランティア活動が円滑に進められるよう、専門機関等による研修などにより、ボランティアの能力向上と活動支援に努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てサポーター登録 ○ボランティア養成講座 ○スキルアップ研修会（調理・傾聴・総合）

② 地域福祉活動への協働・連携・支援

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動において、大切な「共助」の為の取り組みや活動が円滑に進められるよう人と人をつなぐ支援を行います。 ・地域での福祉ニーズを掘り起こしながら、ボランティアが地域を支える仕組みづくりの一助となるよう活動の支援に努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活動助成金（どんぐりの森活動） ○富谷傾聴の会 定例会支援 <p>評価・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金の有効活用・周知徹底
--

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動において、「互助・共助」の為の取り組みや活動が円滑に進められるよう人と人をつなぐ支援を行います。 ・地域での福祉ニーズを掘り起こしながら、ボランティアが地域を支える仕組みづくりの一助となるよう活動の支援に努めます。 ・活動に必要な「人・もの・お金・情報・資源」についての調整役を担います。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活動団体等の支援（どんぐりの森活動）
--

③ 多様な組織・団体等とのネットワークの構築

目標
 ・地域で行われている福祉活動（ボランティア活動）について、幅広く情報収集・提供を行い、それぞれの活動に「きっかけ」を与えられるよう働きかけます。
 ・ボランティアセンター運営委員会の中で活動のネットワークについて協議を進めながら、地域福祉活動が円滑に行えるよう社協がコーディネートを行います。

事業名
 ○ボランティアセンター運営委員会
 ○地域福祉活動助成金申請団体ヒアリング
 ○ボラセンお茶っこ会

評価・課題
 ・地域福祉ニーズの把握

目標
 ・地域福祉活動と接点を持ち、地域全体を配慮しながら、幅広い関係者（地域包括支援センター・福祉事業所・企業等）と積極的な協働関係を作ります。

・地域福祉活動が円滑に行えるよう社協がコーディネートを行います。

事業名
 ○ボランティアセンター運営委員会
 ○地域福祉活動助成金申請団体ヒアリング
 ○ボラセンお茶っこ会

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

① 福祉関係団体の活動支援

目標
 ・福祉関係団体相互の連携づくりや協働のきっかけを作り出すなどして、それぞれが自立的な会運営の一助となるよう活動支援に努めます。

事業名
 ○福祉関係団体等助成金
 ○手をつなぐ育成会 ○身体障害者福祉協会
 ○遺族会 ○ボランティア友の会

評価・課題
 ・団体の今後の方向性
 ・新たな会員獲得へ向けての方策検討

目標
 ・福祉関係団体相互の連携づくりや協働のきっかけを作り出すなどして、それぞれの活動が円滑に行えるの一助となるよう活動支援に努めます。

事業名
 ○福祉関係団体等活動補助金
 ○手をつなぐ育成会
 ○身体障害者福祉協会
 ○遺族会
 ○ボランティア友の会

② 行政との連携・協力

目標
 ・地域の福祉課題や地域資源情報の共有を進め、共通課題への企画段階からの連携を図りながら、富谷市との協働促進を図ります。

事業名
 ○福祉部長寿福祉課・地域福祉課・子育て支援課・健康増進課等打合せ

評価・課題
 ・事業打合せの連携強化
 ・地域福祉課題の情報共有・統一化

目標
 ・地域の福祉課題や地域資源情報の共有を進め、共通課題への企画段階からの連携を図りながら、富谷市との協働促進を図ります。

事業名
 ○福祉部長寿福祉課・地域福祉課・子育て支援課・健康推進課等打合せ

③ 共同募金事業との連携・協力

目標
 ・今後の配分について、地域の福祉ニーズに合わせた形で、福祉関係者等の意見も取り入れながら、柔軟な配分の形を検討します。

事業名
 ○共同募金配分委員会
 ○歳末たすけあい募金贈呈式
 ○福祉関係団体配分贈呈式

評価・課題
 ・共同募金事業のあり方の検討
 ・歳末配分（個人・団体配分）の有効活用

目標
 ・市内における共同募金活動の推進を行う団体との連携を図ります。

・今後の配分について、地域の福祉ニーズに合わせた形で、福祉関係者等の意見も取り入れながら、柔軟な配分の形を検討します。

事業名
 ○共同募金配分委員会
 ○歳末たすけあい募金贈呈式
 ○福祉関係団体配分贈呈式

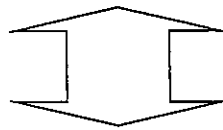
基本計画 (平成30年度～平成39年度)

(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化

・住民の具体的な生活・福祉問題を受け止め、そのケースの問題解決、地域生活支援に素早く確実に取り組めるよう、総合的な福祉相談活動やケア・マネジメントに取り組むを目指し、関係機関と連携した相談支援体制を構築します。
 ・権利擁護事業の一環として、富谷市社協権利擁護センターの充実強化や成年後見制度の支援に加え、日常生活自立支援事業の基幹的運営の検討を行い、高齢者や障害者の日常生活を支える取り組みを展開します。

(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

・市からの委託事業である高齢者生活支援生きがい健康づくり事業やファミリーサポート支援事業については、市との連携を密にすると共にサービス利用者に直接接する機会を捉え、福祉ニーズの把握に努め福祉事業に活かしていきます。
 ・外出支援については、富谷市との連携や交通網のすき間支援を見極めながら、調整及びあり方の検討をしていきます。
 ・社会福祉協議会が現在指定管理制度を受けている地域活動支援センター及び福祉健康センターについて継続的な運営を目指し、利用する方に配慮した一層の質の向上に努めます。



第1期後期実施計画内容及び評価・課題 (H26～H29)

第2期前期実施計画内容及び事業 (H30～H32)

(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化

① 相談体制の充実強化

目標
 ・生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。

・多様な悩みごと・困りごと相談に対応できるよう、専門家による相談会を開催します。

事業名

- 生活相談事業
- 生活相談員研修会

評価・課題

- ・相談支援機関との情報共有・連携
- ・相談員の担い手、受け皿の確保

目標
 ・生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。

・多様な悩みごと・困りごと相談に対応できるよう、専門家による相談会を開催します。

・地域包括支援センターとの連携を強化し、相談解決につなげられるような体制強化を図ります。

事業名

- 生活相談事業
- 生活相談員研修会
- 法律専門相談
- 随時来所相談
- 地域包括支援センターにおける地域ケア会議への参画

② 権利擁護センターの機能拡充

目標

・制度を必要とする方を利用に結びつけていくため、日常生活自立支援事業（まもりーぶ事業）の更なる普及・啓発を推進します。

・権利擁護事業に関する相談に応じ、判断能力が不十分な方の権利が侵害されないよう、本人の意思を尊重し、問題解決に向けて支援をします。

事業名

- 日常生活自立支援事業（まもりーぶ）
- 富谷市社会福祉協議会権利擁護センター

評価・課題

- ・利用意思決定までの過程の明確化
- ・制度間のすき間支援の問題
（日常生活自立支援事業・成年後見制度）

目標

・日常生活自立支援事業の更なる充実のため、県社協と連携し、利用者決定等の効率化のための運営を目指し、事業を進めます。

・権利擁護事業に関する相談に応じ、判断能力が不十分な方の権利が侵害されないよう、本人の意思を尊重し、問題解決に向けて支援をします。

事業名

- 日常生活自立支援事業の充実
- 富谷市社会福祉協議会権利擁護センター
- 成年後見サポート推進協議会

③ 各種資金貸付事業の実施（生活福祉資金等）

目標

・生活状況等の実情を把握した上で、行政や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。

事業名

- 生活福祉資金貸付事業
- 生活安定資金貸付事業
- 生活福祉資金等運営委員会
- フードバンク事業

評価・課題

- ・自立相談支援センターとの連携
- ・低所得世帯へのアプローチ
- ・民生委員との連携

目標

・生活状況等の実情を把握した上で、行政や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。

・行政と連携しながら、生活困窮者自立支援事業（自立相談支援事業）の支援活動を実施します。

事業名

- 生活福祉資金貸付事業
- 生活安定資金貸付事業
- 生活福祉資金等運営委員会
- 生活困窮者（低所得等）自立支援事業
- フードバンク事業

(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

① 高齢者支援事業の実施

目標

・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を市と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握（福祉器具貸与等）を行い、福祉事業に生かすよう努めます。

・行政と連携しながら、適切な福祉サービスの提供に努めます。

事業名

- 虹いろ会食サロン
- 寝具洗濯乾燥消毒サービス
- 家族介護用品支給事業
- 給食サービス事業
- 歳末お弁当
- 家族介護者交流事業
- 意思疎通支援事業

評価・課題

- ・実施事業の検討
- ・新たな福祉ニーズの把握

目標

・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を市と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握を行い、福祉事業に生かせるよう努めます。

・行政と連携しながら、適切な福祉サービスの提供に努めます。

事業名（富谷市受託事業）

- 虹いろ会食サロン
- 寝具洗濯乾燥消毒サービス
- 家族介護用品支給事業
- 給食サービス事業
- 歳末お弁当
- 家族介護者交流事業
- 意思疎通支援事業
- 介護予防・日常生活支援総合事業
（サロン型通所サービス）
（生活支援型訪問サービス）

② 障害者支援事業の実施

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者相談支援事業等を通じて、利用者との福祉ニーズの把握に努めます。 ・障害福祉サービスの多様化に伴い、社協としての事業展開の可能性について、理事会で検討します。 <p>事業名</p> <p>○障害者相談支援事業所富谷社協らいふ</p> <p>評価・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画相談事業所としての方向性 ・事業所間の連携

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者相談支援事業等を通じて、利用者との福祉ニーズの把握に努めます。 ・障害福祉サービスの多様化に伴い、社協としての事業展開の可能性について、理事会で検討します。 <p>事業名</p> <p>○障害者相談支援事業所富谷社協らいふ</p>
--

③ ファミリー・サポート支援事業の実施

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携しながら、子育て世代の幅広い支援が出来るよう（育児ヘルプサービス・ファミリーサポートセンター事業）努めます。 ・研修会を通じながら、随時会員数の確保に努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○とみや育児ヘルプサービス事業 ○とみや子育てファミリー・サポート・センター事業 ○市こども・子育て会議 ○市児童等虐待防止連絡協議会実務者会議 <p>評価・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員の確保 ・行政との新たな事業の協働・連携
--

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携しながら、子育て世代の幅広い支援が出来るよう（育児ヘルプサービス・ファミリーサポートセンター事業）努めます。 ・研修会を通じながら、随時会員数の確保に努めます。 ・行政と連携しながら、新たな子育て支援施策の構築を進めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○とみや育児ヘルプサービス事業 ○とみや子育てファミリー・サポート・センター事業 ○市こども・子育て会議 ○市児童等虐待防止連絡協議会実務者会議
--

④ 交通弱者の為の外出支援の調査検討

--

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者対策として、移送・有償サービス等の検討について、富谷市との連携や交通網のすき間支援を見極めながら、実現可能なサービス構築の可能性について調査検討します。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉事業委員会 ○総務運営委員会

⑤ 富谷市指定管理制度の継続事業運営

--

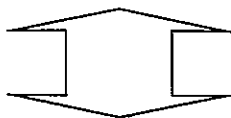
<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会が現在指定管理者制度を受けている地域活動支援センター及び福祉健康センターについて、社協の専門性及び独自性を活かしながら、継続的な事業運営を目指し、利用する方に配慮しながら一層の質の向上に努めます。 <p>事業名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活動支援センター ○福祉健康センター
--

基本目標 4 (平成30年度～平成39年度)

「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～

基本計画 (平成30年度～平成39年度)

- (1) コミュニティソーシャルワーク (CSW) 機能の充実
 - ・社協職員の専門性 (社会福祉士・精神保健福祉士・保健師等) を活かした対人援助サービスと共に事務局内研修や外部研修などにより職員の能力向上に努め、市民の生活を支えるサービスの提供に努めます。
- (2) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
 - ・計画策定後の進捗状況等について、市民の発表機会の創出及び場の設定も踏まえ、社協フォーラム等で情報交換を行います。
- (3) 経営・財政基盤の強化
 - ・地域福祉を推進する実施主体としての社協運営を強化する為、独自事業を模索すると共に、社協のPRに努めます。
- (4) 事業推進体制の整備
 - ・事業企画検討の為に委員会活動や理事会・評議員会の審議の充実により、住民の立場に立った地域福祉事業の推進に努めます。



第1期後期実施計画内容及び評価・課題 (H26～H29)

第2期前期実施計画内容及び事業 (H30～H32)

(1) コミュニティソーシャルワーク (CSW) 機能の充実

① コミュニティワーカーの資質向上

目標
 ・地域の実態把握や各関係機関との連絡調整、社会資源の開発等により住民が地域の福祉課題に主体的・組織的に取り組むための支援を行う社協職員の専門職としての充実を図ります。

事業名
 ○社会福祉援助技術現場実習生受入

評価・課題
 ・職員間の資格取得の啓発
 ・専門性を活かした支援の構築

目標
 ・生活上の課題を抱える人々に対する個別支援を行うとともに、課題に向けて、社会資源の活用や開発を図ります。

・社協職員の専門性 (社会福祉士・精神保健福祉士・保健師等) を活かしつつ、地域の実態把握や社会資源の開発等により住民が地域の福祉課題に主体的・組織的に取り組むための支援を行います。

事業名
 ○社会福祉援助技術現場実習生受入
 ○実習指導者講習会
 ○社協出前講座

② スキルアップ研修会への参加

目標
 ・職員研修に参加するなどしながら、職員間のネットワークの構築に努めます。

事業名
 ○職員研修会

評価・課題
 ・専門性の向上
 ・関係機関のネットワークの構築

目標
 ・富谷市及び県社協・仙台地方管内・黒川管内の社協間の職員研修に参加するなどしながら、職員間のネットワークの構築に努めます。

事業名
 ○職員研修会 ○職員会議

(2) 地域福祉活動推進計画の進捗管理

① 富谷市社協地域福祉フォーラムの開催

目標
 ・地域福祉活動推進計画施行後の進捗管理を、活動計画推進委員会（仮称）等で実施します。

・計画の進行状況等について、住民の方々へ適宜報告する機会を設けます。

事業名

○社協活動概要パンフレット配布

評価・課題

・計画施行後の進捗管理
 ・住民の発表機会の創出

目標

・市民にとって、より身近なテーマを掲げながら、共に情報共有、意見交換できるような福祉フォーラム等を開催します。

・福祉フォーラム等で共有された意見や考えを住民と共に地域へ発信し、具現化に向けた取り組みを行います。

・第三者的な視点で、計画施行後の進捗状況を確認する場を設けます。

事業名

○富谷市社協地域福祉フォーラム

(3) 経営・財政基盤の強化

① 社会福祉協議会会員会費制度への理解協力

目標
 ・住民会員の拡大に努めるとともに、施設や企業等の会員加入についても積極的に働きかけていきます。

・地域の福祉関係者（町内会長・民生委員等）を対象として、社協活動における福祉課題に共に向き合えるような研修・情報交換を実施し、会費についての理解を深めます。

事業名

○会員会費納入
 ○福祉活動推進委員長会議

評価・課題

・会員加入の啓発活動
 ・加入率増の為の具体的方策の検討

目標

・住民会員の拡大に努めるとともに、施設や企業等の会員加入についても積極的に働きかけていきます。

・地域の福祉関係者（町内会長・民生委員等）を対象として、社協活動における福祉課題に共に向き合えるような研修・情報交換を実施し、会費についての理解を深めます。

事業名

○会員会費納入
 ○福祉活動推進委員長会議

② 社会福祉協議会自主事業の調査検討

目標
 ・社協として、補助金や受託金以外の財源確保の可能性について、調査検討を進めます。

・他社協との情報交換や意見交換を行うとともに、先進的な取り組みを行っている事例について役職員研修会にて視察を行います。

事業名

○社協広報広告掲載 ○企業会費納入訪問

評価・課題

・社協独自事業の開拓
 ・地域福祉ニーズ（すき間支援）の把握

目標

・地域福祉の推進を目指す社協の使命として、社協だからできるすき間支援の事業展開を目指し、調査研究を進めます。

・社会福祉法人としての公益性を高める事業を行っていきます。

事業名

○総務運営委員会 ○福祉事業委員会

(4) 事業推進体制の整備

① 総合的な企画運営の推進

目標

・行政等では対応できない、制度の狭間に立っている方々の支援や住民の福祉ニーズに即した事業展開が出来るよう役職員一丸となった社協運営に努めます。

事業名

○正副会長会議 ○福祉事業委員会
○総務運営委員会

評価・課題

・新規事業の検討審議
・福祉ニーズの把握

目標

・行政等では対応できない、制度の狭間に立っている方々の支援や住民の福祉ニーズに即した事業展開が出来るよう役職員一丸となった社協運営に努めます。

事業名

○正副会長会議 ○福祉事業委員会
○総務運営委員会

② 理事会・評議員会・監事会等の機能強化

目標

・理事会等の機能を十分に発揮できるよう、総務運営委員会及び福祉事業委員会において、理事が積極的に意見交換及び事業提案できるような環境を整えます。

・地域福祉の推進や法人運営のあり方等について、社協としての福祉課題に対するより効果的な事業の実施を図ります。

事業名

○理事会 ○評議員会 ○監査会
○社協役職員研修会

評価・課題

・役員研修の充実
・役員同士の情報交換

目標

・理事会等の機能を十分に発揮できるよう、総務運営委員会及び福祉事業委員会において、理事が積極的に意見交換及び事業提案できるような環境を整えます。

・地域福祉の推進や法人運営のあり方等について、社協としての福祉課題に対するより効果的な事業の実施を図ります。

事業名

○理事会 ○評議員会 ○監査会
○社協役職員研修会



自助・共助の取り組み
(地域での防災訓練)



声のかけあいが大切
(給食サービス事業)



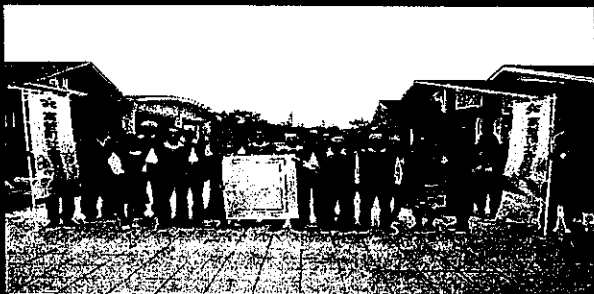
安心の活動のための協力会員講習会
(ファミリー・サポート支援事業)



地域の声を社協へ
(評議員会)

V 資 料 編

富谷市社会福祉協議会における 地域福祉活動推進計画と その後の事業展開について



社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会の性格

1 基本的性格

社会福祉協議会(以下、「社協」とする)は、1951年に民間の社会福祉活動の強化を図るために誕生し、福祉活動への住民参加を進めながら現在まで一貫して地域福祉活動推進の役割を果たしてきた。地域住民、社会福祉の関係者などの参加・協力を得て組織し活動することを大きな特徴とし、民間組織としての自主性と、広く住民や社会福祉関係者に支えられた公共性という二つの側面を合わせ持つ民間非営利組織である。

2 目的

住民主体の理念に基づき、地域が抱えている様々な福祉問題を地域全体の問題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決を図ることにより、福祉コミュニティづくりと地域福祉の推進をめざす。

3 事業

住民の福祉活動の増づくり、仲間づくりなどの援助や社会福祉に関わる公私の関係者・団体・機関との連携、具体的な福祉サービスの企画・実施などを行う。

4 組織

社協は、市区町村、都道府県・指定都市及び全国段階に設置され、そのネットワークにより活動をすすめている団体である。また、民間組織としての「自主性」と同時に、広く住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」の二つの側面を合わせ持つ団体である。

改めて法律に明記された社会福祉協議会の役割を考える

地域福祉の推進



○社会福祉協議会は、住民、ボランティア団体、民生委員児童委員、社会福祉施設や関係団体など社会福祉関係者、保健・医療・福祉などの関係機関の参加・協力のもと福祉のまちづくりを目指したさまざまな活動を行っている自主性と公共性との側面を持つ民間団体。

○市区町村、都道府県単位に1か所限り設置。

○2000(平成12)年の社会福祉法改正(旧社会福祉事業法から改題)において、より身近で、地域福祉の担い手である市区町村社会福祉協議会を社会福祉協議会の基礎単位と位置づけるとともに、社会福祉協議会の目的が「地域福祉の推進」にあることを法律上明記した。

社会福祉協議会の法的位置づけ

1 目的と事業

社会福祉法における社協の目的は、従来の社会福祉事業法では、社協の事業を列挙することによって、その目的を示していたが、改正施行された社会福祉法第109条において、社協の目的は「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と明記された。

また、社協の事業は、

- ①社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- ②社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- ③社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- ④社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業とし、法制上もその目的を達するために、幅広い事業が位置づけられている。

2 法人格

社協は法制上、社会福祉法人であることを必須の要件として求められてはいませんが、社会福祉法人化の促進については、社協や社会福祉関係者のみならず国の方針でもある。特に市区町村行政との関係の明確化、住民や関係者からの信頼確保、税制などからも社会福祉法人の取得が望ましいことから、関係者が一丸となって法人化をすすめる。現在では、市区町村社協の99.1%が社会福祉法人となっている。

市区町村社会福祉協議会の使命・経営理念

《使命》

市区町村社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進することを使命とする。

地域における「社会福祉」:「地域福祉」とは？

従来の「福祉」は、社会的に弱い立場の人を行政が支援するものと捉えられていました



- ニーズの多様化(少子高齢化、核家族化等)
- 福祉施設整備から在宅福祉へ
- 向三軒両隣の希薄化、我関せず・・・

「地域での支え合い・助け合いによる福祉」が重要になっています。

「地域福祉」の推進にあたってのキーワード

いじよ 自助	個人や家族による支え合い・助け合い 自分でできることは自分でする
もよあしよ 共助	地域社会における相互扶助 隣近所や友人・知人とお互いに支え合い・助け合う 地域活動や地域ボランティア、社会福祉法人などによる支え 「地域ぐるみ」で福祉活動に参加し、地域全体で助け合い、支え合う
こうじよ 公助	公的な制度としての保健・福祉・医療その他の 関連施策に基づくサービス提供 行政でなければできないことは、行政がしっかりとる

地域福祉計画と地域福祉活動計画

◇「地域福祉計画」は、社会福祉法第107条の規定に基づき、地域福祉の推進に取り組むための総合的な計画として市町村が策定する計画(行政計画)。

◇「地域福祉活動計画」は、社会福祉法第109条の規定に基づき、地域福祉の推進に取り組むための実践的な計画として社会福祉協議会が策定する計画。

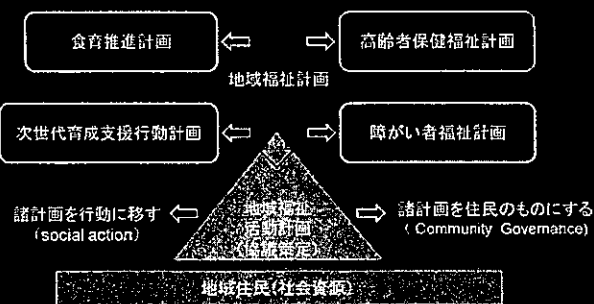
◇これらの計画は、「高齢者福祉計画」「障害者計画」などの他の行政計画との整合性を図りながら、高齢者や障がい者といったサービスの「対象者」に着目するのではなく「地域」に着目し、地域におけるの生活課題の解決(日常生活に何らかの支援を要する人だけを対象とするのではなく、全ての生活者が対象)のための方策について定める計画。

社会福祉協議会の 地域福祉活動計画

地域の安全安心を支える行政計画と地域福祉活動計画の関係

基本構想
H21年度～H30年度

特 注
この計画は、富谷市社会福祉協議会が、地域福祉の推進を図るための実践的な計画として策定する計画である。地域福祉活動計画の策定は、地域福祉協議会の役割である。地域福祉協議会が、地域福祉の推進を図るための実践的な計画として策定する計画である。



計画策定の目的

(1) 長期的展望に立って富谷市社会福祉協議会としての基本理念を示す。

(2) 当面する課題について段階的な計画の策定と実践活動を進める。

(3) 住民の福祉ニーズが多様化している中、現状を把握し、体制整備を整える。

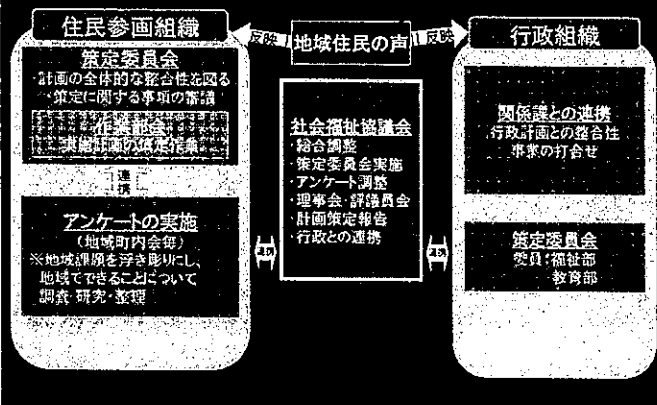
計画の期間

- 検討期間
平成18年12月～平成20年3月(1年4ヶ月)
- 計画期間
平成20年度～平成29年度(10ヶ年)

計画の枠組み

- 基本理念・基本目標・基本計画(10年)
- 実施計画:3～4年
- 前期:平成20年度～平成22年度(3年)
- 中期:平成23年度～平成25年度(3年)
- 後期:平成26年度～平成29年度(4年)

計画策定組織構図



計画を審議する(策定委員会)

- 策定委員会(14名で構成)
地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを計る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

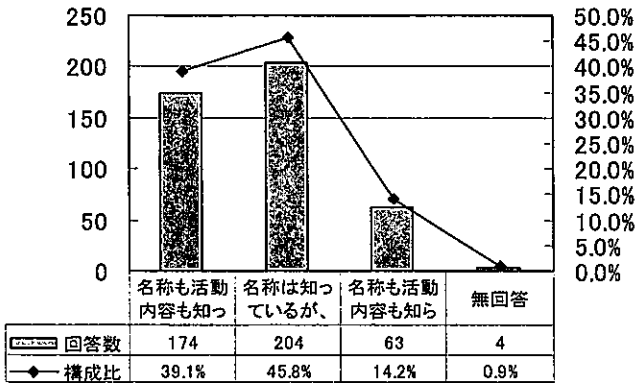
初期策定の流れ(概要)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 各部門ごとの計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

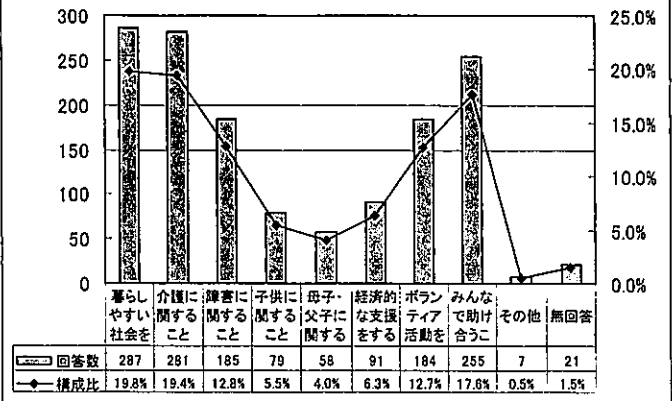
地域の声を聞いてみよう!

- アンケート調査(策定時のアンケートから)
地域福祉活動推進計画の策定に関して、現在の活動状況・事業の現状を把握し、住民の方々から幅広いご意見やご要望を伺うため、社協会員台帳の中から抽出した1割程度の世帯を対象にアンケート調査
調査期間:平成19年4月23日～5月11日
配布数:1,117人 回収数:445人 39.8%

問 8 富谷町社会福祉協議会の名称や活動内容を知っていますか



問16 あなたにとって「福祉」という言葉はどのようなイメージですか(該当するもの全て)



基本理念

(地域福祉活動推進計画は、平成20年度を初年度とし、10年後の平成29年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。)

心ふれあう暮らしやすい
福祉のまちづくり

基本目標1

「住民参加による福祉のまちづくり」

基本目標2

「共に支え合う福祉のまちづくり」

基本目標3

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

基本目標4

「安定した地域福祉のまちづくり」

基本目標(4つの柱)・基本計画

(基本目標・基本計画は、基本理念に定められた将来像を実現する為に、必要な諸施策を体系的に明らかにしたものです。)

基本目標1(助け合いの心)

「住民参加による福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 広報活動の充実
- (2) 福祉教育活動の充実
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
- (4) 地区コミュニティづくりの展開

子育てサロン「とことこ」



対象 - 0歳児～3歳児

概要 - サポーターにより、各自治会館等でサロン活動を行う。

夏休み福祉体験教室



対象 - 町内の小・中学生

概要 - 2日間の開催で、福祉について考え、体験を行う。

基本目標2(地域ぐるみ)

「共に支え合う福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) ボランティアセンターの充実
- (2) 災害ボランティア体制整備
- (3) 地域福祉活動の人材確保と育成
- (4) 福祉関係機関との連携および活動支援

ボランティアセンター



対象 - ボランティア

概要 - 活動をしたいまたは必要な方をつなぐ相談機関。

ボランティア養成講座



対象 - ボランティア活動者・希望者

概要 - ボランティアの人材育成・情報提供を行う。

災害体制整備



対象 - 一般住民

概要 - 幅広い方々に日頃の備えに対する啓発活動を行う。

基本目標3(地域福祉事業)

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 相談支援機能の強化
- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

給食サービス事業(市受託事業)



対象 - 65歳以上の一人・二人暮らし高齢者(受託事業)
概要 - 栄養面・安否確認の観点から、昼食を宅配する。

虹いろ会食サロン(市受託事業)



対象 - 65歳以上の一人暮らし世帯
概要 - 公民館単位を会場に月に1回の会食交流。

介護用品支給事業(市受託事業)

対象 - 在宅で介護を行う家庭(受託事業)
概要 - 在宅で生活をする要介護状態の利用者がいる家庭に対して、紙おむつを低料金の支給を行う。

日常生活自立支援事業

対象 - 精神・知的障害者・認知症高齢者
概要 - 自分に必要なサービスを選んだり、利用する為の契約や料金の支払をする事が一人でできない方に対して、生活支援員が日常生活のお手伝いを行います。

生活安定資金・生活福祉資金

対象 - 生活困窮者・高齢者・障害者・低所得世帯
概要 - 生活安定資金は、富谷町社協自主事業で行っており、貸付限度額は5万円まで、あくまでも小口の貸付となる。生活福祉資金は、市町村社協が受付窓口となり、県社協の貸付審査会にて貸付決定となる。

生活相談

対象 - 一般住民
概要 - 月2回(第2・4金曜日)に、役場を会場に相談を行う。行政相談員・人権擁護委員・生活相談員により、家庭問題や借金・詐欺等の相談が寄せられている。

基本目標4(礎)

「安定した地域福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 地域福祉活動推進計画の進行管理
- (2) 経営・財政基盤の強化
- (3) 事務局体制の整備
- (4) 事業推進体制の整備

情報発信(IT活用等)



対象—一般住民

概要—幅広い広報活動の観点から、情報発信を行う。

第1回見直し策定の流れ(H22)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- 現状事業評価
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 実施計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

地域の声を聞いてみよう!

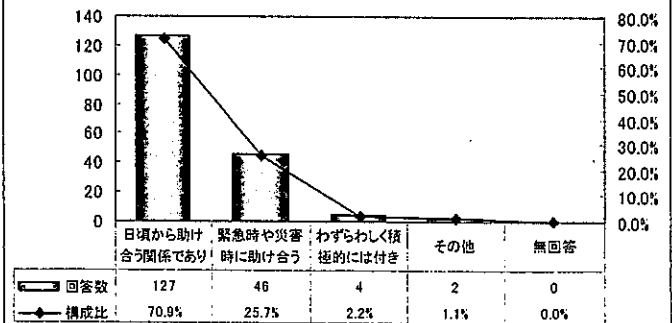
■ アンケート調査

今回は、平成20年度策定の推進計画に対して、地域の方々がどのような感想・印象を持ったかなど、多少なりとも総論的な部分で地域の声を集める手法を取ったほうが、今後の実施計画策定にあたっての参考になると考える。また、実施計画の中で重点的に強化すべき項目として、挙げられた地域コミュニティ関係(富谷町総合計画の部分と連携しながら)及びボランティア関係については、事業に関わりのある関係者だけではなく、社協としても大切な地域住民の方々の意見を反映した方が良いとの判断から、アンケート調査に含めたものとして実施する。

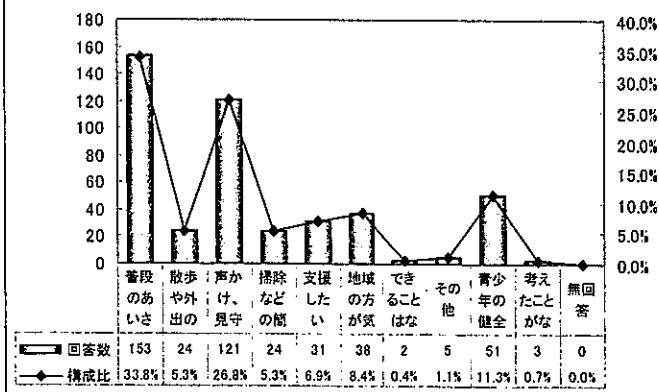
調査期間:平成22年11月1日～11月22日

配布数:220人 回収数:180人 81.8%

問6 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか



問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか



第2回見直し策定の流れ(H25)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- 現状事業評価
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 福祉座談会開催
- 実施計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

キーワードは「住民の声を聞く・地域に出向く」

アンケート集計結果(概要)

(1)聞き取り調査

- 高齢者福祉関係「さわやか交流会」
配布数 87 回収数 87 回収率100%
- 障害者福祉関係「身障協会」・「育成会」
配布数 80 回収数 44 回収率 55%
- 子育て支援関係「子育てサロンとことこ」
配布数 109 回収数 109 回収率100%

アンケート集計結果(概要)

(2)アンケート調査(9月10日～10月9日)

- 地域コミュニティ関係
「地域福祉の推進に関するアンケート調査」
配布数 220 回収数 175 回収率 80%
- ボランティア関係
「ボランティアに関するアンケート調査」
配布数 220 回収数 142 回収率 65%

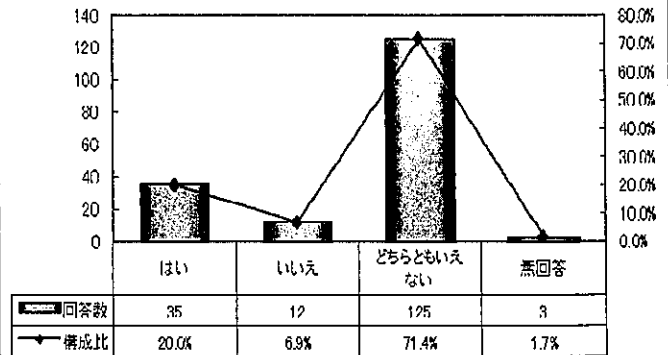
地域の声を聞いてみよう!

■ アンケート調査

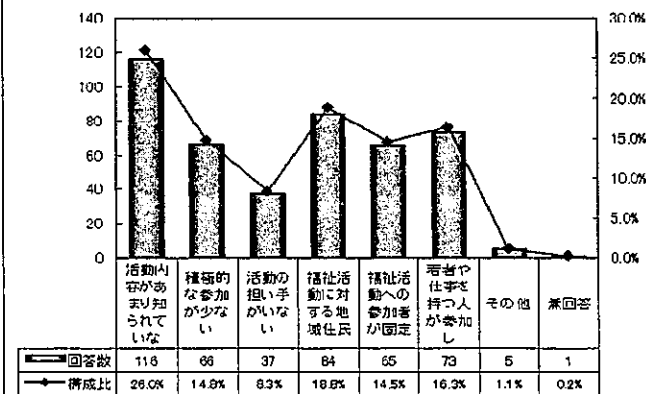
今回は、平成22年度策定の推進計画中期実施計画に対して、地域の方々がどのような感想・印象を持ったかなど、多少なりとも総論的な部分で地域の声を集める手法を取ったほうが、今後の実施計画策定にあたっての参考になると考える。また、3年前のアンケート調査と同様の内容での調査により、純粋な3年前との対比から「強み」と「弱み」を知ることができ、後期実施計画の中で重点的に強化すべき項目として、挙げられやすいと考え、社協としても大切な地域住民の方々の意見を反映した方がよいとの判断から、調査に含めたものとして実施する。

調査期間:平成25年9月10日～10月9日
配布数:220人 回収数:175人 80%

問9 あなたがお住まいの地域において、福祉活動は充実していると思いますか



問10 地域において行われている福祉活動の問題点は何だと思いますか

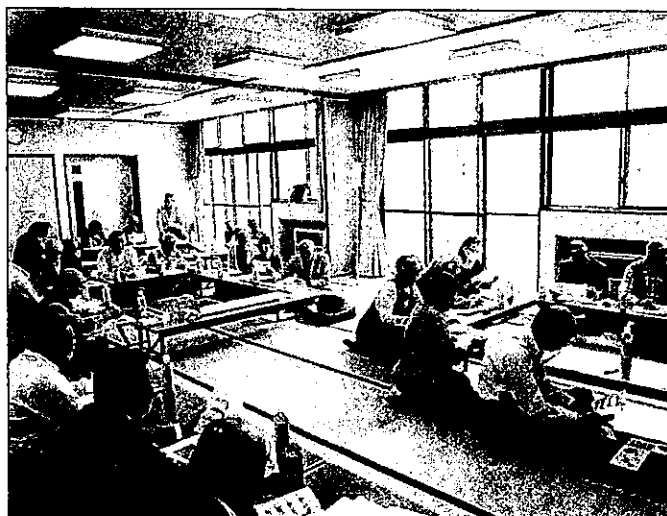


アンケート調査から・・・

- ・地域活動(サロン)ボランティアの養成
- ・情報提供、相談体制の充実
- ・交流の場、機会づくりの推進
- ・外出(移動支援)を行うボランティア(障害者)
- ・ボランティア情報の提供
- ・福祉活動参画への啓発
- ・相談窓口としての機能充実
- ・社協独自事業の開拓
- ・各種ボランティア(専門的・資格)の育成 等々

福祉座談会結果(平成25年度)

- 町上座談会
9月10日(火) 参加者 20名
- 鷹乃杜座談会
9月29日(日) 参加者 45名
- 成田第三座談会
10月 5日(土) 参加者 60名



福祉座談会から...

- ・社協の情報啓発(PR活動)の必要性
- ・行政と社協の位置づけ
- ・地域コミュニティづくりの充実
- ・ボランティアの人材育成
- ・社協の独自性の向上
- ・地域に出向ききっかけづくり
- ・若年層の福祉活動への参画
- ・安心して相談できる機関としての確立
- ・学校との連携(事業化) 等々

計画策定による効果

計画策定による効果(対行政)

- ①行政側への社協活動の理解の浸透が進んだ
→明確な活動計画目標を明示することで、社協の考えを伝えやすくなった。
- ②共通の福祉課題に対して、協働の動きが出始めた。
→対住民の福祉サービスに対して、重複して同様の福祉事業を展開するのではなく、役割分担がはっきりとしてきた。

計画策定による効果(対住民)

- ①住民側への計画策定アンケート調査を通じて、社協活動への理解が深まった。
→「地域福祉に関するアンケート」に回答することによって、自分たちに関わりのある社協活動があることに「気付く」ことができた。
- ②住民の方の「福祉ニーズ」をきちんと把握することができた。
→アンケートを通じて、今社協には何が求められているか等、直接声として聞き取ることができた。

①住民側への計画策定アンケート調査を通じて、社協活動への理解が深まった。

→具体例:

- ・町内会からの社協への依頼が増えた。

事業名:社協出前講座

- ・町内会を通じての社協事業の周知を行った(回覧板・連絡網等)

事業名:子育てサロン(子育て)

虹いろ会食サロン(高齢者)

社協出前講座



対象-各町内会

概要-災害・福祉教育・生活相談事業等の講習・講話

子育てサロン「とことこ」



対象-0歳児~3歳児

概要-サポーターにより、各自治会館等でサロン活動を行う。

②住民の方の「福祉ニーズ」をきちんと把握することができた。

→具体例:

- ・策定アンケートを通じて、社協の方向性について多くの意見(福祉ニーズ)が寄せられた中で、重要課題に対して、迷いなく事業展開することができた。

→社協の事業推進力が向上した(アンケートの結果に基づいている為)

事業名:社協パンフレットの作成

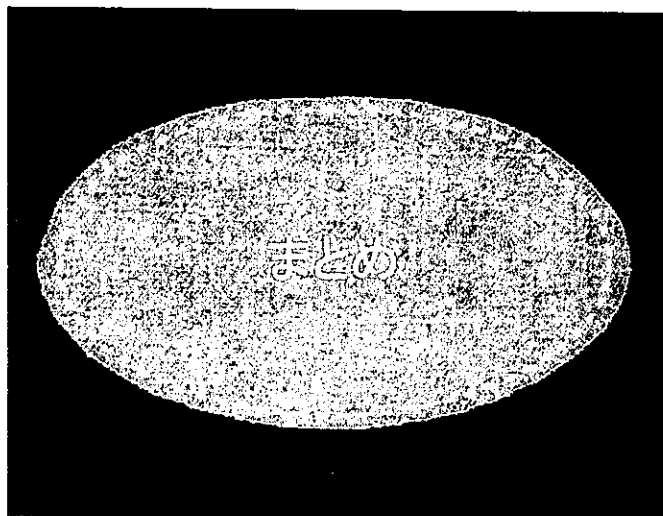
計画策定によつての効果(対社協)

①社協内部で活動計画を共有することにより、職員間による新しい事業展開の事業提案等がなされるようになり、意見交換が活発化した。

→職員の増加にもよるが、新しい視点による事業提案がなされるなど、今後の社協事業展開に一石を投じる大きな成果となった。

→具体例:

- ・富谷市指定管理制度への申請
事業名:福祉健康センター指定管理



福祉は困っている方だけの『救済システム』ではなく
全ての方々に共通する安全・安心を築く『活性化システム』です



地域にある豊富な資源 Intangibles・Social Capitalを基にして
『地域社会の活性化』を図っていく
これが今日の福祉活動のあるべき姿です



「地域福祉の推進」を位置づけられた社会福祉協議会の出番です。

63

私たち(社協)が果たすべき役割



地域住民の方々に 「ひと・もの・お金・情報・資源」をつなぐ

福祉の視野を広げる・ネットワークをつなぐ・地域の課題にアンテナを張る

64

最後に

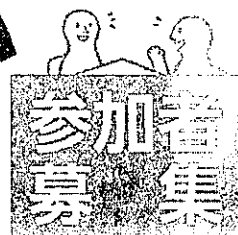
- 活動計画とは「社協の顔」となるもの
- 時には計画にとらわれない自由さも大切
- 社協は地域のきっかけづくり(仕掛けづくり)
- 常に地域の活動にアンテナを張りながら
(ニーズ把握)

地域福祉活動推進計画
策定委員の皆様
よろしくお願ひいたします

第1回

富谷市社会福祉協議会 地域福祉フォーラム

～地域の声をお聞かせください～



2017.11.25(土)

9時30分～12時00分
(受付開始：9時00分～)

会 場：富谷市成田公民館
宮城県富谷市成田1丁目1-1



「住み慣れた地域で、安心・安全に暮らしたい！」

そんな、「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」について、これからの地域福祉の推進役として地域の实情に合ったコミュニティ支援のため、各関係機関が連携し、地域の中で、「自分たちでできることを“少しずつ”」を観点に、共に支え合い、共に助け合う環境づくりを推進していけるよう、本フォーラムにおいて市民のみなさまと一緒に考え、理解を深めることを目的に開催いたします。

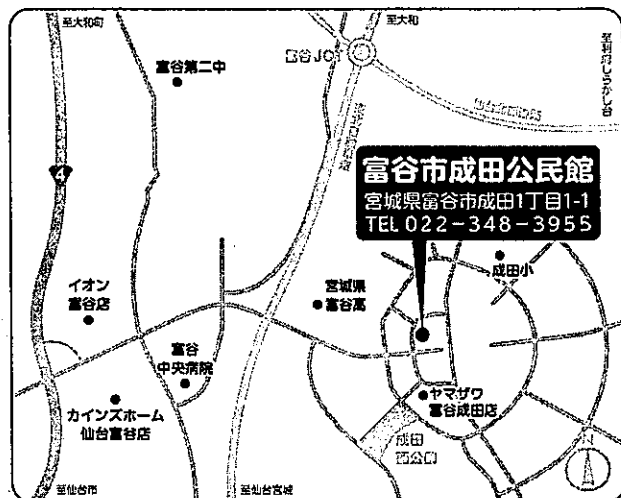
申込方法

- ①電話
富谷市社協までお電話でお申込みください。
TEL:022-358-3981
- ②メール
下記アドレスまでメールにてお申込みください。
tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp
- ③郵送・FAX
裏面の申込欄を使用し、お申込みください。
FAX:022-358-3512

参加申込締切日：平成29年11月15日(水)

主催：社会福祉法人富谷市社会福祉協議会

後援：富谷市、富谷市教育委員会、宮城県社会福祉協議会、
宮城県共同募金会、富谷市共同募金委員会、富谷市
民生委員児童委員協議会、富谷市老人クラブ連合会
(順不同)



内 容

要 綱

9:40 } ◆基調講演/テーマ：「これから求められる地域福祉のあり方とは」
10:25 } <講師>東北文化学園大学 医療福祉学部長 豊田 正利 氏

◆分科会/【社協が地域のためにできること～地域の声をお聞かせください～】

＜概 要＞

社協や地域で行われている様々な福祉事業やサービスについて、みなさんとグループに分かれて、事例発表意見交換を行います。地域の身近な課題について、「見守る」ことや「協力し合う」ことに向き合い、関係機関と住民との関わり方や連携の大切さを、会場の皆さんと共に考えてみます。

- 10:35 } ①住民参加による福祉のまちづくり
地域で行われている住民同士のお茶飲み会や健康づくりなどのサロン活動に見られるような互助・共助活動。そこから見える今後の地域活動について話し合います。
- 12:00 } ②共に支え合う福祉のまちづくり
個人や団体で幅広く行われているボランティア活動について、「ひと・もの・お金・情報・資源」の観点から、今後のボランティアセンターの体制整備について話し合います。
- ③安心して暮らせる福祉のまちづくり
今後も自分の住み慣れた地域で暮らしたい思いに応えるために、地域で困った時に助け合える福祉サービスについて、社協だからできるすき間支援について考えます。
- ④安定した地域福祉のまちづくり
社協も地域で様々な活動を行っています。この機会に市民の方にもっと知っていただきたい内容や会費の使われ方や今後の普及啓発について話し合います。



申込欄 (11月15日(水)締切)

FAX/022-358-3512

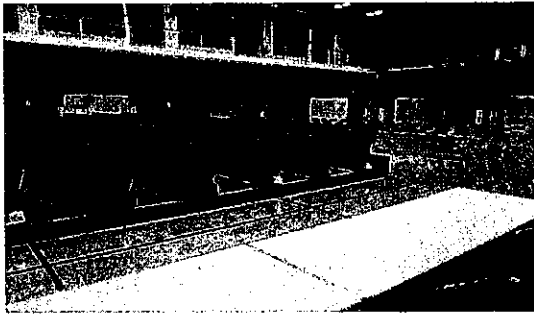
氏 名	ふりがな	分科会第1希望	分科会第2希望
	おなまえ		
住 所			
電 話 番 号			
当日参加者氏名	ふりがな	分科会第1希望	分科会第2希望
	おなまえ		
	ふりがな	分科会第1希望	分科会第2希望
	おなまえ		

- ・参加ご希望の分科会の①～④の番号を「分科会第1希望」「分科会第2希望」の欄にお書きください。
- ・分科会の希望が特定のものに集中した場合は、他の分科会に割り当てられる場合があります。
- ・ご提供いただいた個人情報は本フォーラムの運営に係る目的のみに使用し、他の目的で使用することはありません。

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会

〒981-3311 宮城県富谷市富谷西沢13
TEL/022-358-3981 FAX/022-358-3512
E-mail:tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp

第1回富谷市社会福祉フォーラム 平成29年11月25日(土)



前日設営



分科会ブース設営



当日受付風景



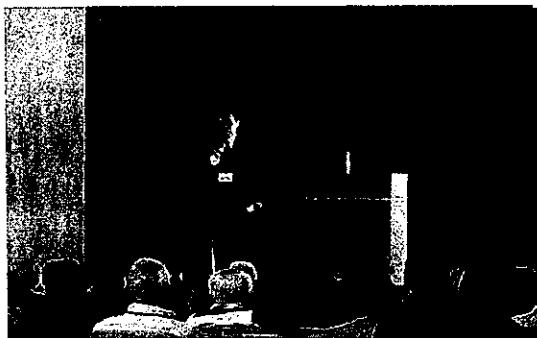
参加者来場



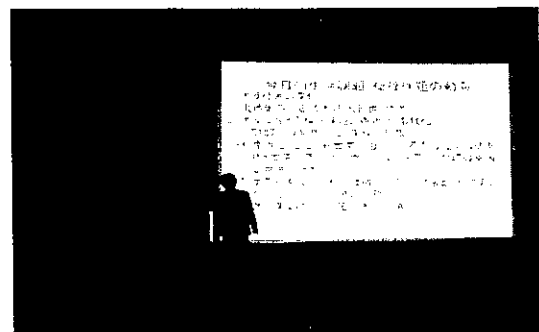
若生市長挨拶



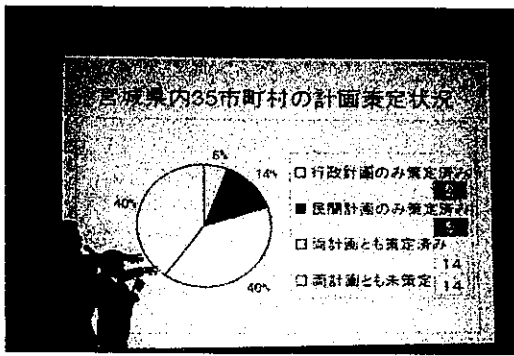
草野会長挨拶



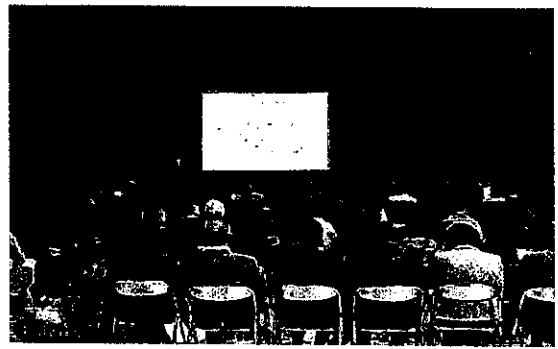
基調講演 豊田正利氏



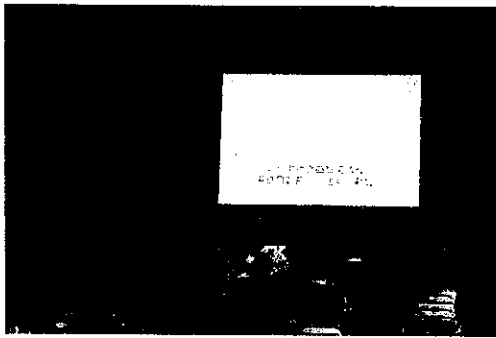
基調講演風景①



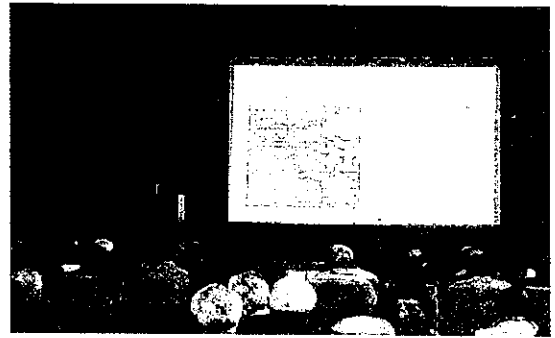
基調講演風景②



基調講演風景③



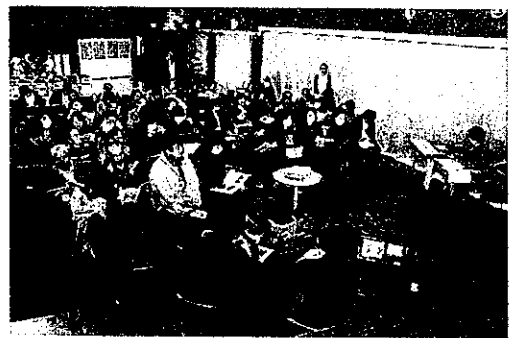
情報提供 佐々次長



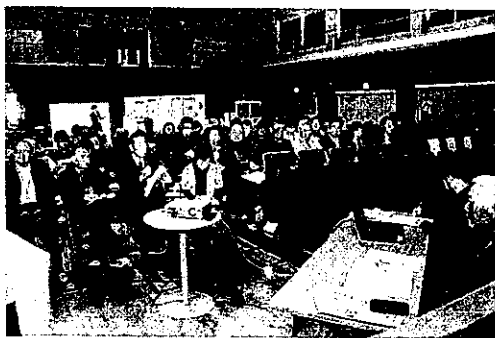
情報提供風景



第1分科会



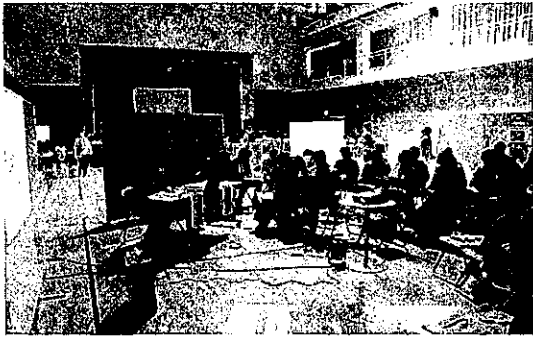
第1分科会



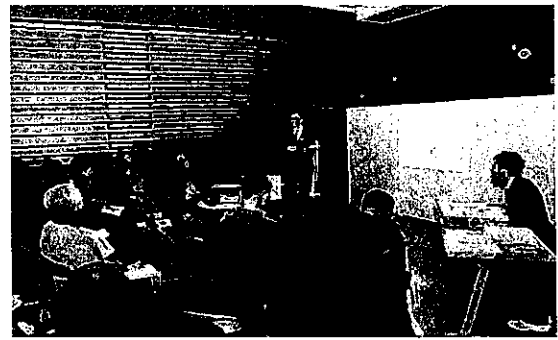
第2分科会



第2分科会



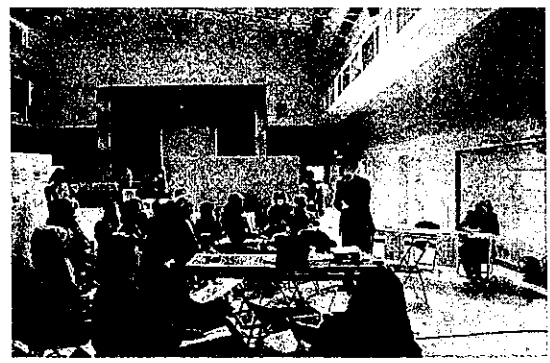
第3分科会



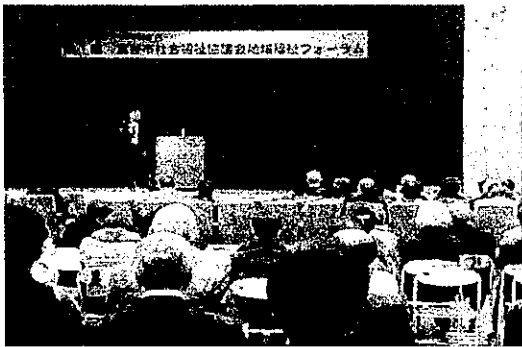
第3分科会



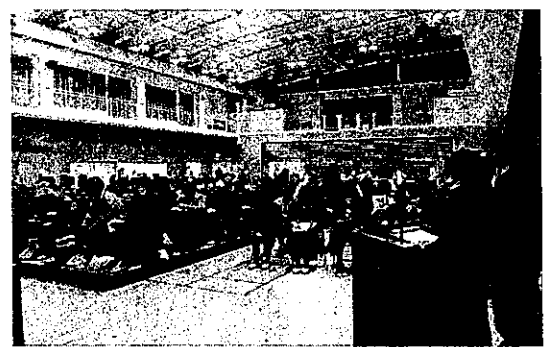
第4分科会



第4分科会



まとめ 豊田正利氏



閉会式風景



閉会挨拶 内ヶ崎副会長



スタッフ解散式

第1回富谷市社会福祉協議会地域福祉フォーラム開催要綱

～地域の声をお聞かせください～

1 趣 旨

福祉制度の変遷、住民意識の多様化等による生活様態の変化に伴い、福祉環境も大きく変化してきています。このような変化に的確に応えるためには、きめ細かな福祉活動の展開が急務であります。

また、東日本大震災以降、地域社会や人間関係の変化により、人と人とのつながりが希薄化し、地域での支え合いの機能が低下しつつあると考えるとき、今後、最も重要なことは、地域におけるコミュニティ構築の支援であると思われまます。

本会は、現在地域福祉活動推進計画策定にあたり、今後の地域福祉の推進役として、地域の実情に合った福祉によるコミュニティ支援のため、各関係機関が連携を強化し、地域で共に支え合い、共に助け合う環境づくりを推進していけるよう、本フォーラムにおいて市民のみなさまと一緒に考え、理解を深めることを目的に開催いたします。

2 主 催：社会福祉法人富谷市社会福祉協議会

3 後 援：富谷市、富谷市教育委員会、宮城県社会福祉協議会、宮城県共同募金会、富谷市共同募金委員会、富谷市民生委員児童委員協議会、富谷市老人クラブ連合会 (順不同)

4 日 時：平成29年11月25日(土)9時30分～12時00分(受付開始9時00分～)

5 会 場：富谷市成田公民館 富谷市成田1丁目1番地1 022-348-3955

6 対象者：行政関係者、町内会役員、福祉活動推進委員長、民生委員児童委員、老人クラブ会員、市民活動実践者、ボランティア、地域福祉に興味・関心のある方

7 参加費：無 料

8 日 程：別紙のとおり

9 申込方法

(1) 10月の広報とみや配布時に、全戸配布のチラシにて社協までお電話・FAX・メールにてお申し込み

(2) 11月号の社協だより案内記事にて、社協までお電話・FAX・メールにてお申し込み

参加申込締切日 平成29年11月15日(水)

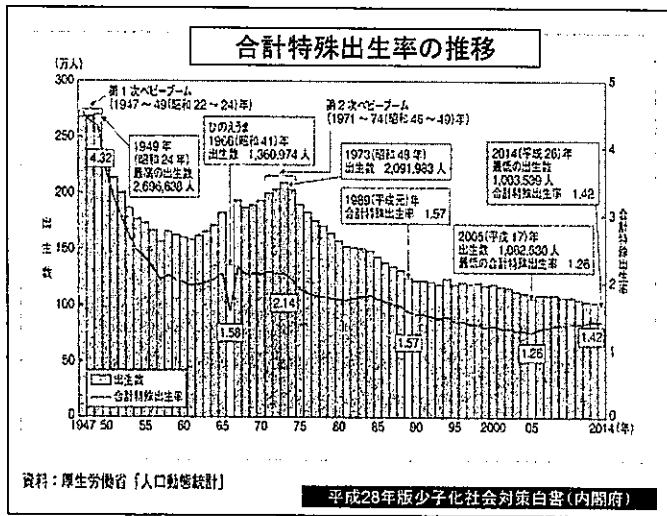
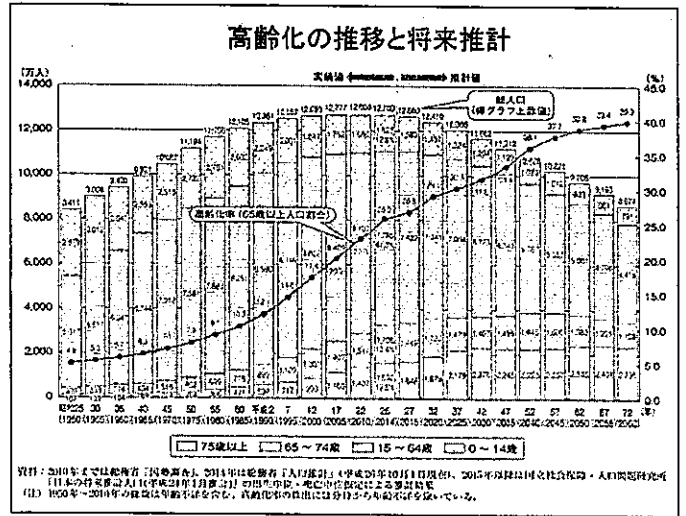
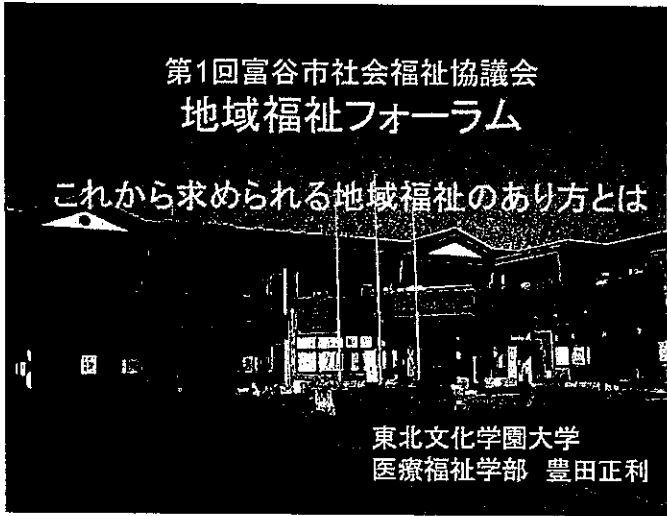
10 申込先・問い合わせ先

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会 [担当：奥山・佐々]

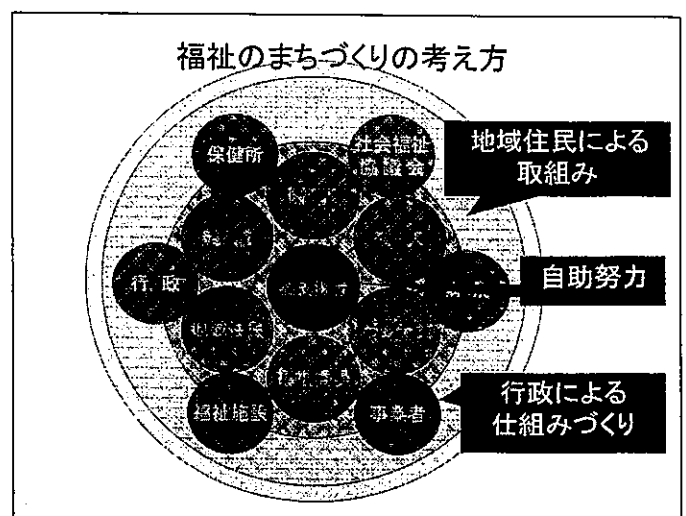
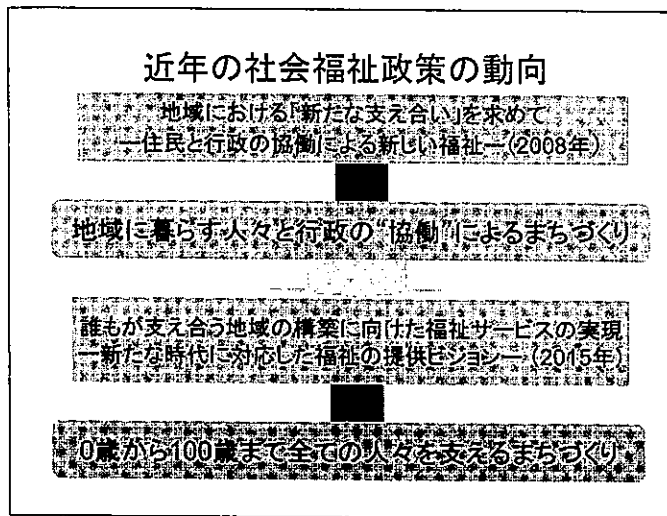
〒981-3311 富谷市富谷西沢13 TEL/022-358-3981 Fax/022-358-3512

第1回富谷市社会福祉協議会地域福祉フォーラム
～地域の声をお聞かせください～

- 1 日 時：平成29年11月25日（土）9時30分～12時00分
（受付開始 9時00分～）
- 2 会 場：富谷市成田公民館 富谷市成田1丁目1番地1 022-348-3955
- 3 日 程：
 - 9:00 受 付
 - 9:30 開 会
 - 9:30 開会挨拶 富谷市社会福祉協議会会長
 - 9:35 祝 辞 富谷市長
 - 9:40 ～ 10:15
 - ◆基調講演 テーマ：「これから求められる地域福祉のあり方とは」
＜講 師＞東北文化学園大学 医療福祉学部長 豊田 正利 氏
 - 10:15 ～ 10:25
 - ◆情報提供：「富谷市社協地域福祉活動計画について」
富谷市社会福祉協議会
 - 休 憩
 - 10:35 ～ 11:35
 - ◆分科会【社協が地域の為に出来ること ～地域の声をお聞かせください～】
《概 要》
社協や地域で行われている様々な福祉事業やサービスについて、みなさんとグループに分かれて、事例発表意見交換を行います。地域の身近な課題について、「見守る」ことや「協力し合う」ことに向き合い、関係機関と住民との関わり方や連携の大切さを、会場の皆さんと共に考えてみます。
 - ① 住民参加による福祉のまちづくり
 - ② 共に支え合う福祉のまちづくり
 - ③ 安心して暮らせる福祉のまちづくり
 - ④ 安定した地域福祉のまちづくり
 - 11:45 ～ 11:55
 - ◆まとめ
 - 11:55 閉会挨拶 富谷市社会福祉協議会副会長
 - 12:00 閉 会
- 4 対象者：行政関係者、町内会役員、福祉活動推進委員長、民生委員児童委員、老人クラブ会員、市民活動実践者、ボランティア、地域福祉に興味・関心のある方



- ### 今日的生活課題・福祉課題の動向
- ① 地域社会の変化
“限界集落”（高知大学 大野晃）の増加
 - ② 地域における福祉課題の複雑化・多様化
・“孤独死”の若年齢化、家族化現象
・核家族化、ひとり親世帯の増加による家庭機能の低下
・共働き世帯や高齢者の増加による子育て、介護の支援の必要性が増大
 - ③ 制度の対象に含まれず社会的排除の対象となりやすい者や少数者、低所得者の問題
 - ④ 医療の進歩に伴う在宅患者等の増加
- 「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現
—新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン—」（厚生労働省）（2015年）より



福祉のまちづくりを推進する二つの車輪の役割

行政が策定する計画
地域福祉計画
(社会福祉法第107条)

地域で策定する計画
地域福祉活動計画

社会福祉協議会



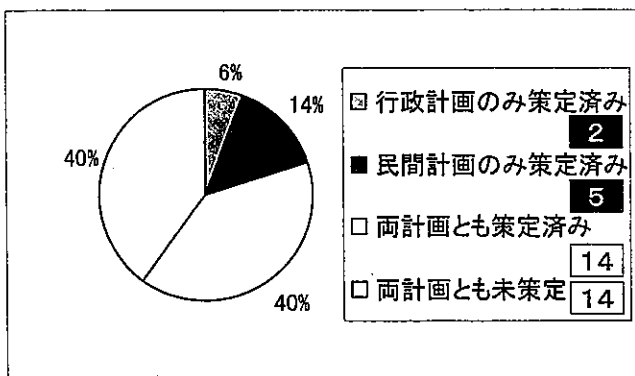
宮城県内35市町村の計画策定状況

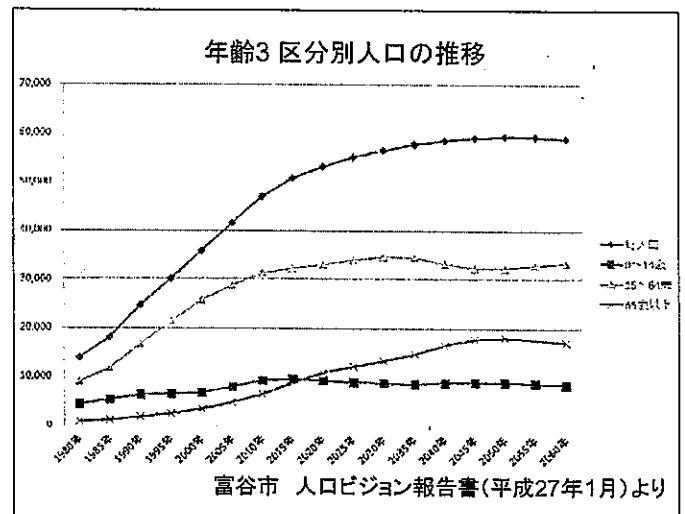
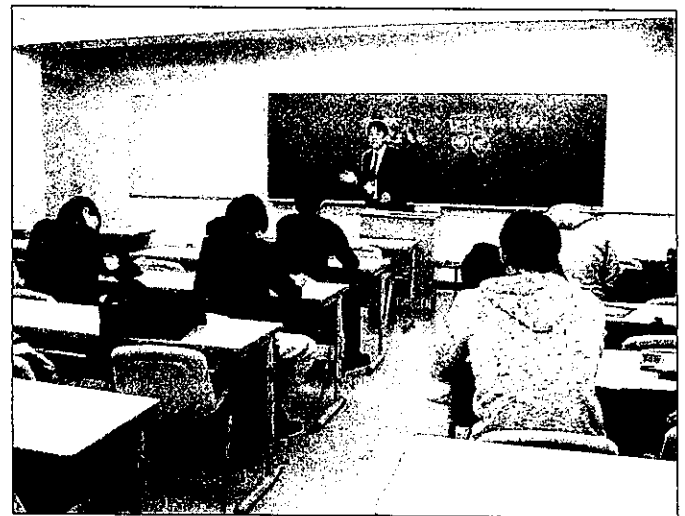
	市町村		市町村
策定済み	17	策定済み	19
未策定	18	未策定	16
合計	35	合計	35

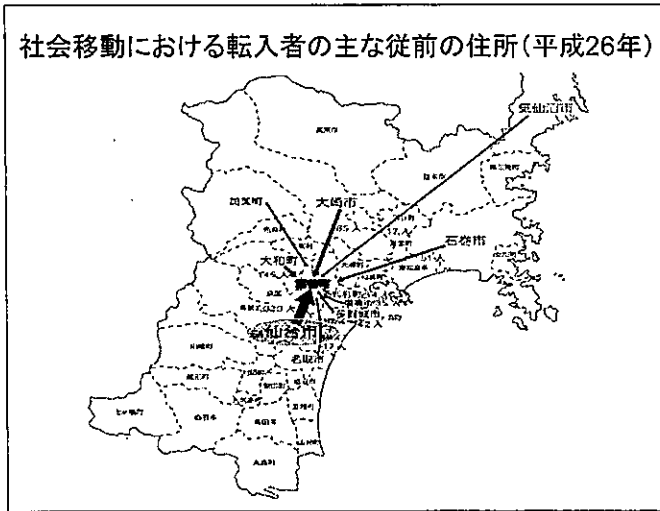
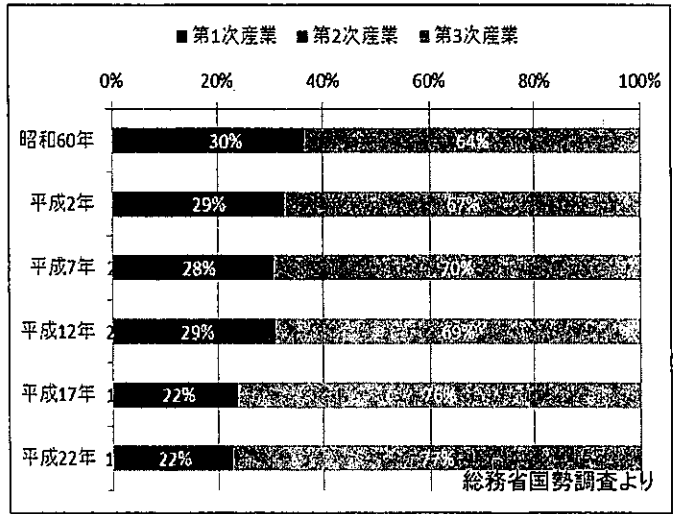
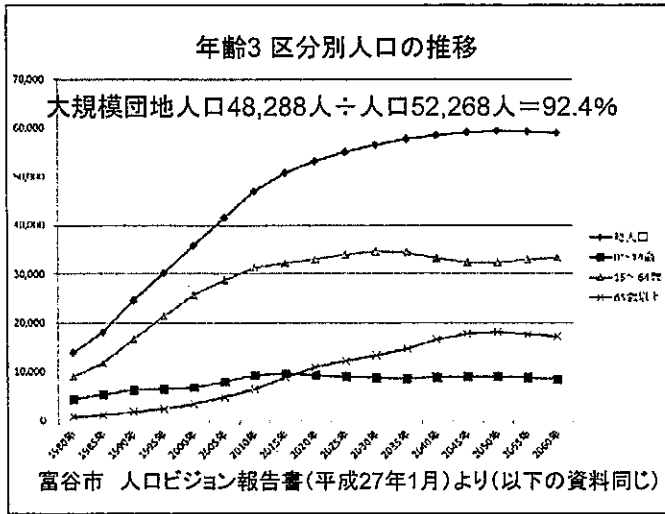
地域福祉計画策定状況
(平成29年5月現在)

地域福祉活動計画策定状況
(平成29年5月現在)

宮城県内35市町村の計画策定状況







コミュニティの分類からみた一般的傾向

旧集落、町内会型組織

- ・伝統的なしきたりや慣例、地域的な相互扶助や労力奉仕などが機能
- ・外部からの流入者の受け入れは消極的
- ・行政の福祉サービス利用に否定的・自己抑制的

新興住宅地・旧市街地

- ・地域社会に対する関心が薄い
- ・地域住民相互のつながりが脆弱
- ・行政の福祉サービス利用に関心が薄い
- ・行政依存型の福祉サービス利用者が多い

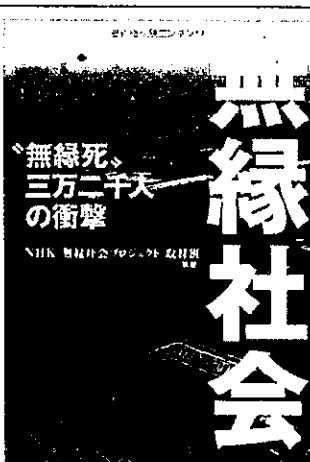


地域福祉って？

～社会福祉協議会から見る地域の現状と今後の課題～

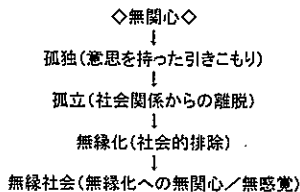
富谷市社会福祉協議会
事務局次長 佐々 利春

今なぜ地域なのか？



◇家族、地域、会社などにおける人とのきずなが薄れ、孤立する人が増えている社会。

◇日本は旧来、親族、地域社会、会社などで比較的濃密な人間関係が形成されてきた。こうした関係は血縁、地縁、社縁などと呼ばれて、しがらみとなる一方で相互扶助のシステムとしても機能していた。



参考:知恵蔵2014 - 無縁社会

地域の現状と問題

一人暮らしである

●本人の訴えがないと問題が顕在化しない

○自分で解決できない、助けを求めない
○地域から孤立、偏見にさらされている
○低所得であることが多い

家族はいるが支えにならない

●かえって周囲が関与しにくい
●問題が重なり合い増幅することがある

一人暮らし、あるいは家族がいても支えにならず、その上地域から孤立していたり、自ら問題解決に向かうことが出来ない人々(特に支援が必要な人々)については、意識して周囲から働きかけ、必要な支援に結び付けないと、問題が潜在化・深刻化する。

日常的な関係づくりが必要

「地域福祉」の推進にあたってのキーワード

じじよ 自助	個人や家族による支え合い・助け合い 自分でできることは自分です
きょうじよ 共助 こじよ 互助	地域社会における相互扶助 隣近所や友人・知人とお互いに支え合い・助け合う 地域活動や地域ボランティア、社会福祉法人などによる支え 「地域ぐるみ」で福祉活動に参加し、地域全体で助け合い、支え合う
こうじよ 公助	公的な制度としての保健・福祉・医療その他の 関連施策に基づくサービス提供 行政でなければできないことは、行政がしっかりと

社会保障制度改革の方向性

◇「1970年代モデル」から「21世紀(2025年)日本モデル」へ◇

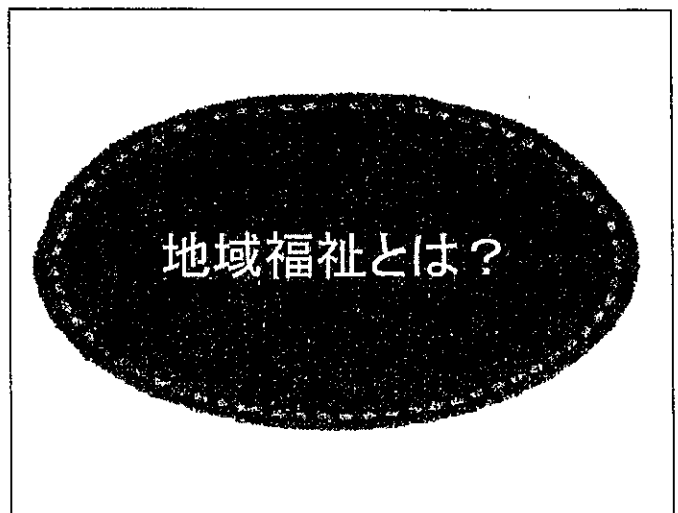
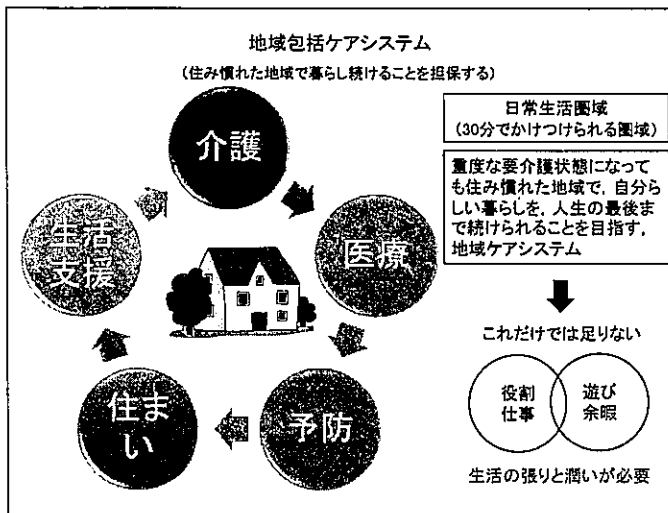
(21世紀型(2025年)日本モデルの提唱)

高度経済成長期に確立した「1970年代モデル」の社会保障から、超高齢化の進行、家族・地域の変容、非正規労働者の増加など雇用の環境の変化などに対応した全世代型の「21世紀(2025年)日本モデル」の制度へ改革することが喫緊の課題。⇒「地域包括ケア」が重要な役割を担う

キーワードは「地域が主体」

【参考文献】

「社会保障制度国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」平成25年8月



地域福祉の定義

地域福祉とは、自立生活が困難な個人や家族が、基礎自治体や生活圏を同じくする地域において自立生活できるようネットワークをつくり、必要なサービスを総合的に提供することであり、そのために必要な物理的、精神的環境醸成を図るとともに、社会資源の活用、社会福祉制度の確立、福祉教育の展開を統合的に行う活動。

出典：大橋謙策(2007)『新版社会福祉学習双書—地域福祉論』全国社会福祉協議会

□ 地域福祉との向かい方

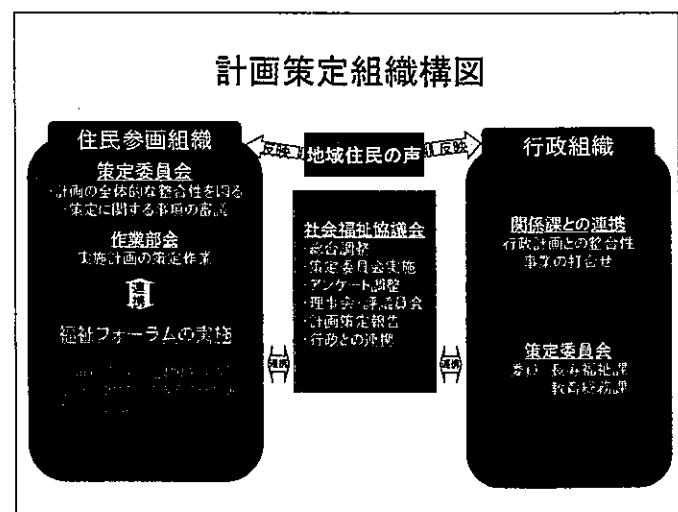
◇これまでは、地域との関わりは「私(わたくし)」事として受けとめられて来ました。(物好きな人がやればよい！)

◇しかし、これからの時代、地域との関わりこそが「公(おおやけ)」(地域福祉推進の主体)になります。(社会福祉の第4条)

◇そして、今！
団塊の世代や企業等も社会的責任を担える絶好の機会にあります。

富谷市社協地域福祉活動計画

- 基本理念・基本目標・基本計画(10年)
- 実施計画:3~4年
- 前期:平成20年度~平成22年度(3年)
- 中期:平成23年度~平成25年度(3年)
- 後期:平成26年度~平成29年度(4年)



基本理念

(地域福祉活動推進計画は、平成20年度を初年度とし、10年後の平成29年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。)

心ふれあう暮らしやすい
福祉のまちづくり

4つの柱

- 基本目標1
「住民参加による福祉のまちづくり」
- 基本目標2
「共に支え合う福祉のまちづくり」
- 基本目標3
「安心して暮らせる福祉のまちづくり」
- 基本目標4
「安定した地域福祉のまちづくり」

基本目標1(助け合いの心)

「住民参加による福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 広報活動の充実
- (2) 福祉教育活動の充実
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
- (4) 地区コミュニティづくりの展開

子育てサロン「とことこ」



対象 - 0歳児～3歳児

概要 - サポーターにより、各自治会館等でサロン活動を行う。

基本目標2(地域ぐるみ)

「共に支え合う福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) ボランティアセンターの充実
- (2) 災害ボランティア体制整備
- (3) 地域福祉活動の人材確保と育成
- (4) 福祉関係機関との連携および活動支援

ボランティアセンター



対象 - ボランティア

概要 - 活動をしたいまたは必要な方をつなぐ相談支援機関。

基本目標3(福祉サービス)

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 相談支援機能の強化
- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

給食サービス事業(市受託事業)



対象—65歳以上の一人・二人暮らし高齢者(受託事業)
概要—栄養面・安否確認の観点から、昼食を宅配する。

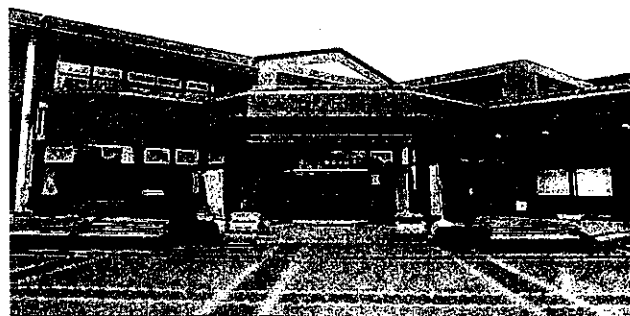
基本目標4(礎)

「安定した地域福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 地域福祉活動推進計画の進行管理
- (2) 経営・財政基盤の強化
- (3) 事務局体制の整備
- (4) 事業推進体制の整備

情報発信(IT活用等)



対象—一般住民
概要—幅広い広報活動の観点から、情報発信を行う。

今回の見直し策定の流れ

- ・ 策定委員選任
- ・ 計画諮問(会長より)
- ・ 現状事業評価
- ・ 課題整理・住民ニーズ把握
- ・ 福祉フォーラム開催
- ・ 実施計画策定
- ・ 計画調整・答申(委員長より)

キーワードは「住民の声を聞く・地域に向かう」

福祉は困っている方だけの『救済システム』ではなく
全ての方々に共通する安全・安心を築く『活性化システム』です



地域にある豊富な資源 Intangibles・Social Capitalを基にして
『地域社会の活性化』を図っていく
これが今日の福祉活動のあるべき姿です

ボランティア活動は、同様の機能を持つ。4原則(自主性・社会性・無償制・先駆性)を使って、より豊かな社会を創るべく市民の手で牽引していく実践活動。

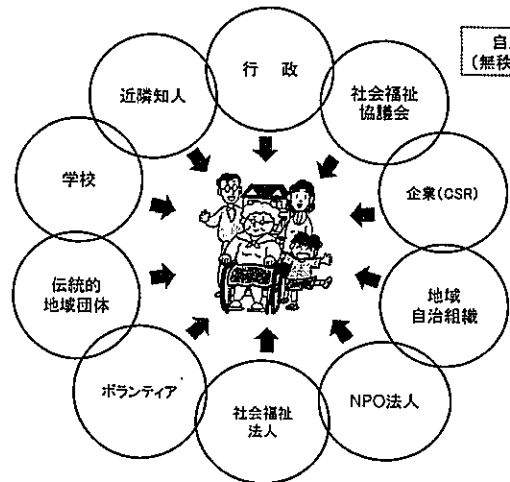
《参考》 ソーシャルワーク(social work)
ソーシャルワークとは、人権を擁護し社会正義の実現を図るところに価値を置いた実践。

私たちが果たすべき役割

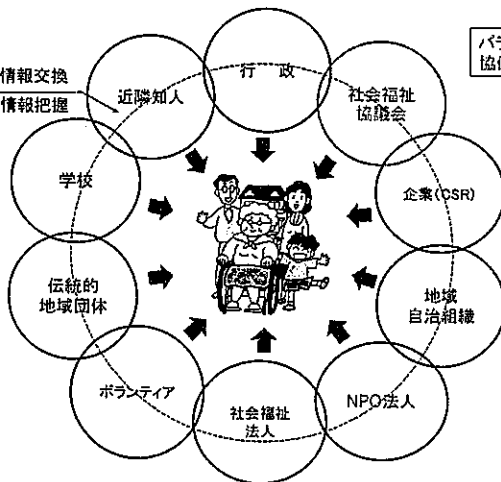


地域住民の方々に
「ひと・もの・お金・情報・資源」をつなぐ

福祉の視野を広げる・ネットワークをつなぐ
地域の課題にアンテナを張る



定期情報交換
活動情報把握




分科会にてあなたの
声をお聞かせください



社協の地域福祉の未来に
つながる一歩として
よろしくお願いいたします。

富谷市社会福祉協議会
地域福祉フォーラム
分科会① 住民参加による福祉のまちづくり



富谷市社会福祉協議会
コーディネーター 景山 千愛

地域包括ケアシステムとは

要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることが出来るよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されること。

つまり…

- 要介護状態にならないこと = 健康づくり
- 要介護状態になっても、地域との繋がりを維持していくこと

大切!

地域包括ケアシステムとは

これまで 要介護状態にならない介護予防 → これから 要介護状態にならない介護予防 + 地域で暮らし続けるための生活支援

要介護予備軍	対象	すべての高齢者
身体・精神機能の向上	めざすもの	社会参加を通しての自立・自律
介護予防サービス	サービス・活動	居場所・集いの場・支え合い

介護予防・日常生活支援総合事業とは

総合事業とは、市町村が中心になって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進していく

つどいふれあいサロンの紹介

既存の介護事業所による既存のサービス + NPO、民間企業、ボランティアなどの地域の多様な主体を活用し、高齢者を支援

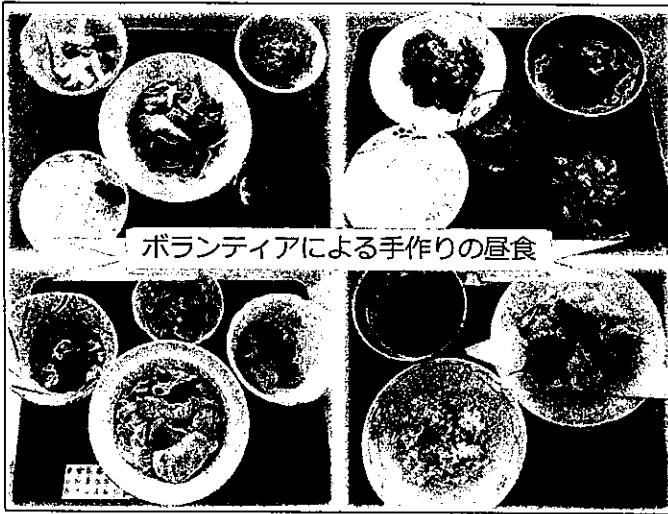
つどいふれあいサロンの概要

対象者	虚弱高齢者（要支援、基本チェックリスト該当者）
日時	毎週水・木曜日 10:00～14:30
場所	福祉健康センター
活動内容	レクリエーション、創作、運動、脳トレ、調理、会食、健康相談、お茶のみ等
参加費	1回あたり700円（昼食費含む）

つどいふれあいサロンの特色

サロンの企画・運営 送迎 昼食づくり 下膳・配膳 利用者の見守り 片付け
…など

職員だけで運営するのではなく、
ボランティアを活かしながら、市民と共に作り上げているサロンです。



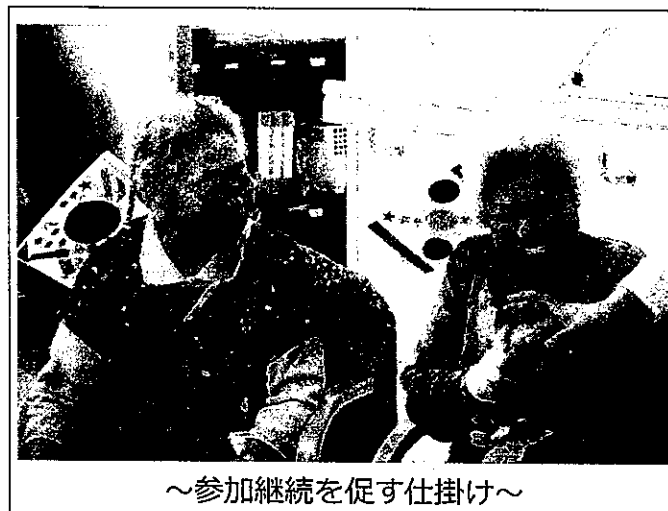
サロン活動を通して見えたもの

①きっかけづくり

活動に繋がりを持たせる

達成感を感じる
自信がつく

また行きたい



サロン活動を通して見えたもの

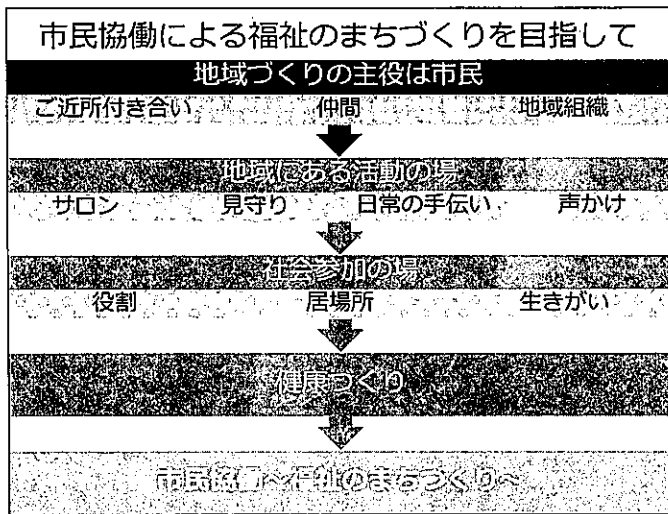
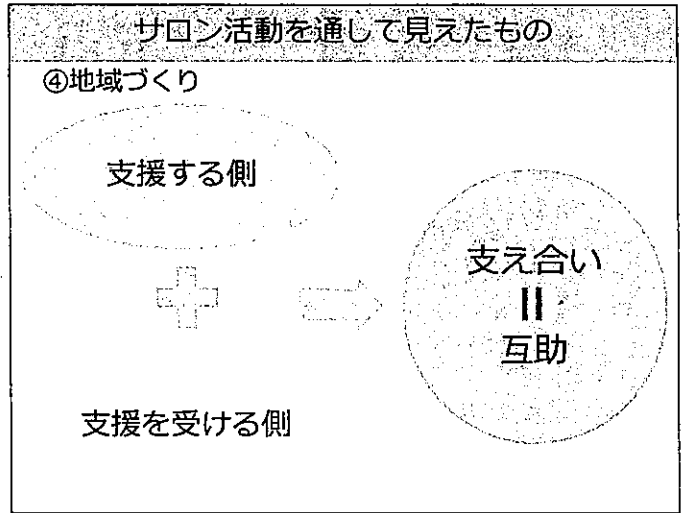
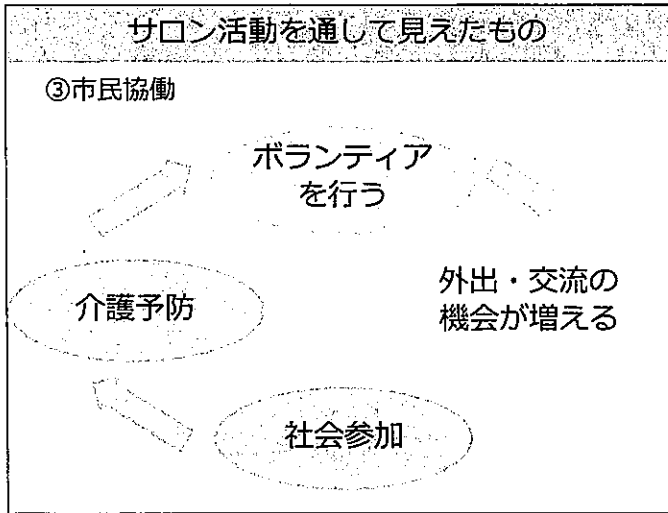
②居場所づくり

役割がある

居場所

待っている
人がいる

必要とされ
ている



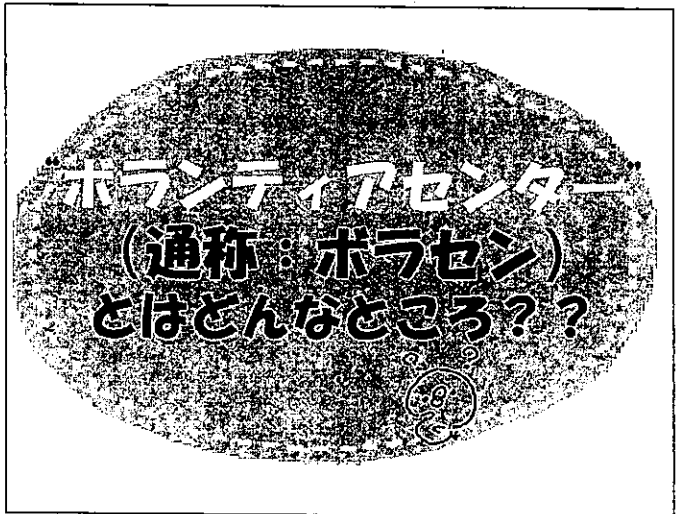
第2分科会

共に支え合う 福祉のまちづくり

～地域ぐるみ～

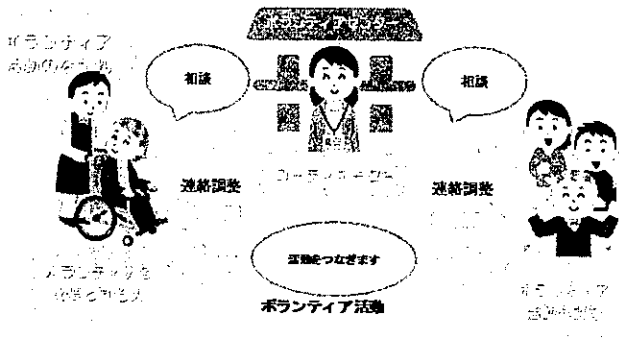
富谷市社会福祉協議会・ボランティアセンター

ボランティアコーディネーター 佐藤 怜美



■相談・あっ旋

ボランティアをしたい人、ボランティアを必要とする人
や施設からの相談、連絡調整、あっ旋。



■研修・人材育成

活動に必要な知識や技術などの各種
講座・研修会等の開催。

■ボランティア保険加入の推進

自分と相手を守るために。保険料の
助成制度。



■活動支援

地域福祉活動助成金など。

富谷市のボラセン登録状況

ボランティアセンター(ボランティアを必要としている人とボ
ランティアしたい人をつなぐところ)の登録状況(※29.9月末時点)

→ ボランティア団体 52団体671名

→ 個人ボランティア159名



合計832名

富谷市
ボラセンの

活動紹介



① 日常生活へのボランティア

＜高齢者の交流（虹いろ会食サロン）＞
 一人暮らし高齢者対象の会食交流会でのお手伝い
 （月2回、2公民館ずつ計4館で開催）



→調理ボランティア&運営補助ボランティア

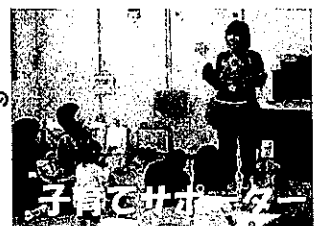
＜高齢者への給食サービス＞



市内に住んでいる65歳以上の高齢の
 皆さんへ お區ごはんのお弁当配達



＜子育て支援＞
 （子育てサロン「とことこ」）



0歳から小学校前のおやこを対象としたサロン活動のお手伝い
 （サロン運営、お話相手、手遊び、紙芝居など）

② 福祉施設でのボランティア

心を込めて話を
 聴くボランティア



富谷傾聴の会

趣味や資格を
 活かした活動



理美容ボランティア
 ミミ

施設行事のお手伝い

夏祭りや敬老会などで車いす介助、話し相手、お茶出しなど



ボランティア友の会



③ イベント地区のボランティア

ふるさとまつりへの協力



ランタンアートの街並へ・点灯



舞台出演ボランティア



出店ボランティア

④ 自分の暮らす地域でのボランティア～富ヶ丘地区～

～オアシス・ルームの活動から～

- 幼児から小学生の中心・集団遊び
- 地域の人が誰でも参加できる
コミュニティカフェの開催
- 地域の老人ホームの方を交えた、隣近所さん・子育て親子との交流茶話会
- ティータイムの定期的開催 ● 子育てサロン ● お話タイム
- 高齢者施設訪問 などなど…

⑤男性参加のボランティア～沓尾さんの活動から～



男性が地域に出ること、そしてボランティア活動を積極的に行うこと…「共に支え合うまちづくり」には男性の力が鍵となります！！

▲交流イベントでの運営補助



▲歳末お弁当配達協力



▲個人宅の庭整備

▲ボラセン情報交換会での事例発表

▲富谷傾聴の会での活動の様子

ボラセンの
現状とは…

＜ボランティアセンター登録者＞

ボランティアセンター登録者（年代別）

年代	人数	主な所属
10代	22名	YOSAKOIとみや等芸術ボラ
20代	22名	YOSAKOIとみや等芸術ボラ、元家賃生（共済会入で活動なし）
30代	21名	子育て関係、個人ボラ
40代	50名	子育て関係、個人ボラ、芸術ボラ
50代	71名	民生委員、探訪、子育て関係、音楽ボラ、芸術ボラ 他
60代	243名	民生委員、探訪、子育て関係、音楽ボラ、美術ボラ 他
70代	276名	民生委員、探訪、子育て関係、音楽ボラ、芸術ボラ 他
80代	57名	芸術ボラ
90代	1名	芸術ボラ
年齢記述無し	69名	芸術ボラ 等
計	832名	

※ボラセン登録者には民生委員児童委員、交通安全協会なども登録しています。

＜ボランティアの実活動数＞

H29 ボランティア活動実数（4月～9月）		
月	人数	
4月		336名
5月		314名
6月		315名
7月		363名
8月		259名
9月		336名
計		1923名
平均		320名

○課題を解決、または改善するため
にどのようなことが必要であるか。

○若い世代を取り込む工夫。

○男性を地域に取り込む工夫。

○新たな担い手を確保するにはどんなこ
とをしなければならないのか。

○現状の良い所を活かしつつボラセンの
体制整備をしていくことは可能であるか。

これからの
ボラセンに求められ
ていることとは…？

“共に支え合う福祉のまちづくり”
地域ぐるみで生活できる地域を
つくるために皆さんのお声を聞か
せてください！！

ありがとうございました♪
これからもよろしくお願ひします！

第3分科会

安心して暮らせる福祉のまちづくり
～福祉サービス～

富谷市社会福祉協議会
主任福祉活動専門員 斎藤 翔
保健師 阿部 亜希子

事例①

体調管理と社会参加



富谷市社会福祉協議会



基本情報

- ①70代・男性高齢者 Aさん
- ②1人暮らし・親族は県外にしかいなく疎遠。
- ③アルコールを飲みすぎる傾向があり、体調を崩すことがある。
- ④欠食など食生活が乱れていた。
- ⑤人との関わりが少なかった。

～事例①～ 高齢者の生活状況

- ①人との関わりが少ない。
- ②栄養面が乱れていた。
- ③お酒を飲みすぎて体調を崩す。

そのようなAさんの生活を心配して、
民生委員より社協に連絡が入る。

- 社協と民生委員での確認したこと
- ①Aさんの生活状況の共有
- ②どのようなサービスを利用するか。

給食サービス事業の利用を検討するため、市の担当課の長
寿福祉課と連携し、サービスの
利用を開始した。

ボランティアさんが平日毎日配達することで、人との関わりも生まれました。また、昼間からお酒を飲んでいないか手渡すとき確認ができ、体調の変化に目も向けることができました。

弁当受け渡し時の様子



※事例とは関係ありません

栄養バランスの取れたお弁当 ～配達されるお弁当～



その後

人との関わりの中で、社会参加の意欲が生まれ、地域の清掃活動にも自ら参加し、地域とのつながりを持ち、地域の方と一緒にボランティア活動をするまでになった。

事例②

ひきこもりから生きがい

と誇りあふれる生活へ



富谷市社会福祉協議会



基本情報

- ①70代・男性高齢者 Bさん
- ②数年前に妻を亡くして、1人暮らし。
- ③身内も県内にはいない。
- ④町内会活動などにも参加せず、人との関わりを持たない。



- ①ひきこもりで、人との関わりが少ない。
- ②社会参加ができない。



1人暮らしのBさんの生活を心配して、何度も訪問するが、なかなか地域に出ようとしなない。そこで民生委員より社協に連絡が入る。



1人暮らしの方のみ参加する虹いろ会食サロンの利用を検討するため、市の担当課の長寿福祉課と連携し、サービスの利用を開始した。



最初は乗り気ではなかったが、見学だけでもと民生委員と参加。すると同じ境遇の参加者と意気投合し、サロンに登録することになった。

虹いろ会食サロンでの様子



その後

月1回のサロンは欠かさずに参加。また、サロンのない日もサロンメンバーとカラオケなど外出するようになった。趣味だった将棋サークルに通うようにもなった。地域とのつながりが生まれて、生きがいを持ち社会参加できるようになった。

地域の力が必要

2つの事例とも福祉サービスを利用するだけでは状態の改善がすべてはできませんでした。福祉サービスの利用前後に地域住民同士の支えがあり、本人の社会参加や余暇活動支援が成り立ちました。

今後も富谷市社会福祉協議会は地域のみなさんと協働して安心して暮らせる福祉のまちづくりを行っていきます。よろしくお願いたします。



富谷市社会福祉協議会



第4分科会 安定した地域福祉の まちづくり (礎)

富谷市社会福祉協議会
事務局次長 佐々 利春

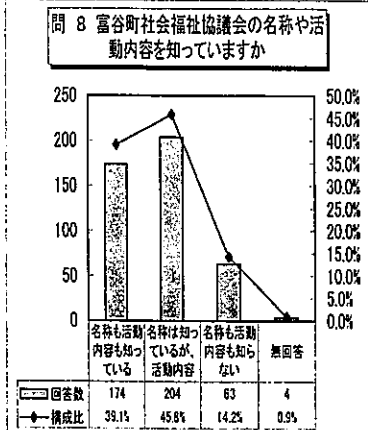
ところで
ご存知でしたか??

富谷市社会福祉協議会は
地域のみなさんの会費で
支えられている団体です

しかし、現実は何??

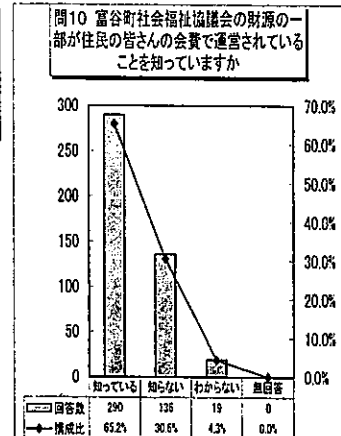
問 8 富谷町社会福祉協議会の名称や活動内容を知っていますか

	回答数	構成比
名称も活動内容も知っている	174	39.1%
名称は知っているが、活動内容は知らない	204	45.8%
名称も活動内容も知らない	63	14.2%
無回答	4	0.9%
計	445	100.0%



問10 富谷町社会福祉協議会の財源の一部が住民の皆さんの会費で運営されていることを知っていますか

	回答数	構成比
知っている	290	65.2%
知らない	136	30.6%
わからない	19	4.3%
無回答	0	0.0%
計	445	100.0%



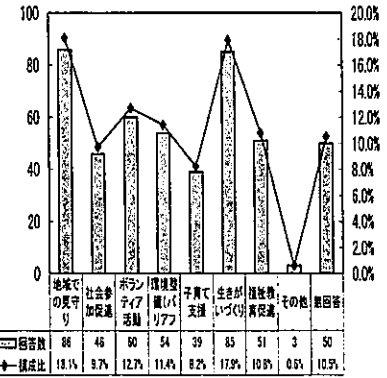
しかし、期待もされています

問17 もし、あなたが今後福祉のまちづくりのために必要と考える活動はどれですか

	回答数	構成比
地域での見守り	86	18.1%
社会参加促進	46	9.7%
ボランティア活動	60	12.7%
環境整備(バリアフリー)	54	11.4%
子育て支援	39	8.2%
生きがいづくり	85	17.9%
福祉教育促進	51	10.8%
その他	3	0.6%
無回答	50	10.5%
計	474	100.0%

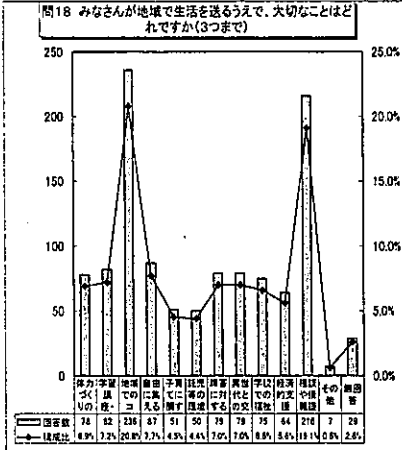
※複数回答

問17 もし、あなたが今後福祉のまちづくりのために必要と考える活動はどれですか



問18 みなさんが地域で生活を送るうえで、大切なことはどれですか(3つまで)

	回答数	構成比
体力づくりのための事業	78	6.9%
学習講座・趣味のグループなどについての情報提供	82	7.2%
地域でのコミュニティづくり	236	20.8%
自由に集える場の提供	87	7.7%
子育てに関する理解	51	4.5%
託児等の環境整備	50	4.4%
障害に対する認識・理解	79	7.0%
異世代との交流を図る場所や機会	79	7.0%
学校での福祉教育の推進	75	6.6%
経済的支援(ものお返し)	64	5.6%
相談や情報提供窓口の充実	216	19.1%
その他	7	0.6%
無回答	29	2.6%
計	1133	100.0%



社協への期待

- 地域でのコミュニティづくり
- 地域での見守り(居場所)

ところが……

実は社協って
皆さんの会費で
こんな事業していますよ？
例を挙げると……

社協出前講座



対象—各町内会

概要—災害・福祉教育・生活相談事業等の講習・講話

福祉体験学習



対象—小学生・中学生・高校生

概要—自分に出来ることを考え、福祉の心を学ぶ

災害体制整備



対象—一般住民

概要—幅広い方々に日頃の備えに対する啓発活動を行う。

皆さんのご協力が
どうしても必要です！
貴重なご意見を
よろしくお願いします！

富谷市社会福祉協議会 地域福祉フォーラム
分科会まとめ

第1分科会 住民参加による福祉のまちづくり（助け合いの心）

進行役 富谷市保健福祉総合支援センター 所長 安積 春美 氏
発表者 つどいふれあいサロンボランティア 若生 礼子 氏
富谷市社会福祉協議会コーディネーター 景山 千愛 氏

富谷市社協コーディネーター 景山 千愛 氏

- 自助的な健康づくりや地域とのつながりを維持する活動による、地域包括ケアシステムの構築を目指している。
- これからは地域で暮らすために、介護予防にプラスして生活支援が必要になってくる。
- 全ての高齢者を対象に社会参加＝自立を目指す。
- 介護予防・日常生活支援総合事業による、既存のサービスにプラスして多様な主体（民間企業、ボランティア、NPO法人など）が高齢者を支援していく。

つどいふれあいサロン 景山 千愛 氏

- 富谷市社協で開催しているサロン
- 職員やボランティア、利用者が一丸となって行い、自分の得意分野を活かせるのがこのサロンの特徴である。
- 虚弱高齢者が対象
- 午前中から開始し、昼食をはさんで昼過ぎまで行う。
- 700円で参加可能
- 主な活動はレクリエーションや体操などの運動、脳トレ、食事などがある。
- 食事はボランティアによる手作り昼食である。
- また、自宅までの送迎もある。

つどいふれあいサロンのボランティア 若生 礼子 氏

- 始めは何をやるのかわからなかったが、ボランティア体験の活動を通し、夫の後押しもあり、友人を誘いボランティアを始める。
- 昼食を作ると、利用者の方にとっても喜んでもらえる。
- 口コミによって、今ではボランティアは総勢33名いる。
- しかし、いつかは自分もボランティアを辞めることになる為、後を継ぐ人を見つけないかなかなか見つからない。
- 昼食に関して、利用者の方のリクエストやボランティアスタッフのアイデア料理、市の食べ物を使った料理、懐かし料理といった色々な昼食を提供したいと思っている。

つどいふれあいサロンの活動を通して 景山 千愛 氏

- 活動に繋がりを果たせる。参加継続を促す仕掛けとして、はじめにきかっけづくりに努める。

- 次は居場所づくりである。一人一人の役割を創出する。例えば料理が苦手な人でも、料理中に何か出来ることをしてもらおう。何かを見出すのはサロンの運営側である。
- 次は市民協働である。自分自身の健康をつくる。
- 最後に地域づくりである。主役は市民であり、誰もが地域の担い手として、自分の出来ることをする。
- また副次的効果として、ボランティアスタッフも活動を通して元気になっている。

意見交換の部

- 福祉はいろいろなものが積み重なってできるもの。
- ラジオ体操やイルミネーション設置などの地域活動が、心身ともに暖まって有難かった。
- 会館を憩いの場として10時から16時まで開放している。また、飲み場として17時から21時まで開放している。
- 街角カフェというサロンを開催している。
- 参加対象に特に制限は設けておらず、誰でも参加できる。
- 毎週金曜日に10時から15時まで開催している。
- 参加費は100円
- 参加者は26名程度
- 主にコーヒーやお菓子を食べながら談笑を楽しむ。

第2分科会 共に支え合う福祉のまちづくり

進行役	東北文化学園大学医療福祉学部教授	豊田 正利 氏
発表者	富谷市社会福祉協議会ボランティアコーディネーター NALC仙北 事務局長	佐藤 怜美 氏 荒尾 義範 氏

富谷市のボランティア団体は52団体あり、671名が参加。個人ボランティアは、161名の参加があり、計832名の参加があった。ボランティアの主な内容として、一人暮らしの高齢者への配食サービスが月曜から金曜の平日に行われる。子育て支援のための子育てサロンや虹いろサロンに参加している。イベントでは、ふるさと祭りへの協力として、出店や清掃、舞台演出当を行っている。自分の暮らす地域でのボランティアでは、オアシスルームがある。オアシスルームではコミュニティカフェの開催や調理ボランティア等を行っている。「ボランティアはまず参加することから始まる。ボランティアは難しいものではなく、チャンスをつかむ機会でもある。ボランティアは楽しくなければボランティアではない」という話もあった。

1 ボランティアセンターの概要報告 現状と課題

- 登録者の年代が60～70代が大半を占めている。
- その割合として、女性75%、男性25%で女性が圧倒的に多い。
- 高齢化が進み、ボランティアの担い手が徐々に無くなっていくのではないかと不安がある。
- 4月～9月までのボランティアの活動人数は320名であるが、その大半の活動は高齢者への配食サービスや調理ボランティアなどがほとんどである。
- 若い世代をどのようにして取り込むかが大きな課題。
- 個人のニーズに答えられていない。
- 情報提供の少なさ。

2 分科会に参加した人の意見

- 民生委員の方だけでは足りない。
- 様々な組織と情報共有をして進めていくことが必要。
- 身近な地域相談できる組織が必要。
- 若い世代の方たちの参加を促すためにもSNSを活用した情報提供の工夫が必要。
- 家族が参加できるボランティアを増やせば、子供の頃からボランティアの精神を育てられるのではないかと。
- 有償ボランティアも必要になるのではないかと。

第3分科会 安心して暮らせる福祉のまちづくり（福祉サービス）

進行役 宮城県社会福祉協議会地域福祉部 部長 西塚 国彦 氏
発表者 富谷市社会福祉協議会福祉健康センター 所長 齋藤 翔 氏
保健師 阿部亜希子 氏

1 「体調管理」の事例について

- Aさん70代男性 市内在住
- 一人暮らしで、親族は県外にしかいなく疎遠。
- アルコールを飲みすぎる傾向があり、体調を壊すこともある→給食サービス事業の利用を開始。
- サービス利用後は栄養面の改善がみられ、清掃活動などのボランティアへ参加するようになった。

【給食サービスとは？】

- 市内の65歳以上の方が対象。
- 昼食のみの提供。
- 安否確認の意味合いもある
- ボランティアの協力を得て毎日実施。

【代表質問】

- 年間どれくらいの利用者がいるのか？→昨年度は利用者数134名で延べ1万6019食配布。
- 本当にこのサービスで栄養管理は大丈夫？→必ずしも全てをカバーできてはいない。
- ボランティアは足りている？→現状足りていない。ただ、ニーズは増加傾向なので、今後を見据えて検討していく。

2 「社会参加」の事例について

- Bさん70代男性 市内在住
- 数年前に妻を亡くし、一人暮らし。
- 県内に身内なし。
- 引きこもりがちで近隣との関わりが少ない→虹いろ会食サロンの利用を開始。
- サービスの利用後は友人ができ、カラオケなどへ行くようになった。また、これが余暇活動にも繋がった。

【虹いろ会食サロンとは】

- 65歳以上の一人暮らしの方が対象。
- 公民館まで来れる方（比較的元気な方）
- 会食の他にレクリエーションも実施（鑑賞会、外部講師の講話等）
- 調理ボランティアの協力を得て昼食を提供している。

【代表質問】

●市内何か所で実施している？

→市内4か所で実施し、同日に2か所で行う。また職員も1か所に2名同行。

●利用したい時はどうすればいい？

→市の受託事業なので、市の窓口か社協へ問い合わせして欲しい。

●日中独居の人の利用は可能か？

→利用は可能。ただし全員が利用できる訳ではないので職員が調理能力の有無等を確認させていただく。

3 二つの事例を受けて

●どちらの事業も利用できない方もいるのでは？（家庭内で孤立している方等）

●2つの事業の規則を緩和して欲しい。

●サービスの開始を終了したら、今度はサービスを支える側に回ればいいのか？

●市からの助成を増額して欲しい。

●地区によってサロン活動を行っている場所まで遠い。

●障害を持っている方をサポートする事業が少ない。

●社協の情報が住民へ回ってない。

第4分科会 安定した地域福祉のまちづくり（礎）

進行役	宮城県社会福祉協議会地域福祉部 部長	田村 武暢 氏
発表者	福祉活動推進員（町内会長）	門間とも子 氏
	富谷市社会福祉協議会 事務局次長	佐々 利春 氏

講話の目的

- ① 社会福祉協議会の業務内容の理解
- ② 市民の方からの質問や意見を聞き参考にし今後の運営に取り込む

活動内容

- ①社会福祉協議会は地域のコミュニティーの強化、見守りなど地域間で支える団体である。
- ②月に一回勉強会を行っている。
- ③学校での福祉教育に取り組んでいる。
- ④広報誌を年に5～6冊発行している。（富谷市の場合は全ての住民に発行している）
- ⑤会費を集め（主にカフェや学校の福祉教育などに使用されている）
- ⑥経済的扶助
- ⑦防災訓練

課題

- ①町内会に入りたくない住民が多い（運営が大変になり、コミュニティーが減少する）
- ②地域の方々はあまり社協について理解していない。
- ③生活困窮者が増加している。
- ④会費だけでは運営が成り立たない。

社会福祉協議会への今後の期待

- ①地域の方の居場所となる

質疑応答

Q 1 社協は法人なのか？また法人であればどのような法人なのか？

A 1 社協は民間の団体、地域福祉の団体である。

Q 2 カフェの具体的な内容は？

A 2 地域のコミュニティーの活性化として、実験的に行った。参加者は誰でも参加可能である。午前と午後の二部構成で行っている。（目的は高齢者を家から連れ出すことを目的としている。また散歩コースに設置することによってより効果が良い。）

Q 3 社協に身近さを感じないが、住民も本当に地域活動等に協力しているか？

A 3 今後社協をより深く知っていただくために、看板など工夫して改善に取り組む。

意見

- ①チラシの写真について実際にこのような活動をしていると示すためにも集合写真ではなく、活動風景を記載するべきではないか。
- ②チラシに書くことが多くて字すごく小さい上に、量が多い。沢山伝えたい気持ちは分かるが、目が不自由な高齢者の為にも、量を減らし簡潔に伝えるべきではないか。
- ③社協について知ってもらうためにも、宣伝や講演会をもっと増やして工夫して知ってもらう必要があるのではないか。

最後に

大切なのは、やったつもりにならない事。また、より良い地域生活を送れるように社協は今後とも全力で支える。そのためにも住民の協力が欠かせないので、今後とも協力して欲しい。また、取り組みとして「我が事・丸ごと」の支援なども活発化している。

第1分科会

氏名	年齢	性別	学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7	2	6	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
19	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
20	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
21	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
22	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
23	0	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
24	2	5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
25	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
26	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
27	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
28	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
29	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
30	2	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
31	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	2	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
34	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
35	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
36	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
37	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
38	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
39	2	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
40	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
41	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
42	1	4	2	3	2										

質問1 活動の関心		質問2 サロンに必要なもの	
氏名	年齢	性別	学年
1	2	5	1
2	2	5	1
3	2	4	1
4	2	6	1
5	2	4	1
6	1	6	1
7	2	6	2
8	2	1	1
9	2	6	1
10	2	6	1
11	2	6	1
12	2	5	1
13	2	6	1
14	2	5	1
15	2	6	1
16	2	6	1
17	2	5	1
18	2	5	1
19	1	6	1
20	1	5	1
21	2	5	1
22	2	5	1
23	0	4	1
24	2	5	2
25	2	5	1
26	2	6	1
27	2	6	1
28	1	4	1
29	2	6	1
30	2	6	1
31	1	6	1
32	0	0	0
33	2	5	1
34	2	4	1
35	1	6	1
36	1	5	1
37	2	3	1
38	1	4	1
39	2	4	2
40	1	5	1
41	1	6	1
42	1	4	2

質問3 サロンに必要なもの	
氏名	年齢
1	22
2	25
3	18
4	11
5	7
6	18
7	12
8	12
9	12
10	22

その他

第1分科会

氏名	年齢	性別	学年
1	22	男	1
2	15	女	1
3	2	男	1
4	2	男	1
5	0	男	1
6	1	男	1
7	9	男	1
8	14	男	1
9	16	男	1
10	16	男	1
11	16	男	1
12	16	男	1
13	16	男	1
14	16	男	1
15	16	男	1
16	16	男	1
17	16	男	1
18	16	男	1
19	16	男	1
20	16	男	1
21	16	男	1
22	16	男	1
23	16	男	1
24	16	男	1
25	16	男	1
26	16	男	1
27	16	男	1
28	16	男	1
29	16	男	1
30	16	男	1
31	16	男	1
32	16	男	1
33	16	男	1
34	16	男	1
35	16	男	1
36	16	男	1
37	16	男	1
38	16	男	1
39	16	男	1
40	16	男	1
41	16	男	1
42	16	男	1
合計	42		

共に支え合う福祉のまちづくり（地域ぐるみ・第2分科会）

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会

●「あなた」についてお伺いします。

問1 性別はどちらですか。（1つに○）

- 1 男 2 女

問2 年齢はいくつですか。（1つに○）

- 1 20歳以上30歳未満 2 30歳以上40歳未満
3 40歳以上50歳未満 4 50歳以上60歳未満
5 60歳以上70歳未満 6 70歳以上

問3 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。（1つに○）

- 1 日頃から助け合う関係でありたい
2 緊急時や災害時に助け合う関係でありたい
3 わずらわしく積極的には付き合いたくない
4 その他（ ）

問4 今回の地域福祉フォーラムの満足度はいかがでしょうか？（1つに○）

- 1 満足 2 やや満足 3 ふつう 4 やや不満 5 不満

●地域活動・ボランティア活動について、お考えを伺います。

問5 あなたは今後、地域活動・ボランティア活動に参加したいと思いませんか。（1つに○）

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない
(理由)

問6 あなたが地域活動・ボランティア活動をする為に必要だと思うものは何ですか（いくつでも）

- 1 ボランティア講座 2 活動で必要となる機材や場所の提供
3 多少の謝礼や特典が得られること 4 社会的な評価を得られること
5 地域の情報や実情が把握できること 6 その他（ ）

問7 あなたが今後ボランティアセンターに期待することは何ですか（いくつでも）

- 1 ボランティア登録・斡旋業務の効率化 2 活動の場の提供や開拓
3 活動への助言や支援 4 情報提供
5 有償ボランティアの検討 6 人材育成（研修機会の提供等）
7 その他（ ）

●富谷市社会福祉協議会地域福祉フォーラムについて、ご意見を伺います。

問8 今後、社協フォーラムについて、取り上げてほしい内容・テーマについてご記入下さい。

以上でアンケートは終了です。ご協力誠にありがとうございました。

第2分科会

氏名	1			2			3			4			5			6			備考	
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
1	6	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	ホール裏かつた	
2	6	1	3	3																
3	6	1	2	1	退席法に参加したい															分科会はホールではなく各分科会毎に仕切られた部屋で行って下さい。周りの分科会の声がうるさく集中して聞けない
4	1	5	1	2																機会を多く催して円を強化すれば参加者が多くなることを望みます。
5	1	6	1	2																
6	1	6	1	2																
7	1	6	1	2	年齢的に無理															ポランティアの守秘義務、他の分科会の声が大きく聞きづらい、2階を利用すべき。
8	1	6	1	2																情報提供。ポランティアの為、個人情報が取れないので十分な活動が出来ない、他の地域の活動状況を知りたい。
9	1	5	1	2	必要と感じた															
10	1	6	1	2	3															
11	2	6	1	2	1	1														
12	1	6	1	1																
13	1	5	2	1																
14	2	5	1	2	地域の中で暮らす一人としての責任だと思う。															
15	2	6	1	3																
16	2	6	1	2	助け合いしたい。時間があるから。															
17	2	6	0	1																
18	2	6	1	1	080代で体力的に無理ですが頑張るだけはあります。															
19	1	5	2	1	1	3														
20	1	5	1	1																
21	2	5	1	3	1															
22	2	3	2	2	民生委員なので															
23	1	5	1	1	役に立ちたい															
24	1	6	2	1																
25	1	5	1	2	1															
26	1	6	1	3	WGAのサポートをメインに活動中															
27	2	1	2	4	多様な世代との交流を通し、異なる価値観に触れたい															
28	1	4	1	3	現在も活動中															
29	1	6	1	1																
30																				
31																				
32																				
33																				
34																				
35																				
36																				
37																				
38																				
39																				
40																				
41																				
42																				

問6. 地域活動・ポランティア活動に必要だと感じる事

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティア講座					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

問7. ポランティアセンターに期待することは？

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティアの登録					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

問7. 地域活動・ポランティア活動に必要だと感じる事

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティア講座					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

問8. ポランティアセンターに期待することは？

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティアの登録					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

問9. 地域活動・ポランティア活動に必要だと感じる事

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティア講座					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

問10. ポランティアセンターに期待することは？

番号	内容	1	2	3	4	5
1	ポランティアの登録					
2	活動の場所提供・宿泊					
3	多額の謝礼・特典					
4	社会の理解					
5	地域の情報・実用情報の提供					
6	その他					

安心して暮らせる福祉のまちづくり（福祉サービス・第3分科会）

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会

●「あなた」についてお伺いします。

問1 性別はどちらですか。（1つに○）

- 1 男 2 女

問2 年齢はいくつですか。（1つに○）

- 1 20歳以上30歳未満 2 30歳以上40歳未満
3 40歳以上50歳未満 4 50歳以上60歳未満
5 60歳以上70歳未満 6 70歳以上

問3 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。（1つに○）

- 1 日頃から助け合う関係でありたい
2 緊急時や災害時に助け合う関係でありたい
3 わずらわしく積極的には付き合いたくない
4 その他（ ）

問4 今回の地域福祉フォーラムの満足度はいかがでしょうか？（1つに○）

- 1 満足 2 やや満足 3 ふつう 4 やや不満 5 不満

●地域の福祉サービスについて、お考えを伺います。

問5 あなたがお住まいの地域の福祉サービスは充実していますか。（1つに○）

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない
（理由 ）

問6 あなたは今後社協が取り組むべき福祉サービスはどの分野とお考えですか（1つに○）

- 1 一緒に外出や買い物等を行う同行支援
2 高齢や障がいの場合の為に備える権利擁護支援（成年後見・法人後見・まもり一ぶ等）
3 移動の面が困難な場合の移送サービス支援
4 空き家や地域の施設を利活用しての施設運営（作業所・グループホーム）
5 その他（ ）

問7 今後福祉サービスを展開する上で、社協が連携・協力すべき機関はどこですか（いくつでも）

- 1 NPO・ボランティア団体 2 商店会・商店街
3 一般企業 4 高齢者福祉施設
5 障害者福祉施設 6 医療機関
7 学校（小・中学校・高校） 8 地域包括支援センター
9 行政 10 その他（ ）

●富谷市社会福祉協議会地域福祉フォーラムについて、ご意見を伺います。

問8 今後、社協フォーラムについて、取り上げてほしい内容・テーマについてご記入下さい。

以上でアンケートは終了です。ご協力誠にありがとうございました。

会 議 報 告 書

平成29年7月6日

日時及び場所	平成29年7月6日(木) 午前10時00分～11時50分 富谷中央公民館 研修室
出席者	大川明雄・内ヶ崎清子・浪越茂・清原慶・大澤正之・大童英雄・豊田正利・西塚国彦・馬場弘幸・那須正行・佐藤政悦・戸嶋さち・相澤美和・安積春美 (策定委員13名) 欠席者:那須正行(策定委員1名) 草野昭徳・奥山吉信・佐々利春・斎藤翔(社協事務局4名)
件名	第1回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 委員長・副委員長の選出について 策定委員会要綱に基づき、委員長に内ヶ崎清子氏、副委員長に豊田正利氏がそれぞれ選出される。(事務局案)</p> <p>(2) 地域福祉活動推進計画策定諮問について 富谷市社協草野会長より内ヶ崎策定委員長あてに策定諮問がなされる。 ・諮問のポイントは5点 1 策定は、平成30年3月を目標に完了すること。 2 地域の概要と特性を明らかにし、現在、富谷市社会福祉協議会で実施している事業・サービスの見直し作業を行い、現状分析と課題を明確化し、今後、社協事業を推進していくためにどのような考え方で取り組むかを明らかにすること。 3 策定は、第二期計画の策定を行うものとし、長期目標である基本理念・基本目標に加え、平成30年度～平成32年度までの後期実施計画(3ヶ年)の策定をすること。 実施計画期間 前期:平成30年度～平成32年度(3ヶ年) 4 計画には、広く地域住民の意見を取り入れたものが望ましいため、策定時にはその点も視野に入れながら行うこと。 5 計画を具現化する場合、財政的裏付けをよく考慮しながら策定作業を進めること。</p> <p>(3) 地域福祉活動推進計画策定概要説明及び事業報告について 社協事務局より平成20年度より策定の地域福祉活動推進計画の基本理念・基本計画・基本目標及び28年度の事業報告を中心に計画の概要説明がなされる。 事務局よりスライドで計画概要説明を行う。 ポイント・・<振り返り>地域福祉は1つのキーワードであり、社会福祉法で規定されている。地域の支え合いが、3・11の震災以降、大切になっている。自助、共助、公助で、特に共助・互助をいかに高めていくかが社協としての重要なカギとなってくる。さらに、事業報告を含めた見直し重点項目としては、ボランティアセンターの機能強化・地域福祉活動の人材確保と育成・行政及び関係機関との連携の3点を軸に見直しの方向性になる旨の説明を行う。</p> <p>委員から出た主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この計画の大枠基本理念・基本目標については、10年計画で、細目の実施計画が3年毎ということによろしいですか。まずその部分を確認したい。 ・福祉ニーズの調査手法については、アンケート・座談会以外の方法もあると考えられる。例えば、福祉大会のような形で分科会を開催しながら、福祉ニーズを把握する方法もあるのではないか 	

- ・社協の事業評価が必要ではないか。現状どこまで進んだかなどを数値化するなどして、一覧で示してほしい。
- ・富谷市と一概にいて、地域間で福祉ニーズに、格差があるのは間違いないその辺をきちんと踏まえた上で策定をお願いしたい。
- ・富谷市も高齢化の波が押し寄せてきている。2010年を100とすると2040年は320という値がでてくる。地域に力をつけていくことが必要ではないか。
- ・富谷市社協の強み、売りはこれだというものを示す必要があるのでは。
- ・富谷市介護保険第7期計画でアンケート調査を実施した。それらのデータも行政計画との整合性という部分では効果的ではないか。
- ・企業も地域貢献という役割がある。積極的にお声がけできれば応えることが出来る部分があると考えられる。今後検討していきたい。
- ・社協定款について次回確認させていただきたい。

等の意見が出される。出た意見をもとに、次回8月の策定委員会にて、お示しをするものとする。

(4) 今後の委員会のスケジュールについて

今後の予定案について、お示しを行う。おおむね来年2月を目途に5回程度の策定委員会及び福祉ニーズの把握を含めて答申に運んでいくことを確認する。

(5) その他

次回の委員会日程について

第2回策定委員会

日時：8月29日（火） 14：00～ 場所：富谷中央公民館

○協議事項（予定）

- ・社会福祉協議会事業評価について
- ・福祉ニーズ把握の検討について
- ・今後の委員会スケジュールについて

会 議 報 告 書

平成29年9月7日

日時及び場所	平成29年8月29日(火) 午後14時00分～ 富谷中央公民館 研修室
出席者	内ヶ崎清子・浪越茂・清原慶・大童英雄・豊田正利・西塚国彦・馬場弘幸・那須正行・佐藤政悦・戸嶋さち・相澤美和・安積春美 (策定委員12名) 欠席者：大川明雄・大澤正之(策定委員2名) 草野昭徳・奥山吉信・佐々利春・佐藤怜美(社協事務局4名)
件名	第2回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 社会福祉協議会事業評価について 社協事務局より、富谷市社会福祉協議会の概要及び事業の取り組み状況と課題・評価についての説明がなされる。 事務局より報告書、実施計画事業評価体系図で事業評価説明を行う。</p> <p>ポイント・・事業評価において、実施計画は現状維持・改善・廃止に分類され、改善となった事業を中心に取り組み状況、課題についての説明を行う。さらに、富谷市社会福祉協議会地域福祉活動計画の肝、地域福祉活動推進計画の見直し目標については「多様な交流の場づくりを進める」「幅広い層が地域福祉の担い手になる」「困ったときに助け合える地域・福祉サービスを担う」という3点が重点目標となる旨の説明を行う。</p> <p>委員から出た主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の担い手の高齢化が課題である。そのため、支え手と受け手が上手く循環するような支援が必要となるのではないかな。 ・現在、7期の介護保険事業計画に向けて市でも検討中である。そのため連携し、整合性のとれた計画を作成したい。 ・今年6月に社会福祉法が改正され、第4条「地域福祉の推進」の内容も増した。そこでこれまでのサロン、事業は領域ごとに分かれていたが、今後は、全世代全対象型の拠点を作りながら福祉のまちづくりを行っていくべきではないかな。 ・1つの地域の中に、同じ機能を持ちながらも利用対象が異なる機関が増えてしまっている。そのため、包括的な支援が行えるように作り変えようという国の動向も含めた形での目標にしていくと良いのではないかな。 ・3つの重点目標に優先順位はあるか。また、3つを分解し小項目を設けた方が有効な意見が得られるのではないかな。 <p>(2) 調査方法の検討について 社協事務局より、前回第1回目の策定委員会で意見が出された1カ所での意見集約との意向を踏まえ、11月に社協フォーラムを開催したいとの提案を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム・座談会の目的は4点 <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期実施計画の実施効果の把握 2. 地域・住民の方々における福祉課題の明確化 3. 新たな福祉ニーズの把握 4. 社協事業の普及啓発 	

- ・フォーラム内容について
平成 29 年度富谷市社協地域福祉フォーラム
日時：11 月 25 日（土）10：00～12：30 場所：富谷市成田公民館

これまでのアンケート調査を変更し、集合形式での意見聞き取りとする。1 部を全体会（基調講演）、2 部を分科会として実施する。

3 つの重点目標や社協の長期計画の 4 つの柱についての報告を行ってもらい、議論を通じて住民の意見を求めたい。住民の思いを計画に反映したい等、事務局より実施予定日の提示と説明がなされる。

- ・座談会内容について
対象候補地区：二ノ関町内会・日吉台三丁目町内会・明石台第六町内会
方法：役員会等の場での社協事業についての意見交換、今後の地域福祉への展望等
調査期間：平成 29 年 11 月～12 月

委員から出た主な意見は以下のとおり。

- ・フォーラムの実施時間を変更した方が良いのではないか。
- ・対象者に一般市民は求めないのか。市民に対する PR や声掛けが重要ではないか。また、申込や参加の呼びかけについて、どのような方法を選定するか。
- ・開催にあたり策定委員会には何らかの役割をつけてほしい。

(3) 今後の委員会スケジュールについて

次回の委員会日程について

第 3 回策定委員会

日時：11 月 7 日（火） 14：00～ 場所：富谷中央公民館

(4) その他

座談会の実施候補地区は策定委員が委員会に所属していることから選定した。座談会の日程等の詳細については、代表者の方と個別に相談し、次回の策定委員会で報告するとの説明がなされる。

会 議 報 告 書

平成29年11月15日

日時及び場所	平成30年1月11日(木)午後14時00分～ 富谷中央公民館 研修室
出席者	草野昭徳・内ヶ崎清子・大川明雄・浪越 茂・清原慶・豊田正利・西塚国彦・ 馬場弘幸・那須正行・佐藤政悦・戸嶋さち・相澤美和・安積春美 (策定委員12名) 欠席者：大堂英雄・大澤正之(策定委員2名) 奥山吉信・佐々利春(社協事務局2名)
件 名	第3回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 福祉フォーラム概要説明について 開催要項に基づき説明を行う。 基調講演として、テーマ：「これから求められる地域福祉のあり方とは」とし、東北文化学園大学医療福祉学部長豊田正利氏にお願いを行う。つづいて、社協事務局より今回の見直しの概要について説明を行い、分科会へと別れる。分科会は【社協が地域の為に出来ること～地域の声をお聞かせください～】とし、社協や地域で行われている様々な福祉事業やサービスについて、みなさんとグループに分かれて、事例発表意見交換を行います。地域の身近な課題について、「見守る」ことや「協力し合う」ことに向き合い、関係機関と住民との関わり方や連携の大切さを、会場の皆さんと共に考えることとする。テーマについては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 住民参加による福祉のまちづくり 2 共に支え合う福祉のまちづくり 3 安心して暮らせる福祉のまちづくり 4 安定した地域福祉のまちづくり とし、事例発表を行う。 <p>(2) 福祉フォーラムに向けての役割分担について フォーラムについては、社協の理事及び策定委員の方々に、当日の従事協力をお願いすることとする。役割については、策定委員については、分科会の4ブースの取りまとめを中心をお願いすることとし、不足部分を理事及び職員で補う形とする。フォーラムまで2週間しかないため、4ブースに分かれ発表内容の調整及び打ち合わせを行う。</p> <p>(3) 今後の委員会スケジュールについて 今後については、11月24日に前日準備を行い、当日のフォーラムに臨むこととする。</p> <p>(4) 閉 会 豊田 正利 氏</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>	

会 議 報 告 書

平成30年1月25日

日時及び場所	平成30年1月11日(木)午後14時00分～ 富谷中央公民館 研修室
出席者	草野昭徳・内ヶ崎清子・大川明雄・浪越 茂・大童英雄・豊田正利・西塚国彦・ 馬場弘幸・那須正行・佐藤政悦・戸嶋さち・相澤美和・安積春美 (策定委員12名) 欠席者:清原 慶・大澤正之(策定委員2名) 奥山吉信・佐々利春(社協事務局2名)
件 名	第4回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 平成29年11月25日(土)地域福祉フォーラム開催の報告について 東北文化学園大学 医療福祉学部長 豊田正利氏よりフォーラム総括について 当日は学生達も参加しましたがこれほど規模の大きなフォーラムを富谷市が行ったという 事でビックリしていました。参加頂いた市議会議員の方よりフォーラム開催についての喜 びのメールが届きました。行政と民間・市民一体となつてのフォーラムで大変意義があつ たと思います。市民の皆様かの意見をいかに盛り込んでいくかがこれからの課題だと感じ ます。</p> <p>各分科会の評価説明・報告を行う。</p> <p>第1分科会→安積氏「住民参加による福祉のまちづくり」 ふれあいサロンを通して高齢者を支援していく 居場所づくりであり一人一人の役割を創出することの大切さ</p> <p>第2分科会→豊田氏「共に支え合う福祉のまちづくり」 情報共有の必要性。情報発信の工夫の必要性 新たなボランティアの形の必要性</p> <p>第3分科会→西塚氏 「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 社協の目的や内容を説明して住民に知ってもらう事ができた 住民の方々の生の声を聴くことができた(家族介護のお話) 住民のニーズを社協として活動計画に取り込むのが課題だと思う</p> <p>第4分科会→佐々氏 「安定した地域福祉のまちづくり」 社協の活動内容などを理解されていないのがいまだに多いと感じた。 社協だよりで集合写真ではなく活動風景を掲載して欲しい、字が小さ くて見にくい事が改善すべき点である</p> <p>各分科会のアンケートを基に説明、報告を行う。</p> <p>第1分科会…サロン活動は自分自身も地域の方と楽しむ場所になっている 担い手(支援者)の不足。他の地域の情報を聞きたい</p> <p>第2分科会…ボランティア講座・地域の情報・実情の把握。情報提供をもっとして欲しい ボランティアセンターの登録の在り方。登録方法の見直し 町内会活動への支援になることを取り上げて欲しい</p> <p>第3分科会…高齢者中心のサービスが多い。福祉サービスは特別な人のものだと思われがち 外出移送支援・施設運営の期待・地域包括支援センターとの連携が求められる</p> <p>第4分科会…福祉ニーズも年々変わる。会費徴収の在り方。活動する人が固定されている 社会福祉協議会は活動を理解してもらう為に活動啓発しながら1,000円の会費 の使われ方も明らかにしていく必要が求められる</p>	

委員からのフォーラムへの感想は以下のとおり

・戸嶋委員

フォーラムで影響を受け、私も「日だまりカフェ」を運営、開催しました。会費 100 円でお昼ご飯は持参でお喋りの場所を提供。

・浪越委員

第 3 分科会に参加して福祉サービスに関心のある方が多いと感じた

・馬場委員

第 2 分科会に参加。住民参加の福祉の街づくりで、福祉の役割の大きさを感じた。住民を繋げるという意味では人が集まる音楽会やダンスをやったらどうか。フォーラムの時間が短いと感じました

・相澤委員

なぜフォーラムを開催したのかという趣旨を基調講演で豊田先生より方向性の説明があり大変良かった。住民の生の声を聞けたと思います。自分たちの課題を見直す事が出来て良かった

・大童委員

大変有意義でした。先生の基調講演で「福祉の在り方」の思いが伝わってきました。回を重ねて開催する必要があると感じました。社協のアピール方法や発信の仕方が大切であると感じた。

又、第 2 回の福祉フォーラムの方向性は前向きに検討することとする（全員一致）

(2) 福祉座談会報告について

日吉台三丁目地区（那須会長）

12/9（土）に開催された座談会の内容について説明・報告

- ・約 20 名の参加。今までは地域福祉への関心・理解がなかったので大変良かった若い人への啓発活動の重要性を感じました
- 町内会館や空き家等を活用して居場所づくりについて意見がありました。

志戸田・二ノ関地区（佐藤会長）

12/11（月）に開催された座談会の内容について説明・報告

- ・約 30 名の参加。志戸田は「ゆとりすと」などの基礎知識があり活動も行われている。二ノ関地区は地域福祉・社会福祉に知識や興味がない人が多い実状でした
- 座談会開催で知識や思いが伝わってきてとても良かった
- 集う場所、利用者の交通手段の確保が重要点である（有償送迎・移送サービス）
- 立派な活動ではなくても自分たちが出来る活動を今後やっていきたい

座談会の感想

大川副会長…「助けられるより、助ける人になりたい」福祉の担い手が考えるべき事であると感じました

佐々次長 …高齢者対策→来られない方へのアプローチ方法が課題である

福祉教育→東日本大震災後は命の大切さも取り入れながら講座を行っています
地域の居場所づくり→空き家の利用での街かどカフェなど社協としても支援していきたい

外出支援→高齢者の交通手段で市民バスでは補えない隙間の支援を社協がどのように参入できるのか検討していきたい

(3) 計画の方向性について

実施計画事業評価体系図（案）を使って事務局より説明。
改善起案→課題整理・方向性→実施計画の方向性を考える。

<基本目標 1>

- ・ 広報活動の充実…LINE、SNSの活用。宮城県内ではLINE活用の事例なし
県内でいち早く情報伝達を発信していきたい
健康センター内にある掲示板を活用して情報の発信をしていく
- ・ 福祉教育活動の充実…福祉教育推進校の情報交換会（研修会）を教員やPTAの方々
を交えて行って行きたい
- ・ 交流の場、機会づくりの推進…2人暮らし以外の交流会事業の実施、検討
異世代間交流事業の実施
- ・ 地域の拠点づくりの支援…社協独自の居場所づくりの創出・検討
空き家を活用しての活動（町内会等）への支援
企業の社会貢献を活用しての連携事業運営

<基本目標 2>

- ・ ボランティアセンターの在り方…分野別、登録別での登録方法の見直し
有償ボランティアの実施検討
生活支援サービスとの連携
- ・ 地域福祉活動の人材確保と育成…大学と連携してのボランティア事業協働の実施
地域包括支援センターと連携して人材発掘

<基本目標 3>

- ・ 総合相談支援（権利擁護の強化）…日常生活支援事業（まもり一歩）基幹的運営の検討
- ・ 福祉のニーズとサービスの充実…外出支援（移送・有償サービス）の検討
市民バス等の絡みも考慮しながら検討・協議したい

<基本目標 4>

- ・ 地域福祉活動推進計画の進捗管理…富谷市社協地域福祉フォーラムの開催・継続
- ・ 運営・財政基盤の強化…2か所の指定管理制度の継続運営（5年毎で再申請が必要）
会費制度の必要性・理解を得る事が大切
- ・ コミュニティソーシャルワークの機能の充実…社協有資格者職員の専門性を活かした事業の参画

主な意見は下記のとおり

- 豊田氏… 9月の改正により地域包括支援センターの機能の強化の方向性がはっきりしています。高齢者領域と障害者領域の2つの領域が一体化されます。
同じ目的ではあるが、各機関がバラバラの研修会が実施されているのが現状です。
これでは住民の方々が混乱してしまう。そこで社協が中心となり各機関と連携と協働を図りコーディネーター役としての機能が求められています。
基本目標2の地域連携・協働・ネットワークの促進（地域福祉活動ネットワークの構築）は現状維持ではなく改善・強化し更に力を入れるべき課題だと考えます
- 事務局… 社協として独自に計画に取り入れ、その後、連携・具体化に向けて検討していきたいと思えます

浪越氏… 基本目標 1・地域教育活動の充実で発達障害や自閉症・介護分野の基礎講座などは無駄に社協だけが背負うのではなく、専門機関と連携を図りながら一緒に負担なく数多くこなすことが出来るのではないのでしょうか
ボランティアの人材養成ですが、キーマンが学生であると考えます。
まずはどんなボランティアを必要としているのか、どんな方がボランティアの登録をしているのかを整理したうえで進めた方が良いと思います。

事務局… 社協だけではなく企業・事業所と連携しながら共に手を取り進めて行きたいと考えています

安積氏… 基本目標 2 の有償ボランティアの検討ですが、有償と無償の線引きの難しさもあるので慎重に考えた方が良いと思います。
事務局の体制の整理から自分たちの人材育成は大変良い事だと思います

事務局… 現在は配食ボランティア 1 日 500 円の交通費（ガソリン代）です。
その他はほとんど無償でボランティア活動していただいているのが大半です。
ボランティアポイントの検討や金額等など調査して有償ボランティアの在り方を考えていきたと思います。
事務局体制の整理ですが、社協職員も専門性を持った福祉の担い手という形でいきたいと考えています。社協は福祉の専門集団であることを強化し、一層、研修・人材育成などから専門性を磨いていきたいと思っています。

(4) 今後の委員会スケジュールについて
次回の委員会日程について

第 5 回策定委員会

日時：2 月 1 5 日（木） 1 4 : 0 0 ~ 場所：富谷中央公民館

2 月上旬に素案として郵送し、意見を取り込み修正した上で 2 月 1 5 日に素案として提案

第 6 回策定委員会

日時：3 月 1 5 日（木） 1 4 : 0 0 ~ 場所：富谷中央公民館

2 月 1 5 日の策定委員会の協議を加え、最終方針として決定し、4 月からの運用

(4) その他
特になし

(5) 閉 会 豊 田 正 利 氏

以 上

会 議 報 告 書

平成30年2月20日

日時及び場所	平成30年2月15日(木)午後14時00分～ 富谷市福祉健康センター
出席者	草野昭徳・内ヶ崎清子・大川明雄・浪越 茂・大童英雄・豊田正利・西塚国彦・ 清原 慶・那須正行・戸嶋さち・相澤美和・安積春美、(策定委員11名) 欠席者：大澤正之・佐藤政悦・馬場弘幸(策定委員3名) 奥山吉信・佐々利春(社協事務局2名)
件 名	第5回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 計画案の審議について</p> <p>事務局より第4回策定委員会についての報告を会議録に基づき行う。 計画の策定・推進計画内容について資料を基に説明・報告を行う。 富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画についての概要は以下のとおり。 委員から出た意見は、</p> <p>「多様な広報活動の展開(広報誌・HP・SNS等)(1ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報活動の実施でSNSの検討・必要とあるがどの世代が活用して、メリットは? ● あくまでも情報伝達の手段であるので、SNSだけに捉われない方が良いと思う。 ● 先進的な活動の中に入れて大きく捉えて方が良いと思う。 <p>「地域での居場所づくりの支援」(3ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域での居場所づくりの空き家の活用は賃借の問題から様々な問題が生じてくる。 ● 行政でも空き家状況の調査はしているが、あくまでも地域資源の把握ということなので空き家に限定せず、町内会館や公民館の活用が良いと思う。 <p>「社協福祉座談会の実施」(1ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域座談会と出前講座の違いは?地域座談会として統一するのではなく分けた方が良いのではないか。 ● 座談会は10年間でローテーションを組んで計画する必要があるのではないか。 市内45町内会があるが、全町内会で開催するには合同開催や公民館単位での開催も良いと思う。サイクルの検討も必要だと思います。 <p>「コミュニティソーシャルワーク機能の充実」(12ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職員のスキルアップはとても大切である。役員研修の必要性も感じます。 <p>「有償ボランティア・ボランティアポイントの検討を進める」(4ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長い目で見た時に無償だけでは進められなくなっている。配食ボランティアも不足。 ● 地域福祉フォーラムで学生から出た若い方からの貴重な意見なので検討を進めるといふ形で良いと思います。 <p>「次代を担う若年層ボランティア活動の推進や生活支援サービスとの連携を図りながら、人材の掘り起こしを行う」(5ページ)</p> <p>「高校や大学のボランティア部門と連携しながら、次世代のボランティア育成に応えます」(6ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動を重要視するのであれば6ページだと思うが、類似した感じなので削除ではなく、整理した方が良いと思います。 	

- 大学としては既に地域連携という形でボランティア活動に登録・活動していますので、ボランティアの養成とは少し違う。ボランティアセンターとの近隣の学校と連携を図るという捉え方でいいのではないか。
- 地域福祉活動＝ボランティアではないのですか？
ボランティア活動をする人を育成して地域福祉活動に繋げていけば良いのではないのでしょうか。
- ボランティアは自主的・無償・社会連携の中で社会貢献が求められている時代になっています。意味が広いので福祉だけに捉われない方が良いと思います。

「多様な組織・団体とのネットワークの構築」(7ページ)

- 「幅広い関係者」→企業・包括センター・福祉事業所など具体的に明記した方が良いのでは。地域福祉の一環で企業も積極的に参加してくれているので良いと思う。
- 「ボランティアセンター運営委員会の中で活動のネットワークについて協議を進めながら、地域福祉活動が円滑に行えるよう社協がコーディネートを行います」とも分かりにくいので文章の整理が必要ではないでしょうか。

「権利擁護センターの充実強化」(9ページ)

- 日常生活自立支援事業(まもり一ぶ)の掲載は県社協の事業を委託しているもので、受託事業を丸ごと請け負っているのではないので、役割・役目の記載ならこの書き方では違うと思います。むしろ富谷市独自の自立支援事業をたてるべきではないでしょうか。

「高齢者支援事業の実施」(9ページ)

- 訪問型サービスについては、これまでの社協へ委託ではなく、住民主体の生活支援員のグループを富谷市が助成する形で一般介護予防の通所型サロンサービス・身体介護を共わないサービスを行う予定です。
- 事業は富谷市の事業であり社協の事業ではないので、受託事業であり丸ごと請け負うのではないので書き方が違うのではないのでしょうか。

「社会福祉協議会主体事業の調査検討」(12ページ)

- 「補助金や委託事業に頼らない独自の社協事業展開を目指していきます」記載すべきか？
社協の独自事業は割合としては3割程度である。
- 委託事業に人件費は含まれますか？→富谷市からの委託事業は人件費も含まれます。
- カテゴリーは違うが社会福祉法人として公益事業をすべきなので何をするのか記載した方がよいのではないのでしょうか。

事務局 3月には今回の意見を加え修正し、計画書として答申いたします。
4月には製本・印刷予定です。

冊子の作成について(300部程度作成予定)

- 冊子にする際には、関係の写真も盛り込んで作成すると思う。
- 長いスパンで考え、年号ではなく西暦で出した方がよいのではないのでしょうか。

(2) 今後の委員会スケジュールについて
次回の委員会日程について

第6回策定委員会 場所：ベルサンピアみやぎ (バスの運行を予定しています)
日時：3月15日(木) 16:30～ 策定委員会
17:30～ 懇親会

(3) その他 特になし

(4) 閉会

以上

会 議 報 告 書

平成30年3月15日

日時及び場所	平成30年3月15日(木)午後16時30分～ ベルサンピアみやぎ
出席者	草野昭徳・内ヶ崎清子・浪越 茂・大童英雄・豊田正利・佐藤政悦・清原 慶・ 那須正行・戸嶋さち・相澤美和・安積春美・富田雄介(策定委員10名) 欠席者:大川明雄・大澤正之・西塚国彦・馬場弘幸(策定委員4名) 奥山吉信・佐々利春(社協事務局2名)
件 名	第6回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 計画案の確認について</p> <p>事務局 第5回策定委員会について会議録に基づき報告</p> <p>事務局 計画の策定・推進計画内容について第5回策定委員会の訂正・修正箇所の説明を資料に基づきに報告</p> <p>事務局 富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画10年計画についての訂正・修正箇所の報告</p> <p>安積委員より 行政との連携強化の事業についての説明</p> <p>基本目標1-(4)地域コミュニティづくりの展開</p> <p>①地域での居場所づくりの支援(14ページ) 街かどカフェ・どんぐりの森活動については市の保健福祉計画と整合性を取って計画されているものです。</p> <p>②ゆとりすとクラブ・サロン等の支援(15ページ) 市の事業ではあるが、社協が後方支援する、後方支援とは何か?相談・助言・助成と明記されています。</p> <p>基本目標2-(1)ボランティアセンターの再構築</p> <p>①ボランティア枠組みの構築(16ページ) 富谷市の総合計画に『市民協働(互助)』ポイントにおいて事業が進んでおります、新たなボランティア分野の開拓は情勢に合った開拓の必要性も感じました。</p> <p>③ボランティアの育成(17ページ) 生活支援サービスとの連携は介護保険法の改正で家事支援のホームヘルプサービスが再構築されて市の方で行います。3年間の社協への委託を経て、生活支援員への活動の促進などから生活支援員(ボランティア)の養成講座が取り入れられます。</p> <p>基本目標2-(3)多様な組織・団体等とのネットワークの構築(19ページ)</p> <p>③地域包括支援センターの役割が大きくなってきていて、市では市直営の3か所ある生活圏域支援センターを平成30年度中に1か所を委託による運営に変更されます。保健福祉総合センターは市全体をみるセンターとして拡充させます。</p>	

基本目標 3- (1) 総合相談支援・情報提供活動の強化

①相談体制の充実強化 (20 ページ)

地域包括支援センターにおける地域ケア会議は地域課題について協議体をもっていますので社協としての「ネットワーク」に繋がってきます。

基本目標 3- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

①高齢者支援事業の実施 (21 ページ)

介護予防・日常生活支援総合事業がサロン通所型サービスと生活支援型訪問サービスに分かれます。サロン型通所サービスは「よりあい」として再構築されて、社協に委託されます。

④交通弱者の為の外出支援の調査検討 (22 ページ)

富谷市としては交通弱者対策としてこれまでは「とみばす」の事業を展開してきましたが、更なる交通弱者の方への対策として平成 30 年 10 月よりタクシーチケット助成の事業を計画していますが、市ではカバーできないすき間の支援の検討として社協に参入してもらい、市の企画部とも連携をとり調査検討してもらいたい。

豊田副委員長より富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定について調査・検討についての感想を述べる。

(2) 地域福祉活動推進計画答申について

内ヶ崎委員長より答申を申し上げる

草野会長より答申へのお礼

(3) その他 特になし

(4) 閉 会

以 上

会 議 報 告 書

平成29年12月13日

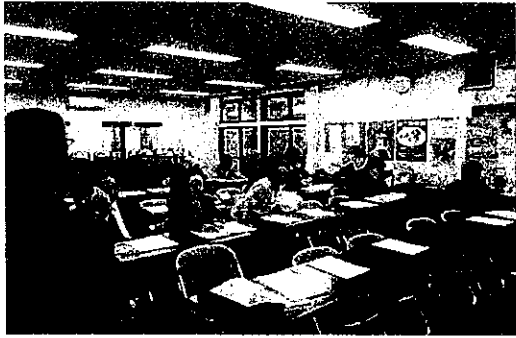
日時及び場所	平成29年12月9日（土）午後16時00分～17時30分 富谷市日吉台三丁目会館
出席者	社協会長：草野昭徳、社協副会長：内ヶ崎清子、大川明雄 策定委員：西塚国彦、事務局：奥山吉信、佐々利春
件名	富谷市社会福祉協議会福祉座談会 内容（日吉台三丁目地区）
内 容	
<p><協議内容></p> <p>1 那須正行町内会長あいさつ・草野昭徳社協会長あいさつ</p> <p>2 社協より説明「地域福祉って」</p> <p>ご近所関係の希薄化から見られるように、少子高齢化を迎える日本にとっては、ますます互助・共助の関係性が重要となっている。地域活動には、人材のキーパーソンの発掘や社会資源の活用及び地域包括ケアが重要な役割となることを説明する。これからの福祉は、困っている人を助けるだけでなく、地域社会の活性化のためにいかにして福祉サービスをつないでいくかが大切となっている旨を説明。</p> <p>・また、今後の座談会において、お聞きしたいポイントとしては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域でどんな活動を行っていますか ② 地域での活動の問題点は何ですか ③ 社協にバックアップしてほしいことは何ですか ④ 社協へのご意見をお寄せ下さい <p>3 福祉座談会・・・主な意見は以下のとおり。</p> <p>阿部さん ・地域福祉及び社会福祉それぞれの意味は何か</p> <p>佐々次長 ・地域福祉は人と人がつながり合い助け合うことだと考える。社会福祉は、制度にのっとなって、福祉事業を展開することだと考える。</p> <p>阿部さん ・地域福祉と社会福祉はどちらが言葉の性質上どちらが上位に位置づけられていますか。</p> <p>西塚委員 ・地域福祉は、地域共生社会における重要なキーワードとなっておりまして、どちらが上位ということはなかなか難しい。しかし、社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に位置づけられているとおおり、「地域福祉の推進」が法的に位置づけられているため、そのような役割を主体的に担わなければならないというのは全国的な見解としてあります。</p> <p>阿部さん ・それでは、富谷市の地域性についてお伺いします。富谷市は現在「高齢社会」ですか「高齢化社会」ですか「超高齢化社会」ですか。見解をお伺いします。</p> <p>佐々次長 ・富谷市は宮城県内で最も高齢化率が低い地域であります。18%の高齢化率となっておりますので、「高齢社会」だと思います。また、今年度年少人口が初めて老齢人口を下回ったことから高齢人口だと考えています。</p> <p>阿部さん ・私は、高齢化社会ではないかと考えています。人工的な占める割合からすると、これからますます高齢化社会が加速するのではないかと考えています。そのような地域性が判断できるようにならなければこれからの社協はいけないと考えますし、私たち座談会に何うテーマももう少し絞りやすくしていただけると答える私たちも良かったかもしれません。それでは質問を変えます。「福祉」とは？</p>	

- 佐々次長 ・福祉というのはイメージがずいぶん広いことだと考えています。以前は、先程も述べた通り、困っている人に手を差し伸べるのが福祉活動だと思っていましたが、今は地域が活性化するために福祉はどう関わるべきかが議論されており、その点においても、日々変化していくものだと考えています。
- 阿部さん ・そうでしょうか。私は福祉というものはいたってシンプルで普遍的なものと考えています。福祉は、「愛すること」ではないでしょうか。そういう意味においても、福祉というのは常に不変と考えています。
- 佐藤さん ・2点お伺いします。1つ目は一人暮らし、二人暮らしに対する対策はどのように社協として行っていますか。二つ目は学校での福祉教育について社協としてどのような関わりを持っていますか。学校への指導・助言等は行えるのですか。
- 佐々次長 ・一人暮らし、二人暮らしについては、現在富谷市の受託事業及び社協事業で実施している会食会や二人暮らし対象の小旅行があります。事業に参加できる方は問題ありませんが、来られない方へのアプローチが課題となっております。また、福祉教育については、学校への総合の学習の中で、福祉体験学習を通じて、障害についての理解を深めることを目的に行っています。ここ最近では、東日本大震災の教訓を生かし、命の大切さを学ぶ授業内容も取り入れながら、児童・生徒達が地域で出来ることについて考えるきっかけにしています。
- 日吉台住民 ・広報に関しても、見ている方は見ている。情報の発信の仕方を工夫していただければ、周知啓発は図れると考えていますが、いかがでしょうか。
- 佐々次長 ・社協もいろいろな形で情報発信を行っていますが、まだまだ伝わっていない部分が多いのも事実であります。これらの意見を含めて今後の計画において、情報発信のあり方を見直していきます。
- 佐藤さん ・日吉台公民館があるが、距離的な問題から利用する頻度が減っているという情報があります。それぞれある町内会館や今富谷市でも議論になっている空き家を使っての「居場所づくり」「サロン活動」が今後必要と思われそうですがいかがでしょうか。
- 内ヶ崎副会長 ・居場所づくりで言えば、市で行っている「街かどカフェ」が挙げられます。週に1回会館に集まって、コーヒーを飲みながら相互交流を図るというのが、主な目的となっています。多様な関係者の方がカフェに参加していただいております。互助・共助活動の一つになればと考えています。また、場所についてはカフェも当初は空き家の活用を視野に検討した経緯があります。なかなか土地の問題や金銭的な問題で実現が難しい部分もあったとお聞きしています。
- 佐々次長 ・社協としても「地域の居場所づくり」は緊急の課題として挙げられています。今現在社協だけでなく、住民主体でサロン活動を行っている団体も数多くありますが、これからはこのような拠点を増やしていくことがとても大切です。宮城県社協でも、空き家を改修して、富ヶ丘や鷹乃杜の地域にグループホームを開設しています。そのような部分も今後調査を進めていきたいと思っております。
- 日吉台住民 ・富谷市だけの情報ではなくて、全国的な先駆的な情報を網羅した広報づくりもお願いいたします。
- 佐々次長 ・西日本の社協では実際空き家の活用やサロン活動も活発になさっている社協もあるのでその辺を調べて掲載していきたいと思っております。

大川副会長

・様々なご意見ありがとうございます。以前読んだ本の中で、人は愛するより愛されることだとの著書を目にしました。今日いただいた意見を基に、新たなサービスの必要性を感じますが、福祉の礎となっている地域の皆さんの意見を参考にさせていただきます。ありがとうございました。

以上



座談会風景①



座談会風景②



座談会風景③



座談会風景④



座談会風景⑤



座談会風景⑥



座談会風景⑦



座談会風景⑧

会 議 報 告 書

平成29年12月13日

日時及び場所	平成29年12月11日(月)午後18時00分～19時30分 富谷市志戸田会館
出席者	社協会長：草野昭徳、社協副会長：内ヶ崎清子、社協理事：田村武暢 策定委員：豊田正利、事務局：奥山吉信、佐々利春
件名	富谷市社会福祉協議会福祉座談会 内容(志戸田地区・二ノ関地区)
内 容	
<p><協議内容></p> <p>1 堀籠太一町内会長・佐藤政悦町内会長・草野昭徳社協会長あいさつ</p> <p>2 社協より説明「地域福祉って」 ご近所関係の希薄化から見られるように、少子高齢化を迎える日本にとっては、ますます互助・共助の関係性が重要となっている。地域活動には、人材のキーパーソンの発掘や社会資源の活用及び地域包括ケアが重要な役割となることを説明する。これからの福祉は、困っている人を助けるだけでなく、地域社会の活性化のためにいかにして福祉サービスをつないでいくかが大切となっている旨を説明。 また、今後の座談会において、お聞きしたいポイントとしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域でどんな活動を行っていますか ② 地域での活動の問題点は何ですか ③ 社協にバックアップしてほしいことは何ですか ④ 社協へのご意見をお寄せ下さい <p>3 福祉座談会・・・主な意見は以下のとおり。</p> <p>堀籠さん ・高齢化によって新しい役員の引受が問題になってくる。 早いうちに次の世代にバトンタッチして行きたいが担い手不足である。 以前自分が勤めていた富谷環境で従業員が安心して働ける様に、従業員が家族(高齢者・子供)を連れてきて働ける施設の設置を検討したことがあった。地域に合ったサービスが必要だと考えたからです。そこでサービスが受けれたり、民生委員さんが来たりボランティアさんが来たり社協もそのような多様な方々が来て集える場所をお願いしたい。また、役員の負担などから夏祭りを中止したが、社協の力を借りて復活できるようになればよりコミュニケーションが取れるのではないかと。社協と相談していきたい。</p> <p>佐々次長 ・担い手が負担になるようなら担い手探しも困難であり活動が停滞する。大学生・高校生・中学生に向けた福祉教育の部分に力を入れて地元の学生が地域のボランティア活動に目を向けてもらうような働きかけが必要。 ・「集いの場」ですが、公民館まで歩いて行けない人の為に、身近な場所に拠点を作る・地域の中に集いの場所探しが必要だと思われる。そこに社協の人・もの・お金・情報・資源をつなげればと考えています。</p> <p>岩間さん ・ゆとりすとサロン全体交流会(成田公民館で開催)が11月2日にあり、遠くでなかなか参加できなかった。バスも出ていたがバスに乗ってまで行く気にならなかった。中央公民館でさえ参加者が少ない。身近な地域で歩いて行ける場所を集みたい。ゆとりすととのサポーターさんは18名おり充実しています。</p> <p>佐藤さん ・二ノ関地区では子育てサロン・ゆとりすとサロンなど全然利用されていないのが実状です。 一人暮らし・二人暮らしが増加傾向にあり、小学生も6人くらいしかいない。</p>	

他の地域が支え合っている地域活動を目の当たりにして、二ノ関地区においてもやりたいが何をやったら良いのか分からない。社協の協力をもらいながら今後進めて行きたいと思っています。

- 佐々次長 ・社協＝市役所と思っている人が多い。役所と社協の違いも知られていない。若い人は社協の仕事は高齢者のサポートが主な仕事だと思われがちである。
・情報啓発が必要だと考えています。
・ご近所付き合いで困っている事などありますか？
- 高橋さん ・昔と違って近所付き合いが減ってきている。高齢者のみの世帯の増加。同居は少なく子供の育成会加入の10人未満。ゆとりすとサロンは2ヶ月に1回の開催で、50人くらいの参加があり歌を歌ったりして集っています。
- 佐々次長 ・社会福祉協議会の活動内容をご存知でしょうか？
子育てサロン・防災訓練の支援・学校の総合授業の福祉教育・高齢者の為のゆとりすとサロンの支援や小旅行のバックアップをやっています。
・社協へバックアップして欲しい事などはありますか？
- 志戸田住民 ・高齢者はほぼガラケイ（電話）なので、その場に行かなくても情報を収集できるので使い方を教えたかどうか？
- 菅原さん ・民生委員になって1年経ちますが高齢者は通院に困ってます。移動サービスは既に大郷町は開始されています。移動サービスについて富谷市社協はどのような考えがありますか？検討して欲しい。
- 佐々次長 ・市民バスの稼働率、路線の薄さから移動困難者が多数。しかし行政では隙間の為なかなか難しい。大郷町では既に有料サービスとして稼働しています。
- 草野会長 ・移動困難者はどこの地域でも抱えている。配食サービスのボランティアさんの移動の確保もかなり大変。配食サービスが縮小してきている町も出てきている。移送サービスと配食サービスとコラボしている地域もある。
目的は違うが他の団体と一緒にやってみる工夫も必要ではないか。
- 菅原民生委員 ・一般の方と移動困難者は全く違う。有償運送は色々な制度の壁があるが、道路運送法も緩和されてきているので仕組みを作って欲しい。
- 佐々次長 ・実際やっている社協もあるので調べていきたいと思っています。
- 堀籠さん ・高齢化と共に免許証の返還の問題が発生する。交通手段がなければ引きこもりになっていくのではないか。富谷市社協で地域性にあったサービスではないか。黒川病院からの4号線を歩いて帰ってきた方を見つけた事があるが途中で家がどこか分からなくなってしまった。旧地区は早急に必要だと思われま。
- 佐々次長 ・行政でもその部分は隙間になっていると思われま。調べて行きたいと思いま。
- 草野会長 ・黒川地区の懇談会でタクシー利用の案が出ているが調整にとても時間がかかり、民間輸送でないと出来ないらしい。国土交通省が絡むためかなり大変。アクセスの問題は早急に取組まなければならない問題だと市長とも先日話をしました。
- 奥山局長 ・大郷町や他の市区町村からも情報収集していきたいと思いま。

豊田先生

・社協事務局に苦言→お集まりの方が一つの方向に向いて教室方式である。この方法は一番意見が出にくい方法です。人間は人と話すときに相手の目を見て話す。膝を交えて話す事が大切です。(グループワークの必要性)

・地域の人付き合いがなくなってきた今が黄色信号です。

社会的孤立の始まりである。仙台市八木山南地域では以前は地域の中にあつたコープが撤退してしまった。今まではコープまで歩いて買い物に行った。そこでお喋りをしてコミュニケーションを取れる場になっていた。今では外出する機会もお喋りする事も減ってしまった。

・自分たちの地域で何が必要なのか・困っている事は何か見極める事。

・山形のある地域でさくらんぼの季節にはその期間だけ託児所が開設される地域もある。託老所ならぬサロンやカフェなど自由に集える場所の取組が始まってます。

・何が必要なのか、自分たちで出来ることは何か、立派な活動をしなくてもいい。自分たちで出来る活動で良い。

・地域の中の活動を推進していく為には、核となる人物・リーダーが必要です。本日お集まりの方々はリーダーです。

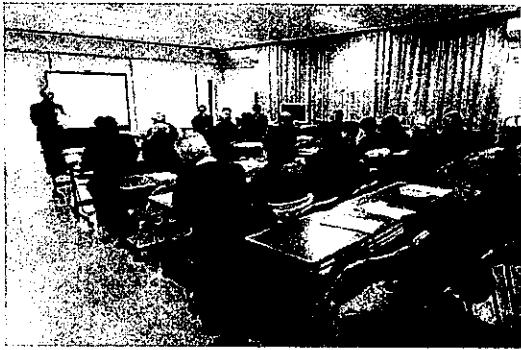
奥山局長

・先生に質問等はありませんか？

内ヶ崎副会長

・時代の流れと共に近所付き合いだけでは不十分になってきています。新たなサービスの必要性を感じますが、福祉の礎となっている地域の皆さんの意見を参考にさせていただきます。ありがとうございました。

以上



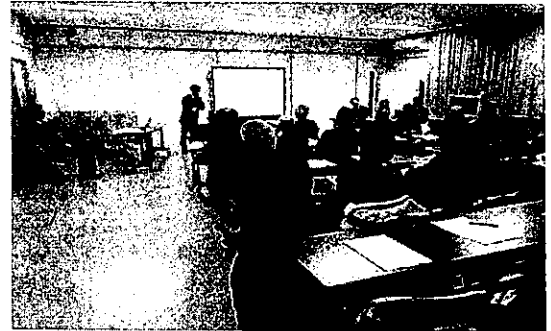
座談会風景①



座談会風景②



座談会風景③



座談会風景④



座談会風景⑤



座談会風景⑥

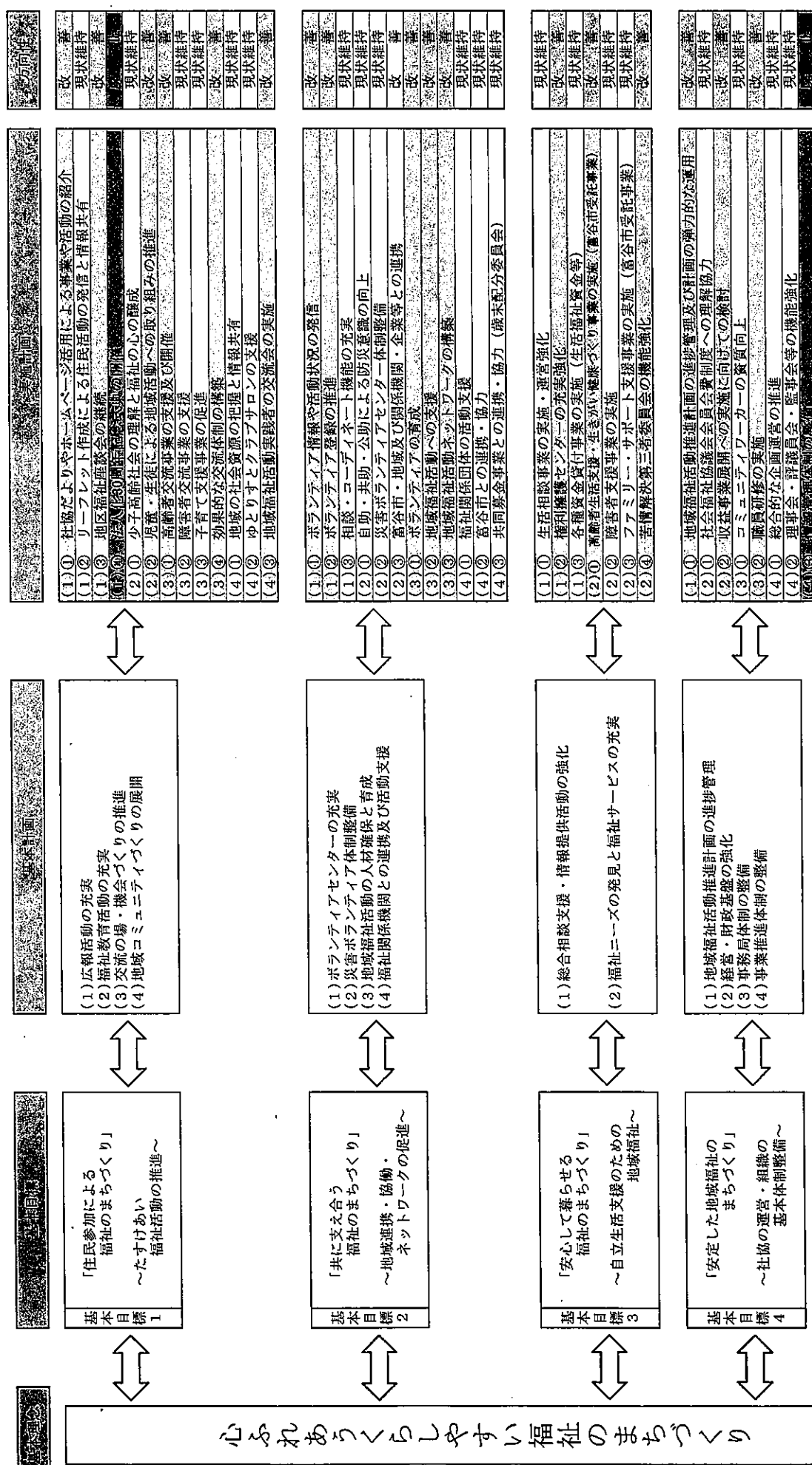


座談会風景⑦



座談会風景⑧

実施計画事業評価体系図



富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画の肝とは・・・
 <地域福祉活動推進計画の重点見直し目標>
 重点目標①多様な交流の場づくりを進める
 重点目標②幅広い層が地域福祉の担い手になる
 重点目標③困ったときに助け合える地域・福祉サービスを担う

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員 殿

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会
会長 草野昭徳

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画第二期計画策定諮問
福祉制度の変遷、住民意識の多様化等による生活様態の変化に伴い、福祉環境も大きく変化してきています。このような変化に的確に応えるためには、きめ細かな福祉活動の展開が急務であります。

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会設置要綱第1条の規程により、平成20年度～平成29年度の計画期間で策定された地域福祉活動推進計画（第一期）は、計画通りの進捗状況で推移しております。

この度、市制移行し、新たな福祉ニーズも増えてくる中、今後の社会福祉協議会の方向性を定めるべく、第二期計画の策定となりました。

なお、計画策定については行政計画との整合性を図り、次の諮問に基づき策定をお願いいたします。

- 1 策定は、平成29年7月4日から平成30年3月を目標に完了してください。
- 2 地域の概要と特性を明らかにし、現在、富谷市社会福祉協議会で実施している事業・サービスの見直し作業を行い、現状分析と課題を明確化し、今後、社協事業を推進していくためにどのような考え方で取り組むかを明らかにしてください。
- 3 策定は、第二期計画の策定を行うものとし、長期目標である基本理念・基本目標に加え、平成30年度～平成32年度までの後期実施計画（3ヶ年）の策定をお願いいたします。
実施計画期間 前期：平成30年度～平成32年度（3ヶ年）
- 4 計画には、広く地域住民の意見を取り入れたものが望ましいため、策定時にはその点も視野に入れながら行ってください。
- 5 計画を具現化する場合、財政的裏付けをよく考慮しながら策定作業を進めてください。

以上

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定について

答 申

平成29年7月4日付け、富社協第236号にて諮問された方針に基づき、社会福祉法人富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定事項について、慎重に調査及び検討を重ねた結果、別紙のとおり結論を得たので答申いたします。

平成30年3月15日

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会
会 長 草 野 昭 徳

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会
委員長 内ヶ崎 清 子

副委員長	豊 田 正 利	委 員	大 川 明 雄
委 員	浪 越 茂	委 員	清 原 慶
委 員	大 澤 正 之	委 員	大 童 英 雄
委 員	西 塚 国 彦	委 員	馬 場 弘 幸
委 員	那 須 正 行	委 員	佐 藤 政 悦
委 員	戸 嶋 さ ち	委 員	相 澤 美 和
委 員	安 積 春 美		

社会福祉法人富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 この委員会は、富谷市社会福祉協議会長の諮問に応じ、地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業等の見直しを図るため、富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、14人の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、社協会長が委嘱する。

- | | |
|---------------------------|----|
| (1) 社会福祉協議会理事 | 2名 |
| (2) 社会福祉協議会評議員 | 1名 |
| (3) 地域福祉活動者 | 3名 |
| (4) 学識経験者 | 2名 |
| (5) 社会福祉施設 | 1名 |
| (6) 町内会長 | 2名 |
| (7) 民生委員・児童委員 | 1名 |
| (8) 行政担当職員（教育部及び福祉部の関係課等） | 2名 |

3 委員の任期は、富谷市社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定終了時までとする。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置き、委員の互選によって選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が議長となる。

(費用弁償)

第5条 委員会には費用弁償として、別に定める規定により支給する。

第二期地域福祉活動推進計画策定委員会日程

日 程	名 称	経 過 内 容
平成29年 7月4日	第1回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱状交付について ○委員長・副委員長の選出について ○計画策定の経緯及び概要説明について ○今後の委員会スケジュールについて
8月29日	第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会事業評価について ○調査方法の検討について (アンケート・座談会等) ○今後の委員会スケジュールについて
11月7日	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉フォーラムに向けての役割分担 ○事前打ち合わせ
11月24日	フォーラム前日準備 (富谷市成田公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ○24日午後より会場前日準備 ○リハーサル、最終打ち合わせ
11月25日	社協地域福祉フォーラム (富谷市成田公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ○基調講演 ○話題提供 ○分科会、グループワーク ○アンケート、まとめ
12月	福祉フォーラム取りまとめ 福祉座談会	<ul style="list-style-type: none"> ○フォーラムでの意見集約 ○地域での福祉座談会を実施(2地区) (候補地区:日吉台3丁目 9日) 志戸田・二ノ関 11日)
平成30年 1月11日	第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○フォーラム・座談会調査結果報告 ○問題・住民ニーズ把握 ○方向性の確認(課題整理等) ○計画内容の検討について
2月15日	第5回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○計画の策定について ○推進計画内容の最終確認について ・内容構成、配布対象について審議
3月15日	第6回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉活動推進計画答申について
4月	地域福祉活動推進計画 第二期計画施行	<ul style="list-style-type: none"> ○第二期計画施行

用語解説

■ SNS

人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供するオンラインサービス。Web サイトや専用のスマートフォンアプリなどで閲覧・利用することができる

■ コミュニティ

住民が主体となり、お互いに支え合い、共に地域で幸せに暮らすことができるような地域社会の実現を目指し取り組んでいる活動を指す。

■ サロン活動

サロンとは、地域で高齢者や障がい児・者、子育て中の方が、生きがい活動と元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域の人同士のつながりを深める自主活動の場を指す。地域で交流の場をもうけることで住民の地域への関心を深め、近隣での助け合いを育む地域づくりを目指す。

■ ボランティアセンター

ボランティアセンターとは、社会福祉協議会内に設置されており、ボランティアの活性化を図る組織である。ボランティア情報の収集と発信、ボランティアコーディネート業務、ボランティアに関する研修の場や情報交換の場として機能している。

■ ボランティアポイント

ボランティアポイントとは、様々なボランティア活動に対して、新たな価値（ポイント）を付加するサービスであり、参加機会の創出や参加意欲の向上（新しい人材の発掘）の効果があり、継続的なボランティア活動（市民活動）への支援や活動のやりがい・楽しみなどを創出する取り組みである。

■ 生活支援サービス

在宅の高齢者が介護に頼らずに自立した生活ができるように支援するために、市町村が行う保健福祉サービスのひとつ。介護保険の円滑な実施を促進するために設けられた。

■ 災害ボランティアセンター

主に災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための組織である。センターにもいくつかの役割があり、各地で研修等が行われている。

■ 地域包括支援センター

高齢者の暮らしを地域でサポートするための拠点として、介護だけでなく福祉、健康、医療などさまざまな分野から総合的に高齢者とその家族を支える機関。

■日常生活自立支援事業

認知症や知的障害、精神障害の方など、判断能力が十分でない方の福祉サービス利用援助や日常金銭管理サービス、書類等の預りサービスを行い、地域生活を支援する事業。

また、本事業のサービスを超える支援を必要とする方については、成年後見制度の利用が必要となり、両制度間の連携促進が求められている。

■生活困窮者自立支援事業

生活困窮者自立支援制度は、失業、多重債務、ニート、ひきこもり、病気や障がいなどさまざまな要因により経済的に困窮し、また離職により住居を失う、又はその恐れのある方を対象に、住居や就労の機会の確保や家計支援等を行なうことで、生活の見通しがもてるよう相談支援を行なう制度である。

■介護予防・日常生活支援総合事業

市町村が中心となって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とすることを目指すものです。

■ファミリー・サポート・センター

お子さんの送迎や預かりなど、子育てを地域で支え合うことが出来るよう「子育ての支援を受けたい方（利用会員）」と「子育ての支援をしたい方（協力会員）」が会員組織で運営します。

■コミュニティソーシャルワーク（CSW）

コミュニティソーシャルワークとは、地域で起こっている、高齢、障がい、児童など分野にとらわれず、生活上の困りごとや悩みごとの相談をうかがいながら、解決に向けて本人や家族、相談窓口との調整役となることを指す。

■スキルアップ（フォローアップ）

技量・技能向上のこと。



社会福祉法人
富谷市社会福祉協議会

平成30年3月

〒981-3311

宮城県富谷市富谷西沢13

(富谷市福祉健康センター内)

TEL 022-358-3981 FAX 022-358-3512

URL <http://www.tomiya-shakyo.or.jp/>

E-mail tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp